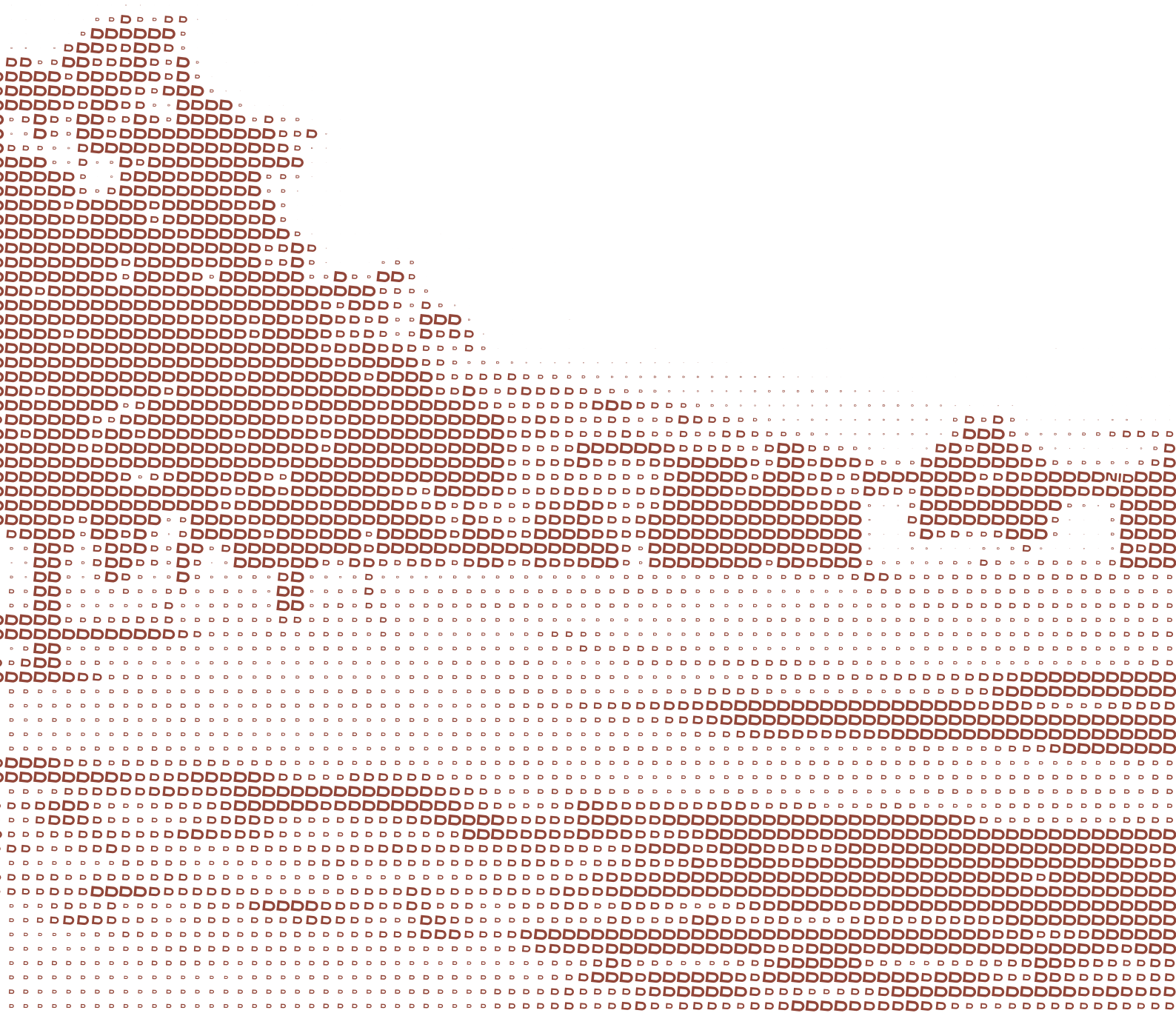
# 長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design
Guide to Liberal Learning

履修ガイド

2023



# 長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

## 履修ガイド2023
Guide to Liberal Learning

授業計画、成績評価基準などの各授業科目の概要（シラバス）は、
パレット、大学ホームページで確認することができます。

○パレット　　ログイン → 授業関連 → シラバス照会
○大学ホームページ　造形学部 → カリキュラム → シラバス

目　次


# 1
## はじめに
1－1　学長メッセージ …… 4
1－2　建学の理念 …… 5
1－3　『米百俵』と長岡造形大学 …… 5
1－4　シンボルマークとロゴタイプ …… 6
1－5　長岡造形大学の歩み …… 6
1－6　キャンパスが教材 …… 7

# 2
## 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針（2018～2022年度入学者）
2－1　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） …… 9
2－2　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 9
2－3　履修コース …… 10

# 3
## カリキュラムの教育課程（2018～2022年度入学者）
3－1　カリキュラム体系（2018～2022年度入学者） …… 14
3－2　授業科目・単位数・担当教員（2018～2022年度入学者） …… 22
3－3　進級要件・卒業要件（2018～2022年度入学者） …… 31

# 4
## 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針（2023年度以降入学者）
4－1　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） …… 33
4－2　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 33
4－3　学科紹介 …… 34

# 5
## カリキュラムの教育課程（2023年度以降入学者）
5－1　カリキュラム体系（2023年度以降入学者） …… 38
5－2　授業科目・単位数・担当教員（2023年度以降入学者） …… 40
5－3　進級要件・卒業要件（2023年度以降入学者） …… 46

# 6
## 授業について
6－1　授業期間および授業時間 …… 48
6－2　単位の修得 …… 48
6－3　休講・補講・集中講義 …… 49
6－4　出席の基準 …… 49

6－5　出席のとり方 …… 50
6－6　欠席 …… 51

# 7

## 履修の手引き

7－1　履修登録 …… 53
7－2　履修登録の時期 …… 53
7－3　履修登録の流れ …… 53
7－4　履修登録時の注意事項 …… 54
7－5　再履修と継続履修 …… 57
7－6　在学年限 …… 57
7－7　卒業見込証明書 …… 57
7－8　学芸員課程の履修 …… 58
7－9　教職課程の履修 …… 60
7－10　地域・社会連携系科目（学部共通第４区分）の履修 …… 62

# 8

## 試験と成績評価について

8－1　試験の種類 …… 64
8－2　成績評価 …… 66
8－3　成績の見方 …… 67
8－4　成績通知 …… 67
8－5　成績評価に対する異議申立て …… 67
8－6　留年 …… 68
8－7　履修指導 …… 68
8－8　授業評価アンケート …… 68

# 9

## 各種制度について

9－1　転学科制度 …… 69
9－2　既修得単位認定 …… 69
9－3　資格取得等による単位の認定 …… 70
9－4　数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて …… 70
9－5　本学以外での学修 …… 71
9－6　学修度チェック …… 73
9－7　学芸員課程履修者以外の学芸員科目履修 …… 74

# 10

資格について …… 75

# 11

各種同意事項について …… 83

# 1　はじめに

## 1-1 学長メッセージ

### 学修を通して気づく社会への挑戦を

今から29年前の平成６（1994）年に、長岡造形大学は国内唯一のデザインの専門大学として、地域の大きな期待のもと開学しました。時を重ね令和に移り変わり、この間に世界は大きな変容と進化を遂げてきました。そして更なる多様性と需要の拡大に真のデザイン力を求められており、長岡造形大学の教育内容は成熟と挑戦の時代を迎えています。

開学以来、「造形を通して真の人間的豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」この建学の理念を基に多くの先輩たちは、考えるデザイン力と実践する造形力を学び修得することを成し遂げ、社会に飛び立ち活躍を続けています。

そして本学は令和５（2023）年度入学生から新学科体制による教育課程をスタートします。また２年生以上は平成30（2018）年度教育課程を継続します。本学の履修ガイドには教育目標により設計された科目シラバスと、この目標を実現するための道標が網羅されています。４年間のカリキュラムを俯瞰し、各自の希望の実現を目指した履修計画を立て、卒業要件に必要な単位修得を組み立てることが重要です。

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）には社会の要請を的確に認識し、様々な課題に対して創造的な解決策を提示するための３つの力「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を教育目標として掲げています。３つの力をバランスよく得るために、教育課程編成及び実施の方針（カリキュラムポリシー）が科目編成されています。科目シラバスは、何に資する学びを得るか何を涵養できるかを記したものです。ですからこれを正しく読み解き、広い視野で履修計画を立て、個々の学びの目的につなげてください。

近年、デザインの領域は境界融合やシームレス化へと移行しています。それぞれの分野のポテンシャルを活かしながら、様々な分野・領域との接点から新たな結合が生まれ、未知の可能性につながっています。例えば、DXやAIに代表される進化するテクノロジーを理解し、デザインプロセスを用いることで、どのような明るい社会や未来をもたらすのか。ワクワクするのではないでしょうか。

そのためには、広くアンテナを張り情報を得たり、実際に人の気持ちに寄り添ったり、様々なコミュニケーションを行うことで問題や可能性についての「気付き」を持つことも必要です。

長岡造形大学での生活と学修を通して、多くの経験と知見を学びとってください。皆さんにとってこの１年間が実りある時間となることを願っています。

長岡造形大学　学長　馬場 省吾

■役職者紹介

学部長　渡邉 誠介
研究科長　小松 佳代子
副研究科長　松本 明彦
デザイン学科長　長瀬 公彦
プロダクトデザイン学科長　境野 広志
視覚デザイン学科長　徳久 達彦
美術・工芸学科長　中村 和宏
建築・環境デザイン学科長　佐藤 淳哉
地域協創センター長　金澤 孝和
地域協創センター副センター長　福本 塁、御法川 哲郎
文化振興センター長　金澤 孝和
キャリアデザインセンター長　長谷川 克義
附属図書館長　金澤 孝和
研究推進部長　金澤 孝和
研究推進副部長　福本 塁
教務部長　平山 育男
学生支援部長　長谷川 克義
入試部長　津村 泰範
広報プロジェクトチームリーダー　山本 敦

## 1-2 建学の理念

人々の価値観の変化やめまぐるしく動きつづける社会構造の中で、デザインのあり方は大きく変化し、その領域も大きく広がってきています。エレクトロニクス、情報通信技術、土木、建築、医療、福祉といったさまざまな分野でのめざましい研究成果は、デザインという創造行為を通じて初めて形を獲得し、人々の生活の中に還元されていきます。

新しい視点からデザインを総合的に探究していく人材の養成が今日ほど求められている時代はありません。

長岡造形大学は、「**造形を通して真の人間的豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する**」ことを建学の理念とし、新しい時代におけるデザインの実践的教育研究の場としてその役割を担うことを期するものです。

## 1-3 『米百俵』と長岡造形大学

山本有三の作品に『米百俵』という戯曲があります。昭和18（1943）年に出版され、大きな反響を呼びましたが、軍部から反戦戯曲だとして弾圧を受け、絶版・自主回収となった作品です。

……『米百俵』の主人公小林虎三郎は、文政11（1828）年に長岡藩士の子として生まれた。数え23歳のときに江戸に遊学。佐久間象山について学び、吉田寅次郎（松陰）とともに「象門の２虎」と並び称された。

長岡藩が戊辰戦争（1868年）によって焦土と化すと、虎三郎は藩の大参事に迎えられた。当時、藩の禄高は３分の１に減らされ、藩士たちは極貧の生活を強いられていた。そんな折、分家の三根山藩から見舞いの米百俵が送られてきた。藩士たちは、これで一息つけると喜んだ。ところが、虎三郎は、これで学校を建てることにした。そして「米をよこせ」といきり立つ藩士たちに向かってこう言った。「この米を１日か２日で食いつぶして何が残る。その日暮らしでは、長岡は立ち直れないぞ。国が興るのも、まちが栄えるのもことごとく人にある。食えないからこそ学校を建て、人物を養成するのだ。明日の長岡を考えろ、明日の日本を考えろ」

こうして明治３（1870）年、国漢学校が設立された。後年、ここからは解剖学の祖・小金井良精、東洋大学創立者・井上円了、東大総長・小野塚喜平次、日本洋画界の先駆者・小山正太郎、詩人･堀口大学、山本五十六元帥、司法･内務･厚生各大臣を務めた小原直などといった新生日本を背負う幾多の人材を輩出した……

長岡造形大学は、こうした『米百俵』の精神的風土をもつ長岡市が、新潟県の支援を得ながら公設民営方式（自治体が設置費用を負担し、開学後は学校法人による私立大学として運営していく方式）によって設立したもので、また、平成26（2014）年４月には公立大学法人化し、まさに平成の『米百俵』として新たな教育の理想を掲げ、文化や産業の発展を支え、我が国の教育研究の進展に寄与することを目指した大学です。

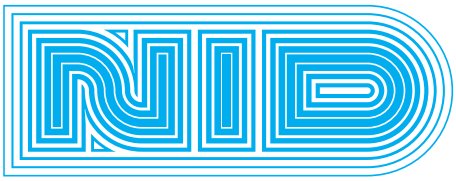
さらに、この米百俵の精神は、長岡市内の教育機関に生きづき、幼・小・中・高・大において伸び伸びと文武に取り組む環境が形成されています。平成30（2018）年にはNaDeC構想*を掲げ、これからの教育研究をリードしていく取り組みが始まっています。

＊NaDeC構想：長岡市、長岡商工会議所、市内高等教育機関が連携し、人材育成、産業振興を目指す取り組み。

## 1-4 シンボルマークとロゴタイプ

シンボルマークは、Nagaoka Institute of Design　のイニシャル〈ＮＩＤ〉をデザインしています。

〈N〉の中央のカーブとカラーの〈青色〉は、長岡を育くんだ信濃川を象徴し、平行線、平行曲線の模様は、長岡が誇る文化財〈火焔土器〉の模様を現代的に表現しています。そうしてできた形は、現代の〈文化カプセル〉であり、文化情報が長岡造形大学〈ＮＩＤ〉に集まり、〈ＮＩＤ〉の成果が世界に輪をひろげるようイメージしています。



公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

## 1-5 長岡造形大学の歩み

長岡造形大学は、「造形を通して真の人間的豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」ことを建学の理念とし、新しい時代におけるデザインの実践的教育研究の場として平成６（1994）年に開学しました。デザインを美術的な面からだけでなく、工学・情報・経済・環境などのさまざまな側面から総合的にとらえることで、デザインの新しい可能性を探求しています。

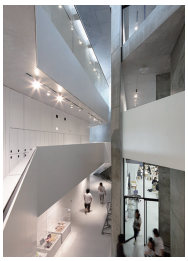
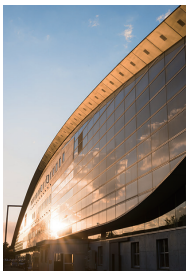
令和５（2023）年以降は、「デザイン」「美術・工芸」「建築・環境デザイン」の３つの視点からデザイン・アートを学び、社会のため、地球のため、そして未来のために新しい提案ができる人材を育成しています。

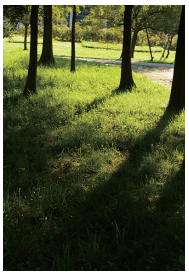
| | |
|---|---|
| 1994年４月 | 長岡造形大学開学（産業デザイン学科／環境デザイン学科） |
| 1998年４月 | 長岡造形大学大学院修士課程開設 |
| 2001年４月 | 長岡造形大学大学院博士（後期）課程開設 |
| 2005年４月 | 造形学部に視覚デザイン学科を開設、3学科体制に<br>（産業デザイン学科／視覚デザイン学科／環境デザイン学科） |
| 2006年４月 | 産業デザイン学科をものデザイン学科に改称<br>（ものデザイン学科／視覚デザイン学科／環境デザイン学科） |
| 2007年４月 | 環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科に改称<br>（ものデザイン学科／視覚デザイン学科／建築・環境デザイン学科） |

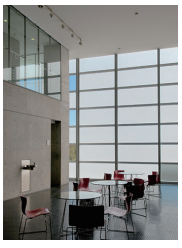
2009年４月　造形学部に美術・工芸学科を開設、ものデザイン学科を改組し、プロダクトデザイン学科を設置、4学科体制に
（プロダクトデザイン学科／視覚デザイン学科／美術・工芸学科／建築・環境デザイン学科）
2014年４月　開学以来大学を運営してきた学校法人長岡造形大学を公立大学法人化。公立大学として、新たなスタートを切る。
2018年４月　大学院修士課程・博士（後期）課程　未来創造型実践カリキュラムスタート
５月　市内４大学１高専の連携拠点「NaDeC BASE」開設
2022年３月　教職課程の募集を停止（2026年３月課程廃止）
2023年４月　プロダクトデザイン学科と視覚デザイン学科を改組し、デザイン学科を設置、３学科体制に
（デザイン学科／美術・工芸学科／建築・環境デザイン学科）

## 1-6 キャンパスが教材

長岡造形大学は、学生生活をおくる環境のすべてをデザインの教材としてとらえ、デザインを学ぶ上で理想的な環境を追求しています。建物の構造、学内のインテリアや照明、庭の風景等、キャンパスそのものがデザインにあふれています。長岡造形大学のキャンパスで、デザインのヒントをたくさん見つけてください。





# 2　卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針（2018〜2022年度入学者）

## 2-1 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会の要請を的確に認識し様々な課題に対して創造的な解決策を提示するための３つの力「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を養うことを教育の目標とします。

これらの能力の獲得を目的とする授業科目を履修し、卒業要件単位を修得した者に学士（造形）の学位を授与します。

**［教育目標に揚げる３つの能力］**

**▶社会人基礎力**

自然・人、社会・人との関わりに関心を持ち、主体的、自律的、継続的な学修ができ、論理的、多面的に物事を考え抜き、状況を判断し、責任感と協調性をもって行動できる。

**▶構想力**

人と造形との関係を追及する専門的・横断的な知識を身につけ、「問題の発見、原因の究明、解決への構想、試行及び検証」を行うことができる。

**▶造形力**

人・もの・自然に対する豊かな感性を備えて、「思い」を形にする伝達技術としての表現ができる。

## 2-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

▶地域・社会や企業と連携した実践的なデザインプロジェクトにより、社会人基礎力を養成する「地域・社会連携系」科目を拡充します。

▶構想力を重視したデザインプロセスを総合的に学ぶ演習・実習科目を強化します。

▶複合的な造形力修得のための横断的科目の充実を図ります。

**教育課程の構成**

教育課程は、次のように区分された科目で構成されています。

| | |
|---|---|
| 教養科目 | 教養<br>言語系<br>キャリアデザイン教育<br>ソーシャル・スキルズ（言語系、キャリアデザイン教育を含む） |
| 専門教育科目 | 学部共通専門教育科目<br>学科共通専門教育科目<br>コース別専門教育科目<br>ゼミ科目<br>卒業研究 |

# 2-3 履修コース

## ● プロダクトデザイン学科

プロダクトデザインにはカタチや機能だけではなく、そのモノのあり方や人や社会との関わり、他のモノとの関係性まで考え提案するために、細部へのこだわりに加え、幅広い視野も重要になります。カリキュラムでは、実習・演習中心の授業でマンツーマン指導を通じて「問題の発見、原因の究明、解決への構想、試行及び検証する力」および、アイデアを「カタチにするスキル」を身につけ、プロのデザイナーとしてスタートできる能力を培っていきます。

### プロダクトデザインコース

家電製品等の電気的なメカニズムを内包したプロダクトデザイン、自動車、バイク等の乗り物のデザイン、生活雑貨、照明等インテリア用品のデザイン、産業機器などの生産財のデザインなど工業製品のデザインの領域を幅広く学びます。

立体のデザインに加えて、ユーザーと機器との関係をデザインするインターフェースデザインや、各種工業製品の素材・加工技術とカタチとの関係も学びます。

### テキスタイル・ファッションデザインコース

衣服をはじめとしてバック、帽子などのプロダクトは、道具であると同時に装身具であり、人が身に付けることで完結し、人をより魅力的に見せることが求められます。またカーテン、絨毯、テーブルマットなどのインテリアファブリックは生活を快適にする役割があります。

テキスタイルを切り口とし、社会のニーズに適応したファッションやインテリアに関わる布のデザインおよび制作までを学びます。

## ● 視覚デザイン学科

カリキュラムは、[理解する・身に付ける＋考える・展開する＋解く・磨く]をテーマに組み立てられています。

軸となるコンピュータ教育は、視覚デザインのツールとして欠かせないものであり、コンピュータの知識と技術を学ぶ授業を１年次から３年次に設け、各専門分野につなげて活かせるように発展させていきます。

また、２年次から始まる各専門分野の基礎的な授業は、学生の興味をその後の進路の決定へと導く内容となっています。さらに３年次の内容は、卒業後に社会で求められる仕事を想定した授業内容となっています。

視覚デザインにおいて、各分野に偏らず「グラフィックデザイン＋専門分野」を強みに応用力のある人材を育てていきます。

### 伝達デザインコース

広告の企画・制作を中心に授業を展開します。視覚的な表現技術を学ぶだけでなく、ものごとの本質を見極め問題を解決する能力、多様なメディアに対応したヴィジュアルの表現をコントロールする能力を身につけていきます。

[専門領域]広告、グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、Webを始めとするインタラクティブデザイン、インフォメーションデザイン、パッケージデザイン、商品開発、ブランディングデザイン、ヴィジュアルアイデンティティ、コマーシャル、広告写真

### 表現デザインコース

視覚デザインの領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かし

表現することを学びます。また、表現力に頼り過ぎず、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、個々の感性を社会に結びつけて展開する術を学びます。

［専門領域］写真、イラストレーション、アニメーション、モーショングラフィックス、映像、キャラクターデザイン、ゲームデザイン

## ● 美術・工芸学科

アートとクラフトの新たな表現の可能性を、絵画、彫刻、工芸の各専門分野の基礎カリキュラムを通して横断的に学びます。それにより、既存の領域間の壁を取り払い、素材・技法・表現手法の理解と融合を図り、柔軟な発想と独創的な創作や研究を目的とした造形教育を行います。

また、グローバルな視野によって専門領域を探求すると共に、デザインの視点による多彩な社会環境での、人と「もの」との関係性や計画・立案から造形表現までを学びます。これにより幅広い知識や能力と社会への発信力を兼ね備えます。

### 美術表現コース

平面における描画表現・版表現、立体造形における形・量塊・構造・空間などの基本要素の理解を、実践的制作を通して学修します。素材の理解と技術、構成力の向上によって、芸術的素養が求められるデザインの現場へ応用可能な豊かな感性を育てます。領域にとらわれない横断的な研究を通じ、柔軟な発想力による多彩な表現力・技術力を習得します。

現代におけるアートとデザインの関わりを考察し、社会における美術の役割をディスカッションすることで、論理的思考を高め、コミュニケーション能力の向上を促します。また、地域への実践的な発表活動を行い、能動的に社会に関わる能力を養います。

### クラフトデザインコース

金属素材やガラス素材との対話により、その性質や表現方法を研究しながら、社会での様々な専門分野で活躍するための応用力を身に付けます。また、きめ細やかなマンツーマン指導によって学生一人一人が目指す表現を具現化し、その確かな技法と各自の感性を融合することで、創造性や表現力、造形力を養います。

伝統という永い時間と精査によって培われてきた工芸や、現代の暮らしの中で育まれてきたクラフトデザインを基盤とし、「ものづくり」の視点から使う人への視野を持つことでコミュニケーション能力を養い、既存の造形表現のみならず、社会との位置づけを考え、人からひとへの温もりや感動を伝える人材教育を実践します。

## ● 建築・環境デザイン学科

今は生物多様性の時代。メトロポリスより、自然豊かな環境の方が先を行きます。よって、コンクリートやアスファルトに囲まれた空間ではなく、人と生物や植物が生きた空間と環境のデザインに重きを置きます。領域は幅広く、建築・構造・ランドスケープ・インテリア、生活空間からコミュニティ空間、文化財の保存、まちづくり・都市計画まで多彩です。これからの世界は、人と社会からの視点と、自然や環境からの視点の両視点からのデザインが求められています。確かな技術力を身につけ、学生ひとりひとりの多彩な考え方や個性をとらえて伸ばし、次の時代が求める豊かでしなやかなハートも持ったデザイナーを育てます。

所定の単位をとれば、一級および二級建築士受験資格を取得することのできるカリキュラムとなっています（新潟県内では長岡造形大学、新潟大学、新潟工科大学の３大学のみです）。実際、本学の卒業生に多くの一級建築士が誕生し、活躍しています。

### 建築・インテリアコース

・建築をランドスケープや街まで連続する中にとらえます。エキサイティングな演習に取り組むことにより、建築＆環境の美しいデザイン、斬新なデザイン、伝統的なデザイン、そして構造と設備のエンジニアリングを修得します。
・ハードな都市環境もさることながらソフトな自然や里山や地域環境を重視し、山･川･海における、人々や生物や植物が生き生きと活動する空間を設計する感性と技術を身に付けます。
・建築再生／リノベーション／リフォームを学び、すでにある空間資源を見事に生き返らせるデザイン力を身につけ、また、情報をわかりやすく効果的に伝えることのできるディスプレイデザインを学びます。

### 環境計画・保存コース

・成熟した社会において、街並みや歴史的な建造物など、既存の資源に着目し、これらを活用・保全したり新たな仕掛けを施すことで、暮らしやすさを実現できるような創造力・行動力を身につけます。
・具体的な空間のデザインだけではなく、都市環境が健やかに持続するための制度のデザインや仕組みのデザインを考え出す力をつけます。
・学芸員資格の取得を目指します（特に保存系）。

### 履修コース分け

履修コース分けの時期は次のとおりです。

| | |
|---|---|
| 履修コースの申請時期 | 第２学年／12月～１月 |
| 配属時期 | 第３学年／４月 |

＊履修コースの決定は、学生本人の志望を尊重しますが、施設・設備、教員配置等の制約もあるため、志望者数に大きな偏りが生じる場合には、履修実績等を加味して決定します。

# 3　カリキュラムの教育課程（2018～2022年度入学者）

# 3-1 カリキュラム体系（2018〜2022年度入学者）

## プロダクトデザイン学科カリキュラムフロー（2018〜2022年度入学者）

コース配属　　研究室配属

| | 1年次 前期 | 1年次 後期 | 2年次 前期 | 2年次 後期 | 3年次 前期 | 3年次 後期 | 4年次 前期 | 4年次 後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 進級要件 | | 進級要件 | | 進級要件 | | 卒業要件 |
| 教養科目 | ②スポーツ | ②保健体育講義 | ②社会心理学 | ②AI・データサイエンス概論　②美術論<br>②環境と社会　②法学（日本国憲法）<br>②地域文化論　②文化人類学<br>②科学技術論　②日本文化論 | | ②哲学 | | |
| 言語系 | ②英語中級Ⅰ<br>②英語中上級Ⅰ | ②英語中級Ⅱ<br>②英語中上級Ⅱ | ②英語上級Ⅰ | ②英語上級Ⅱ | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | ①英語オーラルコミュニケーションⅠ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅢ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅤ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅦ | ①英語オーラルコミュニケーションⅡ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅣ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅥ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅧ | | | | | | |
| | ②論理学 | ②情報リテラシー<br>②統計学 | ②現代社会論<br>②社会起業 | | | | | |
| キャリアデザイン教育 | | ❷基礎ゼミ | | ❶キャリア計画実習Ⅰ | ❶キャリア計画実習Ⅱ | | | |
| 専門教育科目［学部共通］ | ❷基礎造形実習Ⅰ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（デザイン）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（複合造形）<br>❷デザイン概論 | ❷色彩学 | | | | | | |
| クロス実習 | | | ①視覚A<br>①美術・工芸A<br>①建築・環境A | ①視覚B<br>①美術・工芸B<br>①建築・環境B | | | | |
| 第1区分 美術・工芸系 | ②日本美術史 | ②西洋美術史　②形態デザイン論<br>②美術・工芸概論 | ②現代芸術論<br>②美術解剖学 | ①美術・工芸特別講義 | | | | |
| 第2区分 プロダクト・視覚系 | ②視覚デザイン概論 | ②人間工学 | ②メディア概論<br>①視覚デザイン特別講義 | ②商品記号論<br>②ユーザインタフェースデザイン論<br>②マーケティング論<br>②広告論 | ②デザイン感性工学<br>②サインデザイン論<br>④パッケージデザイン演習 | ②デザインマネジメント<br>②知的財産権論<br>②機構学 | | |
| 第3区分 建築・環境系 | | ②建築・環境デザイン概論 | ②都市論　②インテリア<br>②空間安全論　②文化財学概論<br>②緑地環境計画 | ②都市デザイン　②居住論<br>②建築史<br>①建築・環境デザイン特別講義 | ②博物館概論 | ②スノープラン | | |
| 第4区分 地域・社会連携系 | | | ②地域協創演習A<br>①インターンシップA<br>①ボランティア実習A | ②地域協創演習B<br>①インターンシップB<br>①ボランティア実習B | ②地域協創演習C | ②地域協創演習D | | |
| プロダクトデザイン学科科目 | ❷プロダクトデザイン概論<br>❷プロダクトコンピュータ基礎演習 | ❷基礎造形実習Ⅱ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（デザイン）<br>❷プロダクトコンピュータ演習<br>②プロダクトスケッチ実習Ⅰ | ❶プロダクトデザイン特別講義<br>❹プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ<br>❷プロダクト材料学<br>②プロダクトスケッチ実習Ⅱ<br>②プロダクト3DCG演習Ⅰ | ❹プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A）<br>❹プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（B）<br>❷生産技術論<br>②プロダクトCAD演習<br>②プロダクト3DCG演習Ⅱ<br>②ファッション画実習<br>②テキスタイル・ファッションCAD演習 | | | | |
| プロダクトデザインコース<br>テキスタイル・ファッションコース | | | | | ❹プロダクトデザイン演習Ⅰ<br>❹テキスタイル・ファッション演習Ⅰ | ❹プロダクトデザイン演習Ⅱ<br>❹テキスタイル・ファッション演習Ⅱ | | |
| ゼミ科目 | | | | | ❷ゼミⅠ | ❷ゼミⅡ | | |
| 卒業研究 | | | | | | | ❸卒業研究Ⅰ | ❸卒業研究Ⅱ |

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

発想力を鍛える

技術力を身につける

発想力を鍛える

創造力を発揮する

●は必修科目　■は選択必修科目　○は選択科目　科目名が赤色…進級要件にかかわる科目　数字は単位数

# 視覚デザイン学科カリキュラムフロー（2018〜2022年度入学者）

| | 1年次 前期 | 1年次 後期 | 2年次 前期 | 2年次 後期 | 3年次 前期 | 3年次 後期 | 4年次 前期 | 4年次 後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 進級要件 | | 進級要件 | コース配属 | 進級要件 | 研究室配属 | 卒業要件 |
| 教養科目 | ②スポーツ | ②保健体育講義 | ②社会心理学 | ②AI・データサイエンス概論　②美術論<br>②環境と社会　②法学（日本国憲法）<br>②地域文化論　②文化人類学<br>②科学技術論　②日本文化論 | | ②哲学 | | |
| 言語系 | ②英語中級Ⅰ<br>②英語中上級Ⅰ | ②英語中級Ⅱ<br>②英語中上級Ⅱ | ②英語上級Ⅰ | ②英語上級Ⅱ | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | ①英語オーラルコミュニケーションⅠ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅢ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅤ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅦ | ①英語オーラルコミュニケーションⅡ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅣ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅥ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅧ | | | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | ②論理学 | ②情報リテラシー<br>②統計学 | ②現代社会論<br>②社会起業 | | | | | |
| キャリアデザイン教育 | | ❷基礎ゼミ | | ❶キャリア計画実習Ⅰ | ❶キャリア計画実習Ⅱ | | | |
| 専門教育科目［学部共通］ | ❷基礎造形実習Ⅰ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（デザイン）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（複合造形）<br>❷デザイン概論 | ❷色彩学 | | | | | | |
| クロス実習 | | | ①プロダクトA<br>①美術・工芸A<br>①建築・環境A | ①プロダクトB<br>①美術・工芸B<br>①建築・環境B | | | | |
| 第1区分 美術・工芸系 | ②日本美術史 | ②西洋美術史　②形態デザイン論<br>②美術・工芸概論 | ②現代芸術論<br>②美術解剖学 | ①美術・工芸特別講義 | | | | |
| 第2区分 プロダクト・視覚系 | ②プロダクトデザイン概論 | ②人間工学 | ②メディア概論<br>①プロダクトデザイン特別講義 | ②商品記号論<br>②ユーザインタフェースデザイン論<br>②マーケティング論<br>②広告論 | ②デザイン感性工学<br>②サインデザイン論<br>④パッケージデザイン演習 | ②デザインマネジメント<br>②知的財産権論<br>②機構学 | | |
| 第3区分 建築・環境系 | | ②建築・環境デザイン概論 | ②都市論　②インテリア<br>②空間安全論　②文化財学概論<br>②緑地環境計画 | ②都市デザイン　②居住論<br>②建築史<br>①建築・環境デザイン特別講義 | ②博物館概論 | ②スノープラン | | |
| 第4区分 地域・社会連携系 | | | ②地域協創演習A<br>①インターンシップA<br>①ボランティア実習A | ②地域協創演習B<br>①インターンシップB<br>①ボランティア実習B | ②地域協創演習C | ②地域協創演習D | | |
| 視覚デザイン学科科目 | ❷視覚デザイン概論<br>❷視覚コンピュータ基礎演習 | ❷基礎造形実習Ⅱ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（デザイン）<br>❷視覚コンピュータⅠ | ❶視覚デザイン特別講義<br>❹視覚コンピュータⅡ<br>4 写真<br>4 描写基礎<br>4 映像Ⅰ（選択必修①） | 4 Webデザイン<br>4 タイポグラフィ<br>4 映像Ⅱ<br>4 描写表現（選択必修②） | ④サウンドデザイン | ④コマーシャル演習 | | |
| | | | ❹視覚デザイン基礎演習Ⅰ | ❷視覚デザイン論<br>❹視覚デザイン基礎演習Ⅱ | | | | |
| 伝達デザインコース<br>表現デザインコース | | | | | 4 伝達デザイン演習Ⅰ<br>4 表現デザイン演習Ⅰ | 4 伝達デザイン演習Ⅱ<br>4 表現デザイン演習Ⅱ | | |
| ゼミ科目 | | | | | ❷ゼミⅠ | ❷ゼミⅡ | | |
| 卒業研究 | | | | | | | ❸卒業研究Ⅰ | ❸卒業研究Ⅱ |

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

技術力を身につける

考える力を身につける

創造力を発揮する

●は必修科目　■は選択必修科目　○は選択科目　科目名が赤色…進級要件にかかわる科目　数字は単位数

# 美術・工芸学科カリキュラムフロー（2018〜2022年度入学者）

コース配属　　研究室配属

| | 1年次 前期 | 1年次 後期 | 進級要件 | 2年次 前期 | 2年次 後期 | 進級要件 | 3年次 前期 | 3年次 後期 | 進級要件 | 4年次 前期 | 4年次 後期 | 卒業要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養科目 | ②スポーツ | ②保健体育講義 | | ②社会心理学 | ②AI・データサイエンス概論　②美術論<br>②環境と社会　②法学（日本国憲法）<br>②地域文化論　②文化人類学<br>②科学技術論　②日本文化論 | | | ②哲学 | | | | |
| 言語系 | ②英語中級Ⅰ<br>②英語中上級Ⅰ | ②英語中級Ⅱ<br>②英語中上級Ⅱ | | ②英語上級Ⅰ | ②英語上級Ⅱ | | | | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | ①英語オーラルコミュニケーションⅠ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅢ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅤ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅦ | ①英語オーラルコミュニケーションⅡ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅣ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅥ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅧ | | | | | | | | | | |
| | ②論理学 | ②情報リテラシー<br>②統計学 | | ②現代社会論<br>②社会起業 | | | | | | | | |
| キャリアデザイン教育 | | ❷基礎ゼミ | | | ❶キャリア計画実習Ⅰ | | ❶キャリア計画実習Ⅱ | | | | | |
| 専門教育科目［学部共通］ | ❷基礎造形実習Ⅰ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（デザイン）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（複合造形）<br>❷デザイン概論 | ❷色彩学 | | | | | | | | | | |
| クロス実習 | | | | ①プロダクトA<br>①視覚A<br>①建築・環境A | ①プロダクトB<br>①視覚B<br>①建築・環境B | | | | | | | |
| 第1区分 美術・工芸系 | ②日本美術史 | ②西洋美術史　②形態デザイン論 | | ②現代芸術論<br>②美術解剖学 | | | | | | | | |
| 第2区分 プロダクト・視覚系 | ②プロダクトデザイン概論<br>②視覚デザイン概論 | ②人間工学 | | ②メディア概論<br>①プロダクトデザイン特別講義<br>①視覚デザイン特別講義 | ②商品記号論<br>②ユーザインタフェースデザイン論<br>②マーケティング論<br>②広告論 | | ②デザイン感性工学<br>②サインデザイン論<br>④パッケージデザイン演習 | ②デザインマネジメント<br>②知的財産権論<br>②機構学 | | | | |
| 第3区分 建築・環境系 | | ②建築・環境デザイン概論 | | ②都市論　②インテリア<br>②空間安全論　②文化財学概論<br>②緑地環境計画 | ②都市デザイン　②居住論<br>②建築史<br>①建築・環境デザイン特別講義 | | ②博物館概論 | ②スノープラン | | | | |
| 第4区分 地域・社会連携系 | | | | ②地域協創演習A<br>①インターンシップA<br>①ボランティア実習A | ②地域協創演習B<br>①インターンシップB<br>①ボランティア実習B | | ②地域協創演習C | ②地域協創演習D | | | | |
| 美術・工芸学科科目 | ❷美術・工芸コンピュータ基礎演習 | ❷基礎造形実習Ⅱ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（デザイン）<br>❷美術・工芸概論<br>❷美術・工芸コンピュータ演習<br>②プロダクトスケッチ実習Ⅰ | | ❷美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画）<br>❷美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻）<br>❷美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸）<br>❷美術・工芸基礎演習Ⅰ（複合）<br>②表示図法<br>②プロダクトスケッチ実習Ⅱ<br>②プロダクト3DCG演習Ⅰ | ❶美術・工芸特別講義<br>❽美術・工芸基礎演習Ⅱ<br>❷美術・工芸材料学<br>❷古美術研究<br>②生産技術論　④描写表現<br>②プロダクトCAD演習<br>②プロダクト3DCG演習Ⅱ | | ②美術・工芸・デザイン分析<br>②美術工芸史 | | | | |
| 美術表現コース クラフトデザインコース | | | | | | | ❹美術表現演習Ⅰ<br>❹クラフトデザイン演習Ⅰ | ❹美術表現演習Ⅱ<br>❹クラフトデザイン演習Ⅱ | | | | |
| ゼミ科目 | | | | | | | ❷ゼミⅠ | ❷ゼミⅡ | | | | |
| 卒業研究 | | | | | | | | | | ❸卒業研究Ⅰ | ❸卒業研究Ⅱ | |
| 教職に関する科目（2018年度入学者） | | | | ❷教職入門<br>❷教育心理学<br>❷生徒・進路指導 | ❷教育原理<br>❷教育課程の編成と実際<br>❷道徳指導法<br>❷特別活動指導法 | | ❽美術科指導法<br>❷教育に関する社会的・制度的・経営的研究<br>❷教育相談 | ❹工芸指導法<br>❷教育方法・技術 | | ❶事前・事後指導<br>❷教育実習Ⅰ<br>❷教育実習Ⅱ | ❷教職実践演習（中・高） | |
| 教科及び教職に関する科目（2019年度以降入学者） | | | | ❷教職入門<br>❷教育心理学<br>❷生徒・進路指導<br>❷現代芸術論<br>❷美術解剖学 | ❷道徳指導法　❷教育原理<br>❷美術・工芸材料学　❷美術論<br>❷教育課程の編成と実際<br>❷総合的な学習の時間及び特別活動指導法 | | ❽美術科指導法<br>❷教育制度論<br>❷特別支援教育<br>❷教育相談<br>❷美術・工芸デザイン分析 | ❷教育方法・技術 | | ❶事前・事後指導<br>❷教育実習Ⅰ<br>❷教育実習Ⅱ | ❷教職実践演習（中・高） | |

基礎力・発想力を身につける

造形の基礎力を養成

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

専門的・横断的な知識を身につける

素材と手法を理解する

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

確かな造形力を身につける

創造力を発揮する

●は必修科目　■は選択必修科目　○は選択科目　科目名が赤色…進級要件にかかわる科目　数字は単位数

# 建築・環境デザイン学科カリキュラムフロー（2018〜2022年度入学者）

| | 1年次 前期 | 1年次 後期 | 2年次 前期 | 2年次 後期 | 3年次 前期 | 3年次 後期 | 4年次 前期 | 4年次 後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 進級要件 | | 進級要件 | コース配属 | 進級要件 | 研究室配属 | 卒業要件 |
| 教養科目 | ②スポーツ | ②保健体育講義 | ②社会心理学 | ②美術論　②環境と社会<br>②法学（日本国憲法）<br>②地域文化論　②文化人類学<br>②科学技術論　②日本文化論 | | ②哲学 | | |
| ソーシャル・スキルズ 言語系 | ②英語中級Ⅰ<br>②英語中上級Ⅰ | ②英語中級Ⅱ<br>②英語中上級Ⅱ | ②英語上級Ⅰ | ②英語上級Ⅱ | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | ①英語オーラルコミュニケーションⅠ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅢ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅤ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅦ | ①英語オーラルコミュニケーションⅡ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅣ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅥ<br>①英語オーラルコミュニケーションⅧ | | | 社会人基礎力の養成 | | | |
| ソーシャル・スキルズ | ②論理学 | ②情報リテラシー<br>②統計学 | ②現代社会論<br>②社会起業 | | | | | |
| キャリアデザイン教育 | | ❷基礎ゼミ | | ❶キャリア計画実習Ⅰ | ❶キャリア計画実習Ⅱ | NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする | | |
| 専門教育科目［学部共通］ | ❷基礎造形実習Ⅰ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（デザイン）<br>❷基礎造形実習Ⅰ（複合造形） | | | | | | | |
| | ❷デザイン概論 | ❷色彩学 | | | | | | |
| クロス実習 | | | ①プロダクトA<br>①視覚A<br>①美術・工芸A | ①プロダクトB<br>①視覚B<br>①美術・工芸B | | | | |
| 第1区分 美術・工芸系 | ②日本美術史 | ②西洋美術史　②形態デザイン論<br>②美術・工芸概論 | ②現代芸術論<br>②美術解剖学 | ①美術・工芸特別講義 | | | | |
| 第2区分 プロダクト・視覚系 | ②プロダクトデザイン概論<br>②視覚デザイン概論 | ②人間工学 | ②メディア概論<br>①プロダクトデザイン特別講義<br>①視覚デザイン特別講義 | ②商品記号論<br>②ユーザインタフェースデザイン論<br>②マーケティング論<br>②広告論 | ②デザイン感性工学<br>②サインデザイン論<br>④パッケージデザイン演習 | ②デザインマネジメント<br>②知的財産権論<br>②機構学 | | |
| 第3区分 建築・環境系 | | | ②都市論　②インテリア<br>②空間安全論　②文化財学概論<br>②緑地環境計画 | ②都市デザイン　②居住論<br>②建築史 | ②博物館概論 | ②スノープラン | | |
| 第4区分 地域・社会連携系 | | | ②地域協創演習A<br>①インターンシップA<br>①ボランティア実習A | ②地域協創演習B<br>①インターンシップB<br>①ボランティア実習B | ②地域協創演習C | ②地域協創演習D | | |
| 建築・環境デザイン学科科目 | ❷基礎数学<br>❷製図実習<br>❷建築・環境コンピュータ基礎演習 | ❷基礎造形実習Ⅱ（描写）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（造形）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（素形材）<br>❷基礎造形実習Ⅱ（デザイン）<br>❹建築・環境デザイン演習Ⅰ<br>❷建築・環境デザイン概論<br>❷建築構法<br>❷建築・環境CAD実習 | ❹建築・環境デザイン演習Ⅱ<br>❷建築計画Ⅰ<br>❷建築材料実験<br>②建築・環境CG実習Ⅰ<br>②都市計画<br>②住宅リフォーム論<br>②測量学実習 | ❹建築・環境デザイン演習Ⅲ<br>❶建築・環境デザイン特別講義<br>❷構造力学Ⅰ<br>❷建築環境工学<br>❷建築構造<br>❷建築材料<br>❷建築計画Ⅱ<br>②緑地環境設計<br>②建築・環境CG実習Ⅱ | ②建築設計<br>②構造力学Ⅱ<br>②建築設備<br>②エコロジカルプランニング<br>②建築法規 | ②建築施工<br>②コミュニティデザイン | | |
| 建築・インテリアコース 環境計画・保存コース | | | | | ❹建築・インテリア演習Ⅰ<br>❹環境計画・保存演習Ⅰ | ❹建築・インテリア演習Ⅱ<br>❹環境計画・保存演習Ⅱ | | |
| ゼミ科目 | | | | | ❷ゼミⅠ | ❷ゼミⅡ | | |
| 卒業研究 | | | | | | | ❸卒業研究Ⅰ | ❸卒業研究Ⅱ |

基礎力を身につける

造形の基礎力を養成

発想力を高める

想像力と表現力を高める

専門的・横断的な知識を身につける

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

創造力を発揮する

●は必修科目　■は選択必修科目　○は選択科目　科目名が赤色…進級要件にかかわる科目　数字は単位数

# 3-2 授業科目・単位数・担当教員（2018～2022年度入学者）

## (1) 教養科目

| 区分 | | 授業科目 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 履修学年 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 担当教員 | 卒業資格最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養 | | スポーツ | | 2 | ■ | | | | | | | | ＊篠田 | 選択10～14単位（学科により異なる） |
| | | 保健体育講義 | | 2 | | ■ | | | | | | | ＊篠田 | |
| | | 社会心理学 | | 2 | | | ■ | | | | | | ＊堀川 | |
| | | 日本文化論 | | 2 | | | | ■ | | | | | ＊木林 | |
| | | 美術論 | | 2 | | | | ■ | | | | | ＊安藤 | |
| | | 環境と社会 | | 2 | | | | ■ | | | | | 池田／板垣／柏原／中村／水川／◎渡邉 | |
| | | 地域文化論 | | 2 | | | | ■ | | | | | ◎＊田中（洋）／＊田邊／＊筑波 | |
| | | 文化人類学 | | 2 | | | | ■ | | | | | 板垣 | |
| | | 法学（日本国憲法） ＃＃ | | 2 | | | | ■ | | | | | ＊星野 | |
| | | 科学技術論 | | 2 | | | | ■ | | | | | ＊寺島 | |
| | | AI・データサイエンス概論 | | 2 | | | | ■ | | | | | ◎森本／＊和久井 | |
| | | 哲学 | | 2 | | | | | | ■ | | | 菅原 | |
| | 言語系 | 英語中級Ⅰ《英語Ⅰ》 | | 2 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー | 選択必修4単位 |
| | 言語系 | 英語中級Ⅱ《英語Ⅱ》 | | 2 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー／＊レイサム | |
| | 言語系 | 英語中上級Ⅰ《英語アドバンスⅠ》 | | 2 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏 | |
| | 言語系 | 英語中上級Ⅱ《英語アドバンスⅡ》 | | 2 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊レイサム | それ以上は、教養選択科目として卒業要件単位数に含める |
| | 言語系 | 英語上級Ⅰ ＃＃ | | 2 | | | ■ | | | | | | 菅原 | |
| | 言語系 | 英語上級Ⅱ ＃＃ | | 2 | | | | ■ | | | | | 菅原 | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅠ ＃ | | 1 | ■ | | | | | | | | バンゴーサム | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅡ ＃ | | 1 | | ■ | | | | | | | バンゴーサム | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅢ | | 1 | ■ | | | | | | | | バンゴーサム | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅣ | | 1 | | ■ | | | | | | | バンゴーサム | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅤ ＃ | | 1 | ■ | | | | | | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅥ ＃ | | 1 | | ■ | | | | | | | | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅦ | | 1 | ■ | | | | | | | | ＊ドライアー／＊ムリノス | |
| ソーシャル・スキルズ | 言語系 | 英語オーラルコミュニケーションⅧ | | 1 | | ■ | | | | | | | ＊ドライアー／＊ムリノス | |
| ソーシャル・スキルズ | キャリアデザイン教育 | 基礎ゼミ《発想・着想演習》 | 2 | | | ■ | | | | | | | 板垣／北／小松／境野／竹田／伊達／平原／◎水川／森本 | 必修4単位 |
| ソーシャル・スキルズ | キャリアデザイン教育 | キャリア計画実習Ⅰ | 1 | | | | | ■ | | | | | ◎長谷川／専任教員／＊椎名／＊髙橋（健）／＊横部 | |
| ソーシャル・スキルズ | キャリアデザイン教育 | キャリア計画実習Ⅱ | 1 | | | | | | ■ | | | | ◎長谷川／＊椎名／＊髙橋(健)／＊横部 | |
| ソーシャル・スキルズ | | 論理学 | | 2 | ■ | | | | | | | | ＊市野 | |
| ソーシャル・スキルズ | | 統計学 | | 2 | | ■ | | | | | | | 福本 | |
| ソーシャル・スキルズ | | 情報リテラシー《情報リテラシー論》 | | 2 | | ■ | | | | | | | ＊横田 | |
| ソーシャル・スキルズ | | 現代社会論 | | 2 | | | ■ | | | | | | ＊広田 | |
| ソーシャル・スキルズ | | 社会起業 | | 2 | | | ■ | | | | | | 福本 | |
| | | 計 | 4 | 54 | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

## (2) 専門教育科目［学部共通］

| 区分 | | 授業科目 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 履修学年 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に関わる科目 | 担当教員 | 卒業資格 最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 学部共通 | | 基礎造形実習Ⅰ（描写） | 2 | | ■ | | | | | | | | ◇ | 池田 / ◎金 / 長谷川 | 必修 14 単位 |
| | | 基礎造形実習Ⅰ（造形） | 2 | | ■ | | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅰ（素形材） | 2 | | ■ | | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅰ（デザイン） | 2 | | ■ | | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅰ（複合造形） | 2 | | ■ | | | | | | | | ◇ | | |
| | | デザイン概論《NID 造形概論》 | 2 | | ■ | | | | | | | | | 馬場 | |
| | | 色彩学 | 2 | | | ■ | | | | | | | | ＊三井 | |
| | | 計 | 14 | | | | | | | | | | | | |
| | クロス実習 | プロダクトA | | 1 | | | ■ | | | | | | | 金澤 / 川和 / 菊池 / ◎境野 / 増田 | 第1～4区分及びクロス実習から合計16～35単位以上（所属学科により異なる） |
| | | プロダクトB ＃ | | 1 | | | | ■ | | | | | | | |
| | | 視覚A ＃ | | 1 | | | ■ | | | | | | | | |
| | | 視覚B ＃ | | 1 | | | | ■ | | | | | | | |
| | | 美・工A | | 1 | | | ■ | | | | | | | 岡谷 | |
| | | 美・工B | | 1 | | | | ■ | | | | | | 長谷川 | |
| | | 建築・環境A | | 1 | | | ■ | | | | | | | 羽原 / ◎森 | |
| | | 建築・環境B | | 1 | | | | ■ | | | | | | 津村 / ◎平山 | |
| | 第1区分 | 日本美術史 | | 2 | ■ | | | | | | | | | ＊芹生 | 第1区分：美術・工芸系 選択2科目以上 |
| | | 西洋美術史 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ＊安藤 | |
| | | 形態デザイン論 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ＊三井 | |
| | | 美術・工芸概論※ | | 2 | | ■ | | | | | | | | 遠藤 / 岡谷 / 菅野 / 小林 / 鈴木 / ◎中村 / 長谷川 / 藪内 | |
| | | 現代芸術論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ＊兼松 | |
| | | 美術解剖学 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ＊高橋（美） | |
| | | 美術・工芸特別講義※ | | 1 | | | | ■ | | | | | | ◎中村 / ＊尾関 / ＊辻 / ＊中﨑 / ＊平島 | |
| | 第2区分 | プロダクトデザイン概論※ ＃＃ | | 2 | ■ | | | | | | | | | ◎境野 | 第2区分：プロダクト、視覚系 選択2科目以上 |
| | | 視覚デザイン概論※ ＃＃ | | 2 | ■ | | | | | | | | | ◎金 | |
| | | 人間工学 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ＊秋元 | |
| | | メディア概論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎真壁 / 水川 / ＊澤 / ＊林（洋） / ＊松本（祐） / ＊山田（興） | |
| | | プロダクトデザイン特別講義※ | | 1 | | | ■ | | | | | | | ◎土田 / ＊上野 / ＊玉井 / ＊松本（有） / ＊難波 | |
| | | 視覚デザイン特別講義※ | | 1 | | | ■ | | | | | | | ◎徳久 / ＊箭内 / ＊富取 / ＊山本（貴） | |
| | | 商品記号論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊佐古 | |
| | | ユーザインタフェースデザイン論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊尾田 | |
| | | マーケティング論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 水川 | |
| | | 広告論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊角田 | |
| | | デザイン感性工学 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 境野 | |
| | | サインデザイン論 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 吉川 / ◎金 / 山本（敦） / ＊鎌田 | |
| | | パッケージデザイン演習 | | 4 | | | | | ■ | | | | | ◎山本（敦） / ＊斉藤（純） | |
| | | デザインマネジメント | | 2 | | | | | | ■ | | | | 川和 | |
| | | 知的財産権論 | | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊藤澤 | |
| | | 機構学 | | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊磯部 | |
| | 第3区分 | 建築・環境デザイン概論※ | | 2 | | ■ | | | | | | | | 柏原 / 北 / ◎佐藤 / 菅原 / 津村 / 羽原 / 平山 / 福本 / 森 / 山下 / 与那嶺 / 渡邉 | 第3区分：建築・環境系 選択2科目以上 |
| | | 都市論 ＃＃ | | 2 | | | ■ | | | | | | | 渡邉 | |
| | | インテリア | | 2 | | | ■ | | | | | | | 羽原 / ◎森 | |
| | | 空間安全論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎福本 / ＊稲垣 | |
| | | 文化財学概論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎津村 / ＊武内 / ＊中山 / ＊西田 / ＊前嶋 / ＊三国 | |
| | | 緑地環境計画 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 柏原 | |
| | | 都市デザイン ＃＃ | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊樋口 | |
| | | 居住論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 山下 | |
| | | 建築史 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 津村 / ◎平山 | |
| | | 建築・環境デザイン特別講義※ | | 1 | | | | ■ | | | | | | ◎佐藤 / ＊伊藤（拓） / ＊後藤 / ＊田辺 / ＊松村 | |
| | | 博物館概論 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊斎藤（優） | |
| | | スノープラン | | 2 | | | | | | ■ | | | | 境野 / 長谷川 / 平山 / ビューラ / ◎山下 / ＊上村 / ＊本吉 | |
| | 第4区分 | 地域協創演習A | | 2 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | 第4区分：地域・社会連携系 選択1科目以上 |
| | | 地域協創演習B | | 2 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | |
| | | 地域協創演習C | | 2 | | | | | ■ | ■ | | | | 専任教員 | |
| | | 地域協創演習D | | 2 | | | | | ■ | ■ | | | | 専任教員 | |
| | | インターンシップA | | 1 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | |
| | | インターンシップB | | 1 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | |
| | | ボランティア実習A | | 1 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | |
| | | ボランティア実習B | | 1 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | |
| | | 計 | | 88 | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講（クロス実習を除く）
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝※印　所属学科以外の概論、特別講義を学部共通選択科目とする。
注６＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

## (3) 専門教育科目［プロダクトデザイン学科］

| 区分 | | 授業科目 | R5開講 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 履修学年 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に関わる科目 | 担当教員 | 卒業資格 最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目［プロダクトデザイン学科共通］ | | プロダクトデザイン概論 | ○ | 2 | | ■ | | | | | | | | | ◎境野 | 必修23単位 |
| | | プロダクトコンピュータ基礎演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | ■ | | | | | | | | | 金澤／◎金／伊達／徳久／平原 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈描写〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | ◎境野 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈造形〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | プロダクトコンピュータ演習《コンピュータ基礎Ⅱ》 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | 阿部／金澤／金山／金／伊達／◎平原 | |
| | | プロダクトデザイン特別講義 | ○ | 1 | | | | ■ | | | | | | | ◎土田／＊上野／＊玉井／＊松本（有）／＊難波 | |
| | | プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ | ○ | 4 | | | | ■ | | | | | | △ | 金石／◎金澤／金山／菊池／川和／境野／鈴木／土田／増田 | |
| | | プロダクト材料学 | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | | ◎菊池／＊沈 | |
| | | 生産技術論 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 菊池／◎境野／長谷川／＊上野／＊酒井／＊古賀 | |
| | | 計 | | 23 | | | | | | | | | | | | |
| | | プロダクトスケッチ実習Ⅰ《プロダクトスケッチ演習》 | | | 2 | | ■ | | | | | | | | ◎増田／川和 | 選択8単位以上 |
| | | プロダクトスケッチ実習Ⅱ | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎増田／川和 | |
| | | プロダクト3DCG演習Ⅰ | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | 土田 | |
| | 選択必修 | プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A） | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | ▲ | 金澤／◎金山／川和／境野／伊達／土田／増田 | 選択必修4単位それ以上は自由選択科目として卒業要件には含めない |
| | 選択必修 | プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（B） | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | ▲ | 金石／菊池／◎鈴木 | |
| | | プロダクトCAD演習 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 金山／◎土田 | |
| | | プロダクト3DCG演習Ⅱ | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 土田 | |
| | | ファッション画実習 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 金石 | |
| | | テキスタイル・ファッションCAD演習 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 金石／◎鈴木／＊岡田／＊山本（正） | |
| | | 計 | | | 22 | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目コース別 | プロダクトデザインコース | プロダクトデザイン演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 金澤／金山／川和／境野／◎土田／増田 | 演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位 |
| | プロダクトデザインコース | プロダクトデザイン演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | 金澤／金山／川和／◎境野／土田／増田 | |
| | テキスタイル・ファッションデザインコース | テキスタイル・ファッション演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 金石／菊池／◎鈴木 | |
| | テキスタイル・ファッションデザインコース | テキスタイル・ファッション演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | 金石／菊池／◎鈴木 | |
| | | 計 | | | 16 | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目ゼミ科目 | | ゼミⅠ | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | | 金石／金澤／金山／川和／菊池／境野／鈴木／伊達／土田／増田 | 必修4単位 |
| | | ゼミⅡ | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | | 金石／金澤／金山／川和／菊池／境野／鈴木／伊達／土田／増田 | |
| | | 計 | | 4 | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目［卒業研究］ | | 卒業研究Ⅰ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 金石／金澤／金山／川和／菊池／境野／鈴木／土田／増田 | 必修6単位 |
| | | 卒業研究Ⅱ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 金石／金澤／金山／川和／菊池／境野／鈴木／土田／増田 | |
| | | 計 | | 6 | | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝♯印は令和５年度以降非開講
注４＝♯♯印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝進級要件について
第２学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること
第３学年進級要件：△印の科目及び▲印の科目のうち１科目、計２科目の８単位をすべて修得すること
第４学年進級要件：所属コースの◆印の科目の単位をすべて修得すること
注６＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

## (4) 専門教育科目［視覚デザイン学科］

| 区分 | | 授業科目 | R5開講 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 履修学年 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に関わる科目 | 担当教員 | 卒業資格 最低単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目［視覚デザイン学科共通］ | | 視覚デザイン概論 | ○ | 2 | | ■ | | | | | | | | | ◎金 | 必修29単位 | |
| | | 視覚コンピュータ基礎演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | ■ | | | | | | | | | 金澤／◎金／伊達／徳久／平原 | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈描写〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | ◎金 | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈造形〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | | |
| | | 視覚コンピュータⅠ《コンピュータ基礎Ⅱ》 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | 阿部／金澤／金山／金／伊達／◎平原 | | |
| | | 視覚デザイン特別講義 | ○ | 1 | | | | ■ | | | | | | | ◎徳久／＊箭内／＊富取／＊山本（貴） | | |
| | | 視覚デザイン基礎演習Ⅰ | ○ | 4 | | | | ■ | | | | | | ▽ | 阿部／天野／池田／◎吉川／金／伊達／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／松本／水川／御法川／山田／山本（敦）／＊迫／＊さとう（り）／＊古屋／＊三田村 | | |
| | | 視覚コンピュータⅡ | ○ | 4 | | | | ■ | | | | | | | 天野／徳久／◎真壁／＊矢尾板 | | |
| | | 視覚デザイン基礎演習Ⅱ | ○ | 4 | | | | | ■ | | | | | ▽ | 阿部／天野／池田／吉川／金／伊達／◎徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／＊迫／＊さとう（り）／＊古屋 | | |
| | | 視覚デザイン論 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 阿部／天野／池田／◎吉川／金／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／松本／水川／御法川／山田／山本(敦) | | |
| | | 計 | | 29 | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修① | 写真 | ○ | | 4 | | | ■ | | | | | | △ | ◎阿部／松本／＊南雲 | 選択必修4単位 | 選択12単位以上 |
| | 選択必修① | 描写基礎 | ○ | | 4 | | | ■ | | | | | | △ | 長瀬／◎御法川／＊伊藤（彰）／＊羽川 | | |
| | 選択必修① | 映像Ⅰ | ○ | | 4 | | | ■ | | | | | | △ | ビューラ／◎山田／＊佐藤（誠）／＊渋谷／＊原田 | | |
| | 選択必修② | Ｗｅｂデザイン | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | ▲ | 徳久／平原／◎真壁／＊沖／＊中西／＊矢尾板 | 選択必修4単位 | |
| | 選択必修② | タイポグラフィ | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | ▲ | ◎天野／池田／吉川／＊阿部(宏) | | |
| | 選択必修② | 映像Ⅱ | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | ▲ | ◎ビューラ／＊万年 | | |
| | 選択必修② | 描写表現 | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | ▲ | 遠藤／岡谷／長瀬／◎御法川／＊伊藤（彰） | | |
| | | サウンドデザイン | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | | ◎ビューラ／＊明石／＊宇波／＊吹田 | | |
| | | コマーシャル演習 | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | | ◎水川／山田／＊佐藤(正) | | |
| | | 計 | | | 36 | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目 コース別 | 伝達デザインコース | 伝達デザイン演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | ◎阿部／天野／池田／吉川／金／徳久／水川／山田／◎山本（敦）／山本（信）／＊小川／＊佐野／＊角田／＊藤冨／＊溝口／＊mochigome | 演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位 | |
| | 伝達デザインコース | 伝達デザイン演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | ◎阿部／天野／池田／吉川／金／徳久／水川／山田／◎山本（敦）／＊相澤／＊石川 | | |
| | 表現デザインコース | 表現デザイン演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 伊達／長瀬／平原／◎ビューラ／真壁／松本／御法川／山本（信）／＊伊藤（彰）／＊五島／＊早園／＊本間 | | |
| | 表現デザインコース | 表現デザイン演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | 伊達／長瀬／平原／◎ビューラ／真壁／松本／御法川／山本（信）／＊大塚／＊大西／＊川上(典)／＊木場／＊シミズダニ／＊白井(里)／＊丸山／＊山本(裕) | | |
| | | 計 | | | 16 | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目 ゼミ科目 | | ゼミⅠ | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | | 阿部／天野／池田／吉川／金／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／松本／水川／御法川／山田／◎山本（敦）／山本（信） | 必修4単位 | |
| | | ゼミⅡ | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | | 阿部／天野／池田／吉川／金／徳久／長瀬／ビューラ／平原／◎真壁／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信) | | |
| | | 計 | | 4 | | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目［卒業研究］ | | 卒業研究Ⅰ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 阿部／天野／池田／吉川／金／伊達／◎徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信) | 必修6単位 | |
| | | 卒業研究Ⅱ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 阿部／天野／池田／吉川／金／伊達／◎徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信) | | |
| | | 計 | | 6 | | | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝進級要件について
　第２学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること
　第３学年進級要件：▽印の２科目及び△印の科目のうち１科目、▲科目のうち１科目、計４科目の単位をすべて修得すること
　第４学年進級要件：所属コースの◆印の科目の単位をすべて修得すること
注６＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

## (5) 専門教育科目［美術・工芸学科］

| 区分 | | 授業科目 | R5開講 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 履修学年 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に関わる科目 | 担当教員 | 卒業資格 最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目［美術・工芸学科共通］ | | 美術・工芸概論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | 遠藤／岡谷／菅野／小林／鈴木／◎中村／長谷川／藪内 | 必修35単位 |
| | | 美術・工芸コンピュータ基礎演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | ■ | | | | | | | | | ◎岡谷／長谷川 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈描写〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | ◎中村 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈造形〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 美術・工芸コンピュータ演習《コンピュータ基礎Ⅱ》 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | 森本 | |
| | | 美術・工芸特別講義 | ○ | 1 | | | | | ■ | | | | | | ◎中村／＊尾関／＊辻／＊中﨑／＊平島 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画） | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | △ | 遠藤／◎岡谷／＊ミーヨン | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻） | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | △ | ◎小林／長谷川／＊新村 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸） | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | △ | ◎菅野／中村／藪内 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（複合） | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | △ | 遠藤／岡谷／菅野／小林／中村／◎長谷川／藪内／＊新村／＊ミーヨン | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅱ | ○ | 8 | | | | | ■ | | | | | △ | 遠藤／◎岡谷／菅野／小林／中村／長谷川／藪内／＊下山／＊杉原／＊中安 | |
| | | 美術・工芸材料学 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 菅野／菊池／中村／◎長谷川／藪内／＊秋本／＊井波／＊岩崎／＊楠八重／＊平賀／＊渡辺(政) | |
| | | 古美術研究 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 遠藤／岡谷／菅野／小林／中村／◎長谷川／藪内／＊伊藤（哲）／＊和田 | |
| | | 計 | | 35 | | | | | | | | | | | | |
| | | プロダクトスケッチ実習Ⅰ《プロダクトスケッチ演習》 | | | 2 | | ■ | | | | | | | | ◎増田／川和 | 選択10単位以上 |
| | | 表示図法 | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | ＊相田 | |
| | | プロダクトスケッチ実習Ⅱ | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎増田／川和 | |
| | | プロダクト３ＤＣＧ演習Ⅰ | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | 土田 | |
| | | 描写表現 | ○ | | 4 | | | | ■ | | | | | | 遠藤／岡谷／長瀬／◎御法川／＊伊藤（彰） | |
| | | 生産技術論 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 菊池／◎境野／長谷川／＊上野／＊酒井／＊古賀 | |
| | | プロダクトＣＡＤ演習 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 金山／◎土田 | |
| | | プロダクト３ＤＣＧ演習Ⅱ | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 土田 | |
| | | 美術・工芸・デザイン分析 | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | ◎岡谷／＊上町／＊外山／＊早川／＊日野／＊溝川 | |
| | | 美術工芸史 | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊木田（拓） | |
| | | 計 | | | 22 | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目 コース別 | 美術表現コース | 美術表現演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 遠藤／◎岡谷／小林／＊塩谷／＊不破 | 演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位 |
| | 美術表現コース | 美術表現演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | ◎遠藤／岡谷／小林／＊新村 | |
| | クラフトデザインコース | クラフトデザイン演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 菅野／中村／◎長谷川／藪内／＊井上／＊齋藤(直) | |
| | クラフトデザインコース | クラフトデザイン演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | ◎菅野／中村／長谷川／藪内／＊石渡／＊氣賀澤 | |
| | | 計 | | | 16 | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目 ゼミ科目 | | ゼミⅠ | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | ◆ | 遠藤／岡谷／菅野／小林／◎中村／長谷川／藪内／＊手銭 | 必修4単位 |
| | | ゼミⅡ | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | ◆ | 遠藤／岡谷／菅野／小林／◎中村／長谷川／藪内 | |
| | | 計 | | 4 | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目［卒業研究］ | | 卒業研究Ⅰ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 遠藤／岡谷／菅野／小林／◎中村／長谷川／藪内 | 必修6単位 |
| | | 卒業研究Ⅱ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 遠藤／岡谷／菅野／小林／◎中村／長谷川／藪内 | |
| | | 計 | | 6 | | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝進級要件について
　第２学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること
　第３学年進級要件：△印の５科目の単位をすべて修得すること
　第４学年進級要件：所属コースの◆印の科目の単位及びゼミ科目の◆印の単位をすべて修得すること
注６＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

## ⑹ 専門教育科目［建築・環境デザイン学科］

| 区分 | | 授業科目 | R5開講 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 履修学年 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に関わる科目 | 担当教員 | 卒業資格最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目［建築・環境デザイン学科共通］ | | 建築・環境デザイン概論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | 必修45単位 |
| | | 建築･環境コンピュータ基礎演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | ■ | | | | | | | | | ＊武井 | |
| | | 製図実習 | | 2 | | ■ | | | | | | | | | 平山／◎森 | |
| | | 基礎数学 ＃ | | 2 | | ■ | | | | | | | | | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈描写〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | ◎佐藤 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈造形〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | | ■ | | | | | | | ◇ | | |
| | | 建築･環境CAD実習《コンピュータ基礎Ⅱ》 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | ＊武井 | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅰ | | 4 | | | ■ | | | | | | | △ | 柏原／◎佐藤／津村／羽原／山下／＊高坂 | |
| | | 建築構法 | | 2 | | | ■ | | | | | | | | 平山 | |
| | | 建築・環境デザイン特別講義 | ○ | 1 | | | | | ■ | | | | | | ◎佐藤／＊伊藤(拓)／＊後藤／＊田辺／＊松村 | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅱ | ○ | 4 | | | | ■ | | | | | | △ | 柏原／◎北／福本／渡邉／＊高坂／＊吉田（謙） | |
| | | 建築材料実験 | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | | 北／◎佐藤／＊白井（一） | |
| | | 建築環境工学 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | ＊松延 | |
| | | 建築計画Ⅰ | ○ | 2 | | | | ■ | | | | | | | ◎北／佐藤 | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅲ | ○ | 4 | | | | | ■ | | | | | △ | 北／◎佐藤／津村／与那嶺／＊東海林／＊田中(理)／＊渡邊(詞) | |
| | | 構造力学Ⅰ | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 与那嶺 | |
| | | 建築材料 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 津村／◎平山／森 | |
| | | 建築構造 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | 与那嶺 | |
| | | 計 | | 45 | | | | | | | | | | | | |
| | | 測量学実習 | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎平山/福本/渡邉/＊高橋(有)/＊渡邊(信) | 選択16単位以上 |
| | | 建築・環境ＣＧ実習Ⅰ | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | ＊佐藤（圭）／◎＊髙木 | |
| | | 都市計画 | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | 渡邉 | |
| | | 住宅リフォーム論 | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | | 羽原 | |
| | | 建築計画Ⅱ | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 北／◎佐藤 | |
| | | 緑地環境設計 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | 柏原 | |
| | | 建築・環境ＣＧ実習Ⅱ | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊佐藤（圭）／◎＊髙木 | |
| | | 構造力学Ⅱ | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | 与那嶺 | |
| | | 建築設備 | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊田中（準） | |
| | | 建築設計 | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | 山下 | |
| | | エコロジカルプランニング | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | ◎柏原／＊鈴木（誠） | |
| | | 建築法規 | ○ | | 2 | | | | | ■ | | | | | ◎佐藤／＊川合 | |
| | | 建築施工 | ○ | | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊五十嵐 | |
| | | コミュニティデザイン | ○ | | 2 | | | | | | ■ | | | | 福本 | |
| | | 計 | | | 28 | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目コース別 | 建築 インテリアコース | 建築・インテリア演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 柏原／佐藤／羽原／森／◎山下／与那嶺／＊大渕／＊高田（清）／＊吉田（謙） | 演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位 |
| | | 建築・インテリア演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | 柏原／北／佐藤／羽原／◎森／山下／＊吉田（謙） | |
| | 環境計画・保存コース | 環境計画・保存演習Ⅰ | ○ | | 4 | | | | | ■ | | | | ◆ | 津村／平山／◎福本／渡邉／＊梅嶋／＊西澤／＊榎本 | |
| | | 環境計画・保存演習Ⅱ | ○ | | 4 | | | | | | ■ | | | ◆ | ◎津村／平山／福本／渡邉／＊梅嶋／＊西澤／＊野尻／＊榎本 | |
| | | 計 | | | 16 | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目ゼミ科目 | | ゼミⅠ | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | 必修4単位 |
| | | ゼミⅡ | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | |
| | | 計 | | 4 | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目［卒業研究］ | | 卒業研究Ⅰ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | 必修6単位 |
| | | 卒業研究Ⅱ | ○ | 3 | | | | | | | | ■ | ■ | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | |
| | | 計 | | 6 | | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝進級要件について
　第２学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する
　第３学年進級要件：△印の３科目のうち、２科目修得する
　第４学年進級要件：△印の３科目及び所属コースの◆印の２科目のうち、４科目を修得すること
注６＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

# 学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（2018～2022年度入学者）

| 区分 | 授業科目 | R5開講 | 単位数 | | 履修学年 | | | | | | | | 担当教員 | 資格取得最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | |
| | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 学芸員科目 | 生涯学習概論 | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊相庭 | |
| | 博物館概論 | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊斎藤（優） | |
| | 博物館経営論 | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | ＊松沢 | |
| | 博物館資料論 | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | ◎＊小熊 / ＊西田 / ＊広井 | |
| | 博物館資料保存論 | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | 柏原 / ◎津村 / ＊大楽 | |
| | 博物館展示論 | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | ◎森 / ＊土門 | 必修21単位 |
| | 博物館情報・メディア論 | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | ◎＊浅井 / ＊北岡 | |
| | 博物館教育論 | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | ＊山本（哲） | |
| | 博物館実習 | ○ | 3 | | | | | | | ■ | | | 境野 / 菅原 / 長瀬 / 中村 / ◎平山 | |
| | デザイン概論《NID造形概論》 | | 2 | | ■ | | | | | | | | 馬場 | |
| | 計 | | 21 | | | | | | | | | | | |
| | プロダクトデザイン概論　＃＃ | ○ | | 2 | ■ | | | | | | | | ◎境野 | |
| | 視覚デザイン概論　＃＃ | ○ | | 2 | ■ | | | | | | | | ◎金 | |
| | 美術・工芸概論 | ○ | | 2 | | ■ | | | | | | | 遠藤 / 岡谷 / 菅野 / 小林 / 鈴木 / ◎中村 / 長谷川 / 藪内 | 選択1科目以上2単位以上 |
| | 建築・環境デザイン概論 | ○ | | 2 | | ■ | | | | | | | 柏原 / 北 / ◎佐藤 / 菅原 / 津村 / 羽原 / 平山 / 福本 / 森 / 山下 / 与那嶺 / 渡邉 | |
| | 計 | | | 8 | | | | | | | | | | |
| | 日本文化論 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | ＊木林 | |
| | 美術論 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | ＊安藤 | |
| | 地域文化論 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | ◎田中(洋) / ＊田邊 / ＊筑波 | |
| | 文化人類学 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | 板垣 | |
| | 日本美術史 | | | 2 | ■ | | | | | | | | ＊芹生 | 選択2科目以上4単位以上 |
| | 西洋美術史 | | | 2 | | ■ | | | | | | | ＊安藤 | |
| | 文化財学概論 | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | ◎津村 / ＊武内 / ＊中山 / ＊西田 / ＊前嶋 / ＊三国 | |
| | 建築史 | ○ | | 2 | | | | ■ | | | | | 津村 / ◎平山 | |
| | 測量学実習 | ○ | | 2 | | | ■ | | | | | | ◎平山 / 福本 / 渡邉 / ＊髙橋（有） / ＊渡邊（信） | |
| | 計 | | | 18 | | | | | | | | | | |

注1＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注2＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注3＝＃印は令和5年度以降非開講
注4＝＃＃印は令和6年度以降非開講（必要に応じて令和5年度に履修を検討すること）
注5＝網掛けした科目は、学芸員課程受講者のみが履修する科目。また、3年次のみ履修可能。
注6＝測量学実習は建築・環境デザイン学科学生のみ履修することができる。
注7＝授業科目に《》が付された科目は2023年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2023年度以降入学者用の科目名が表示される。

# 教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科2019～2021年度入学者）

〈教科及び教職に関する科目〉
中学校一種に必要な単位数：合計 59 単位　　高校一種に必要な単位数：合計 59 単位

| 区分 | | 授業科目 | R5開講 | 単位数（中学校一種(美術)） | | 単位数（高校一種(美術)） | | 履修学年 | | | | | | | | 担当教員 | 資格取得最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | | |
| 教科及び教職に関する科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 基礎造形実習Ⅱ〈描写〉 | ○ | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 略 | 中美：必修 42 単位<br>高美：必修 38 単位 |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画） | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 遠藤／◎岡谷／＊ミーヨン | |
| | | 美術･工芸コンピュータ演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎岡谷／長谷川 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈造形〉 | ○ | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 略 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻） | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 小林／長谷川／＊新村 | |
| | | 基礎造形実習Ⅰ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | | 略 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 略 | |
| | | 美術・工芸・デザイン分析 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | ■ | | | | ◎岡谷／＊上町／＊外山／＊早川／＊日野／＊溝川 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | | 略 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸） | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | | | ◎菅野／中村／藪内 | |
| | | 美術論 | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊安藤 | |
| | | 日本美術史 | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ＊芹生 | |
| | | 西洋美術史 | | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ＊安藤 | |
| | | 現代芸術論 | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊兼松 | |
| | | 美術・工芸概論 | | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 遠藤／岡谷／菅野／小林／鈴木／◎中村／長谷川／藪内 | |
| | | 美術解剖学 | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊高橋（美） | |
| | | 美術・工芸材料学 | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 菅野／菊池／中村／◎長谷川／藪内／＊秋本／＊井波／＊岩崎／＊楠八重／＊平賀／＊渡辺(政) | |
| | | 美術科指導法 | ○ | 8 | | 8 | | | | | | ■ | | | | 市川 | |
| | | 計 | | 42 | | 38 | | | | | | | | | | | |
| | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教職入門 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 竹田 | 中美：必修 12 単位<br>高美：必修 12 単位 |
| | | 教育原理 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 竹田 | |
| | | 教育心理学 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊縣 | |
| | | 教育制度論 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | ■ | | | | 竹田 | |
| | | 教育課程の編成と実際 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 竹田 | |
| | | 特別支援教育 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | ■ | | | ◎市川／＊長澤 | |
| | | 計 | | 12 | | 12 | | | | | | | | | | | |
| | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳指導法 ＃＃ | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | | | 市川 | 中美：必修 10 単位<br>高美：必修 8 単位 |
| | | 総合的な学習の時間及び特別活動指導法 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ◎市川／竹田 | |
| | | 教育方法・技術 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | ■ | | | 竹田 | |
| | | 生徒・進路指導 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊伊藤（敦） | |
| | | 教育相談 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊伊藤（敦） | |
| | | 計 | | 10 | | 8 | | | | | | | | | | | |
| | 教育実践に関する科目 | 事前・事後指導 | ○ | 1 | | 1 | | | | | | | | ■ | | 市川／◎竹田 | 中美：必修 7 単位<br>高美：必修 5 単位 |
| | | 教育実習Ⅰ | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | | ■ | | 市川／◎竹田 | |
| | | 教育実習Ⅱ | ○ | 2 | | | 2 | | | | | | | ■ | | 市川／◎竹田 | |
| | | 教職実践演習（中・高） | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | | | ■ | 市川／◎竹田 | |
| | | 計 | | 7 | | 5 | 2 | | | | | | | | | | |
| | 合計 | | | 71 | | 63 | 2 | | | | | | | | | | |
| 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | 法学（日本国憲法） ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊星野 | 必修 2 単位 |
| | | スポーツ | | | 2 | | 2 | ■ | | | | | | | | ＊篠田 | 選択 2 単位以上 |
| | | 保健体育講義 | | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | ＊篠田 | |
| | | 英語中級Ⅰ《英語Ⅰ》 | | | 2 | | 2 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー | 選択 2 単位以上 |
| | | 英語中級Ⅱ《英語Ⅱ》 | | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー／＊レイサム | |
| | | 英語中上級Ⅰ《英語アドバンスⅠ》 | | | 2 | | 2 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏 | |
| | | 英語中上級Ⅱ《英語アドバンスⅡ》 | | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊レイサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅠ ＃＃ | ○ | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅡ ＃＃ | ○ | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅢ | ○ | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅣ | ○ | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅤ ＃ | | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅥ ＃ | | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅦ | ○ | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | ＊ドライアー／＊ムリノス | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅧ | ○ | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | ＊ドライアー／＊ムリノス | |
| | | 美術･工芸コンピュータ基礎演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ◎岡谷／長谷川 | 必修 2 単位 |
| | | 計 | | 4 | 20 | 4 | 20 | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝中美は中学校一種（美術）、高美は高等学校一種（美術）の略
注６＝網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。
注７＝「教科及び教職に関する科目」に関しては、中学校一種に必要な単位数：合計 59 単位　　高校一種に必要な単位数：合計 59 単位
注８＝授業科目に《》が付された科目は 2023 年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023 年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには 2023 年度以降入学者用の科目名が表示される。

# 教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科2022年度入学者）

〈教科及び教職に関する科目〉
中学校一種に必要な単位数：合計 59 単位　　高校一種に必要な単位数：合計 59 単位

| 区分 | | 授業科目 | R5開講 | 単位数(中学校一種(美術)) | | 単位数(高校一種(美術)) | | 履修学年 | | | | | | | | 担当教員 | 資格取得最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | |
| | | | | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 教科及び教職に関する科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 基礎造形実習Ⅱ〈描写〉 | ○ | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 略 | 中美：必修 42 単位<br>高美：必修 38 単位 |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画） | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 遠藤／◎岡谷／＊ミーヨン | |
| | | 美術･工芸コンピュータ演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ◎岡谷／長谷川 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈造形〉 | ○ | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 略 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻） | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 小林／長谷川／＊新村 | |
| | | 基礎造形実習Ⅰ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | | 略 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉 | ○ | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 略 | |
| | | 美術・工芸・デザイン分析 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | ■ | | | | ◎岡谷／＊上町／＊外山／＊早川／＊日野／＊溝川 | |
| | | 基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉 | ○ | 2 | | | | | ■ | | | | | | | 略 | |
| | | 美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸） | ○ | 2 | | | | | | ■ | | | | | | ◎菅野／中村／藪内 | |
| | | 美術論 | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊安藤 | |
| | | 日本美術史 | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ＊芹生 | |
| | | 西洋美術史 | | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | ＊安藤 | |
| | | 現代芸術論 | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊兼松 | |
| | | 美術・工芸概論 | | 2 | | 2 | | | ■ | | | | | | | 遠藤／岡谷／菅野／小林／鈴木／◎中村／長谷川／藪内 | |
| | | 美術解剖学 | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊高橋（美） | |
| | | 美術・工芸材料学 | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 菅野／菊池／中村／◎長谷川／藪内／＊秋本／＊井波／＊岩崎／＊楠八重／＊平賀／＊渡辺(政) | |
| | | 美術科指導法 | ○ | 8 | | 8 | | | | | | ■ | | | | 市川 | |
| | | 計 | | 42 | | 38 | | | | | | | | | | | |
| | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教職入門 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | 竹田 | 中美：必修 12 単位<br>高美：必修 12 単位 |
| | | 教育原理 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 竹田 | |
| | | 教育心理学 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊縣 | |
| | | 教育制度論 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | ■ | | | | 竹田 | |
| | | 教育課程の編成と実際 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 竹田 | |
| | | 特別支援教育 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | ■ | | | ◎市川／＊長澤 | |
| | | 計 | | 12 | | 12 | | | | | | | | | | | |
| | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳指導法 ＃＃ | ○ | 2 | | | | | | | ■ | | | | | 市川 | 中美：必修 11 単位<br>高美：必修 9 単位 |
| | | 総合的な学習の時間及び特別活動指導法 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ◎市川／竹田 | |
| | | 教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む） | ○ | 3 | | 3 | | | | | | | ■ | | | 竹田 | |
| | | 生徒・進路指導 ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | ■ | | | | | | ＊伊藤（敦） | |
| | | 教育相談 | ○ | 2 | | 2 | | | | | | ■ | | | | ＊伊藤（敦） | |
| | | 計 | | 11 | | 9 | | | | | | | | | | | |
| | 教育実践に関する科目 | 事前・事後指導 | ○ | 1 | | 1 | | | | | | | | ■ | | 市川／◎竹田 | 中美：必修 7 単位<br>高美：必修 5 単位 |
| | | 教育実習Ⅰ | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | | ■ | | 市川／◎竹田 | |
| | | 教育実習Ⅱ | ○ | 2 | | | 2 | | | | | | | ■ | | 市川／◎竹田 | |
| | | 教職実践演習（中・高） | ○ | 2 | | 2 | | | | | | | | | ■ | 市川／◎竹田 | |
| | | 計 | | 7 | | 5 | 2 | | | | | | | | | | |
| | 合計 | | | 72 | | 64 | 2 | | | | | | | | | | |
| 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | 法学（日本国憲法） ＃＃ | ○ | 2 | | 2 | | | | | ■ | | | | | ＊星野 | 必修 2 単位 |
| | | スポーツ | | | 2 | | 2 | ■ | | | | | | | | ＊篠田 | 選択 2 単位以上 |
| | | 保健体育講義 | | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | ＊篠田 | |
| | | 英語中級Ⅰ《英語Ⅰ》 | | | 2 | | 2 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー | 選択 2 単位以上 |
| | | 英語中級Ⅱ《英語Ⅱ》 | | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー／＊レイサム | |
| | | 英語中上級Ⅰ《英語アドバンスⅠ》 | | | 2 | | 2 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏 | |
| | | 英語中上級Ⅱ《英語アドバンスⅡ》 | | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊レイサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅠ ＃＃ | ○ | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅡ ＃＃ | ○ | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅢ | ○ | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅣ | ○ | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | バンゴーサム | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅤ ＃ | | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅥ ＃ | | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅦ | ○ | | 1 | | 1 | ■ | | | | | | | | ＊ドライアー／＊ムリノス | |
| | | 英語オーラルコミュニケーションⅧ | ○ | | 1 | | 1 | | ■ | | | | | | | ＊ドライアー／＊ムリノス | |
| | | 美術･工芸コンピュータ基礎演習《コンピュータ基礎Ⅰ》 | | 2 | | 2 | | ■ | | | | | | | | ◎岡谷／長谷川 | 必修 2 単位 |
| | | 計 | | 4 | 20 | 4 | 20 | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝＃印は令和５年度以降非開講
注４＝＃＃印は令和６年度以降非開講（必要に応じて令和５年度に履修を検討すること）
注５＝中美は中学校一種（美術）、高美は高等学校一種（美術）の略
注６＝網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。
注７＝「教科及び教職に関する科目」に関しては、中学校一種に必要な単位数：合計 59 単位　　高校一種に必要な単位数：合計 59 単位
注８＝授業科目に《》が付された科目は 2023 年度以降入学者用科目として授業名が異なる。当該科目の授業概要は、2023 年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには 2023 年度以降入学者用の科目名が表示される。

# 3-3 進級要件・卒業要件（2018～2022年度入学者）

## 【プロダクトデザイン学科】

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| ２年次進級要件 | 「基礎造形実習Ⅰ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）・（複合造形）」及び「基礎造形実習Ⅱ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）」 の９科目18単位をすべて修得していること。 |
| ３年次進級要件 | 「プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ」（１科目４単位）及び、「プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A）・（B）」のうちどちらか１科目（４単位）の、計２科目８単位を修得していること。 |
| ４年次進級要件 | ３年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの２科目８単位を修得していること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | 1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 |
| 教養科目 | キャリアデザイン | 必修 | 4 | 4 | |
| | 言語系 | 選択必修 | 20 | | 4 |
| | | 選択 | 32 | | 14 |
| 小計 | | | | 4 | 18 |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | 14 | 14 | |
| | | 選択 | 88 | | 35 |
| | 学科共通 | 必修 | 23 | 23 | |
| | | 選択必修 | 8 | | 4 |
| | | 選択 | 14 | | 8 |
| | コース別演習 | 選択 | 16 | | 8 |
| | ゼミ | 必修 | 4 | 4 | |
| | 卒業研究 | 必修 | 6 | 6 | |
| 小計 | | | | 47 | 55 |
| | | | | 51 | 73 |
| 合計 | | | | | 124 |

※学部共通選択科目は、第１、第２、第３区分から各２科目以上、第４区分から１科目以上、合計35単位を修得する必要がある。

## 【視覚デザイン学科】

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| ２年次進級要件 | 「基礎造形実習Ⅰ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）・（複合造形）」及び「基礎造形実習Ⅱ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）」 の９科目18単位をすべて修得していること。 |
| ３年次進級要件 | 「視覚デザイン基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（２科目８単位）及び区分「選択必修①」から１科目（４単位）、区分「選択必修②」から１科目（４単位）の、計４科目16単位を修得していること。 |
| ４年次進級要件 | ３年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの２科目８単位を修得していること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | | | 1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 必修 | 選択 | |
| 教養科目 | キャリアデザイン | 必修 | | | 4 | 4 | | |
| | 言語系 | 選択必修 | | | 20 | | 4 | |
| | | 選択 | | | 32 | | 14 | |
| 小計 | | | | | | 4 | 18 | |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | | | 14 | 14 | | |
| | | 選択 | | | 88 | | 29 | |
| | 学科共通 | 必修 | | | 29 | 29 | | |
| | | 選択 | 選択必修① | | 12 | | 4 | 12 |
| | | | 選択必修② | | 16 | | 4 | |
| | | | 選択（①、②を除く） | | 8 | | | |
| | コース別演習 | 選択 | | | 16 | | 8 | |
| | ゼミ | 必修 | | | 4 | 4 | | |
| | 卒業研究 | 必修 | | | 6 | 6 | | |
| 小計 | | | | | | 53 | 49 | |
| | | | | | | 57 | 67 | |
| 合計 | | | | | | | 124 | |

※学部共通選択科目は、第１、第２、第３区分から各２科目以上、第４区分から１科目以上、合計29単位を修得する必要がある。
※学科共通選択科目は、選択必修①、②からそれぞれ４単位以上、またその他の選択科目を合わせ合計12単位以上を修得する必要がある。

**【美術・工芸学科】**

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| ２年次進級要件 | 「基礎造形実習Ⅰ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）・（複合造形）」及び「基礎造形実習Ⅱ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）」の９科目18単位をすべて修得していること。 |
| ３年次進級要件 | 「美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画）・（彫刻）・（工芸）・（複合）」及び「美術・工芸基礎演習Ⅱ」の５科目16単位を修得していること。 |
| ４年次進級要件 | 「３年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ゼミⅠ・Ⅱ」の４科目12単位を修得していること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | 第1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 |
| 教養科目 | キャリアデザイン | 必修 | 4 | 4 | |
| | 言語系 | 選択必修 | 20 | | 4 |
| | | 選択 | 32 | | 12 |
| 小計 | | | | 4 | 16 |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | 14 | 14 | |
| | | 選択 | 88 | | 27 |
| | 学科共通 | 必修 | 35 | 35 | |
| | | 選択 | 22 | | 10 |
| | コース別演習 | 選択 | 16 | | 8 |
| | ゼミ | 必修 | 4 | 4 | |
| | 卒業研究 | 必修 | 6 | 6 | |
| 小計 | | | | 59 | 45 |
| | | | | 63 | 61 |
| 合計 | | | | | 124 |

※学部共通選択科目は、第１、第２、第３区分から各２科目以上、第４区分から１科目以上、合計27単位を修得する必要がある。

**【建築・環境デザイン学科】**

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| ２年次進級要件 | 「基礎造形実習Ⅰ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）・（複合造形）」及び「基礎造形実習Ⅱ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）」 の９科目18単位をすべて修得していること。 |
| ３年次進級要件 | 「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の３科目のうちから２科目８単位以上を修得していること。 |
| ４年次進級要件 | 「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「３年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」の５科目20単位のうちから、４科目16単位以上を修得していること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | 第1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 |
| 教養科目 | キャリアデザイン | 必修 | 4 | 4 | |
| | 言語系 | 選択必修 | 20 | | 4 |
| | | 選択 | 32 | | 10 |
| 小計 | | | | 4 | 14 |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | 14 | 14 | |
| | | 選択 | 88 | | 16 |
| | 学科共通 | 必修 | 45 | 45 | |
| | | 選択 | 28 | | 16 |
| | コース別演習 | 選択 | 16 | | 8 |
| | ゼミ | 必修 | 4 | 4 | |
| | 卒業研究 | 必修 | 6 | 6 | |
| 小計 | | | | 69 | 40 |
| | | | | 73 | 54 |
| 合計 | | | | | 127 |

※学部共通選択科目は、第１、第２、第３区分から各２科目以上、第４区分から１科目以上、合計16単位を修得する必要がある。

# 4　卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針（2023年度以降入学者）

## 4-1 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

長岡造形大学造形学部は、造形を通して真の人間的豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成します。

この実現のために、次の能力を身に付け、学則に定める卒業要件を満たした者に卒業を認定し、学士（造形）の学位を授与します。

**［教育目標に掲げる５つの能力］**

**▶ ものごとの本質を捉え、創造するための「観る力」**
**▶ 思いをかたちにするための「つくる力」**
**▶ 思いを共有し、協働するための「聴く力」と「伝える力」**
**▶ 変化や多様性に対応できる知識・技能をそなえた「専門力」**
**▶ 人、社会、自然及び倫理観を支える幅広い「普遍的な教養」**

## 4-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

長岡造形大学造形学部では、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身に付けるため、教養科目及び学部共通・学科共通に区分する専門教育科目を体系的に編成し、以下のとおりカリキュラムを実施します。

▶初年次は、観る力とつくる力を支える「造形・表現としてのデザイン」と「問題発見・解決としてのデザイン」を基礎から修得する授業科目を実施します。あわせて、人間形成及びデザインの学修に必要な知識を広げ、素養を高めるための教養科目を実施します。

▶２年次は、１年次後期から引き続き、前期に専門分野に関する知識・技術を幅広く修得し、軸足となる専門性を見い出す授業科目を実施します。後期は、それを基に能動的な学修を通して専門性を高める授業科目を実施します。
また２年次からは、表現を通して適切に伝える力を実習・演習にて身につけるとともに、コミュニケーション能力を養いながら地域と協働し課題の解決を目指すプロジェクトや社会・企業等で実務に取り組む地域・社会連携系の授業科目を実施します。

▶３年次は、実践的な授業を通して、専門的技能を高めるとともに、自らが設定する課題に対し、その達成に向けて応用的に取り組む授業科目を実施します。

▶４年次は、これまで修得した知識及び専門的技能を統合し、広い視点から専門性を探究するとともに、豊かな創造性を発揮し取り組む卒業研究を実施します。

▶各授業科目は、シラバスに記載する達成目標の達成度に従い、厳正な成績評価を実施します。

# 4-3 学科紹介

## ● デザイン学科　Department of Design

**〔目的〕**

デザイン学科は、プロダクトデザイン、テクノロジー×デザイン、視覚デザインの領域を包括するデザインの対象と役割を捉え、時代とともに変化し多様化する社会で、高い専門力をもとに枠に捕らわれない柔軟かつ創造力をもって対応できる能力を備える人材を育成することを目的とします。

**〔概要〕**

デザイン学科は、プロダクトデザイン、視覚デザイン、テクノロジー×デザインの３つの領域で構成し、製品デザイン、テキスタイルデザイン、ファッションデザイン、映像、写真、グラフィックデザイン、イラストレーション、UI/UXデザイン、Web・アプリ、メディアアートなどの分野を自らの意思で主体的に選択し学ぶことにより、時代とともに変化し多様化する社会で、高い専門力をもとに柔軟に対応できる能力を発揮し、活躍するデザイナーの育成を目指します。

- プロダクトデザイン領域では、カタチや機能だけではなく、そのモノのあり方や人や社会との関わりまでを考え提案するため、幅広い視野を持って問題発見・解決及びアイデアを「カタチにするスキル」を身につけ提案できる者を育成します。またテキスタイルを切り口とし、社会のニーズに適応したファッションやインテリアなどの布に関わるデザインを創造できる者を育成します。
- 視覚デザイン領域では、単に視覚的な表現技法を学ぶだけではなく、ものごとの本質を見極め、問題を解決する能力や多様なメディアに対応したビジュアル表現をコントロールする力を身についていきます。また表現力に頼りすぎず、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、社会に結びつけて展開できる者を育成します。
- テクノロジー×デザイン領域では、デザインにテクノロジーを掛け合わせ、将来を見据えたデザイン理論とそれを実現する機構や仕組みを理解し、「カタチに実装できるスキル」を身につけ体験価値を提供できる者を育成します。

**対象となる分野：**

家電製品、情報機器、産業機械、モビリティ、家具、生活雑貨、照明器具、リビング用品、ファッションなどの身の回りのものに関する製品デザイン、服地、カーペット、タペストリーなどの繊維素材に関するテキスタイルデザイン、UI/UXデザイン、3DCG、Web・アプリ、広告、グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、Webデザイン、インフォメーションデザイン、パッケージデザイン、ブランディングデザイン、ヴィジュアルアイデンティティ、コマーシャル、広告写真、イラストレーション、アニメーション、モーショングラフィックス、映像、キャラクターデザイン、ゲームデザイン、メディアアート　　など

## ● 美術・工芸学科　Department of Arts and Crafts

**〔目的〕**

美術・工芸学科は、デザインに通底する「美」の根本を支える美術とクラフトデザインの２領域７分野を学修できる学科です。各分野の専門性を軸とし、これからの社会に必要な共感力をもち、能動的に考え、革新性をもったクリエイターの育成を目的とします。

**〔概要〕**

絵画、版画、彫刻で構成する美術領域は、独自の視点で人や社会を見つめ、自らの柔軟な発想力と表現力と造形力を掛け合わせ、新たな価値を創造する能力を養います。

鍛金、彫金、鋳金、ガラスで構成するクラフトデザイン領域では、素材との対話により修得した技法と、多様な造形活動により養われた自身の感性を融合することで、これからの社会や生活に求められる創造性豊かな表現力を養います。

- 自主的に選択した専門性を軸としつつ、デザインの根本を支える幅広い教養を獲得し、それぞれの学生がもつ創造性の発揮を目指す、領域・分野をまたいだ実習・演習や制作環境を提供します。
- 授業を通した制作と発表活動には、自己を含めた深い人間観察と他者との関わりが必要とされます。それらのプロセスを経て、現代社会で求められる共感力を育みます。
- 社会が必要とする共感力を持ったクリエイターを育成します。
  - ・オリジナリティーを発揮し、社会に対して新たな価値を提案できる人材（アーティスト、プランナー、起業家、教育職）
  - ・実際にモノに落とし込むための、イメージと形をつなぐ役割を果たす人材（クラフトデザイナー、ビジュアルデザイナー、プロダクトデザイナー）
  - ・確かな技術をいかした伝統を引き継ぎつつ、新たなモードを創造できる人材（工芸家、クラフト作家、技術職）

## ● 建築・環境デザイン学科　Department of Architecture and Environmental Design

**〔目的〕**

今は生物多様性の時代。メトロポリスより、自然豊かな環境の方が先を行きます。よって、コンクリートやアスファルトに囲まれた空間ではなく、人と生物や植物が生きた空間と環境のデザインに重きを置きます。領域は幅広く、建築・構造・ランドスケープ・インテリア、生活空間からコミュニティ空間、文化財の保存、まちづくり・都市計画まで多彩です。

これからの世界は、人と社会からの視点と、自然や環境からの視点の両視点からのデザインが求められています。確かな技術力を身につけ、学生ひとりひとりの多彩な考え方や個性をとらえて伸ばし、次の時代が求める豊かでしなやかなハートも持ったデザイナーを育てます。

所定の単位を取れば、一級および二級建築士受験資格を取得することのできるカリキュラムとなっています（新潟県内では長岡造形大学、新潟大学、新潟工科大学の３大学のみです）。実際、本学の卒業生に多くの一級建築士が誕生し、活躍しています。

**〔概要〕**

**建築分野**

- 建築をランドスケープや街まで連続する中にとらえます。エキサイティングな演習に取り組むことにより、建築＆環境の美しいデザイン、斬新なデザイン、伝統的なデザイン、そして構造と設備のエンジニアリングを修得します。

**インテリア分野**

- インテリアデザインとともに、建築再生／リノベーション／リフォームを学び、すでにある空間資源を見事に生き返らせるデザイン力を身につけます。

**ランドスケープ分野**

- ソフトな自然や里山や地域環境を重視し、山・川・海における、人々や生物や植物が生き生きと活動する空間を設計する感性と技術を身につけます。

**都市計画・まちづくり分野**

- 具体的な空間のデザインだけではなく、都市環境が健やかに持続するための制度のデザインや仕組みのデザインを考え出す力をつけます。

**文化財保存・活用分野**

- 成熟した社会において、街並みや歴史的な建造物など、既存の資源に着目し、これらを保全・活用したり新たな仕掛けを施すことで、暮らしやすさを実現できるような創造力・行動力を身につけます。
- 学芸員資格の取得を目指します。

# 5 カリキュラムの教育課程（2023年度以降入学者）

# 5-1 カリキュラム体系（2023年度以降入学者）

## 令和５（2023）年度入学者対象カリキュラム カリキュラムフロー

研究室配属

| | | １年次 前期 | １年次 後期 進級要件 | ２年次 前期 | ２年次 後期 進級要件 | ３年次 前期 | ３年次 後期 進級要件 | ４年次 前期 | ４年次 後期 卒業要件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養科目 | | ②スポーツ<br>②論理学<br>②長岡学<br>②英語Ⅰ<br>②英語アドバンスⅠ | ②保健体育講義<br>②統計学<br>②情報リテラシー論<br>②生物学<br>②英語Ⅱ<br>②英語アドバンスⅡ | ②社会心理学<br>②日本文化論<br>②現代社会論<br>②社会起業 | ②美術論<br>②文化人類学<br>②デザインと持続可能性<br>②科学技術論<br>②創作に係る倫理と知的財産<br>②AI・データサイエンス概論 | ②プロフェッショナル | ②哲学<br>**教養科目を通して知識を広げ、素養を高める** | | |
| 専門教育科目<br>学部共通 | 必修科目 | ⓬基礎造形演習<br>❷NID 造形概論<br>❷発想・着想概論 | ❷発想・着想演習<br>❷色彩学<br>**学部全体でデザインの基礎を学ぶ** | ❶キャリアデザイン | | | | | |
| | 第１区分<br>美術・工芸系 | ②日本美術史 | ②美術・工芸概論<br>②西洋美術史<br>②形態デザイン論 | ②美術解剖学<br>②現代芸術論 | ①美術・工芸特別講義 | ②美術原論 | ②認知科学 | | |
| | 第２区分<br>デザイン系 | ②デザイン概論<br>②プログラミングⅠ | ②人間工学<br>②プログラミングⅡ | ②メディアビジネス概論 | ②デザイン特別講義<br>②デザイン思想論<br>②ユーザインターフェースデザイン論<br>②マーケティング論<br>②広告論 | ②デザイン感性工学<br>②サインデザイン概論 | | | |
| | 第３区分<br>建築・環境系 | | ②建築・環境デザイン概論 | ②インテリア<br>②空間安全論<br>②文化財学概論<br>②緑地環境計画<br>②建築史Ⅰ | ②居住論<br>①建築・環境デザイン特別講義 | ②博物館概論 | | | |
| | 第４区分<br>社会連携系 | | | ②地域協創演習Ａ　①ボランティア実習Ａ<br>④地域協創演習Ｓ　①インターンシップＡ | ②地域協創演習Ｂ　①ボランティア実習Ｂ<br>①インターンシップＢ | ②地域協創演習Ｃ<br>**地域と協働し課題の解決を目指すプロジェクトや社会・企業等で実施に取り組む** | | | |
| デザイン学科<br>専門教育科目<br>学科専門 | | ❷デザイン概論<br>❷コンピュータ基礎Ⅰ<br>②プログラミングⅠ | ⓬デザイン基礎演習Ⅰ<br>❷コンピュータ基礎Ⅱ<br>②プログラミングⅡ<br>②3D CAD 演習<br>④プロダクトスケッチ演習<br>**学科ごとの基礎演習を通して専門の軸足を見出す** | ❹デザイン基礎演習Ⅱ<br>❷デザイン要素技術<br>❷デザイン史<br>④フィジカルコンピューティング<br>②3DCG 演習<br>④タイポグラフィⅠ<br>④描写<br>④写真基礎<br>④アニメーション基礎 | ❹スタジオ演習Ⅰ<br>❷デザイン特別講義<br>②スクリーンメディアデザイン<br>②ファッション・プロダクト基礎<br>④タイポグラフィⅡ<br>②生産技術論<br>④サウンドデザイン<br>**学科ごとの専門演習を通して能動的に専門性を高める　›　専門的技能を高め、応用的に取り組む** | ❹スタジオ演習Ⅱ<br>④コトバのデザイン<br>②テキスタイル・ファッションコンピュータ演習<br>④パッケージデザイン演習<br>②ポートフォリオ | ❹スタジオ演習Ⅲ | ❹卒業研究Ⅰ<br>**知識・専門的技能を統合し、集大成となる卒業研究に取り組む** | ❻卒業研究Ⅱ |
| 美術・工芸学科<br>専門教育科目<br>学科専門 | | ❷コンピュータ基礎Ⅰ | ⓬美術・工芸基礎演習<br>❷コンピュータ基礎Ⅱ<br>❷美術・工芸概論<br>④プロダクトスケッチ演習<br>②美術・工芸描画演習<br>**学科ごとの基礎演習を通して専門の軸足を見出す** | ❹美術・工芸基礎実習Ⅰ<br>❷美術・工芸材料学<br>②図法デザイン演習 | ❹美術・工芸基礎実習Ⅱ<br>❶美術・工芸特別講義<br>②3DCAD 演習<br>②古美術研究<br>②社会実践分析<br>**学科ごとの専門演習を通して能動的に専門性を高める　›　専門的技能を高め、応用的に取り組む** | ❽美術・工芸演習Ⅰ<br>②美術工芸史<br>④パッケージデザイン演習 | ❽美術・工芸演習Ⅱ | ❹卒業研究Ⅰ<br>**知識・専門的技能を統合し、集大成となる卒業研究に取り組む** | ❻卒業研究Ⅱ |
| 建築・環境デザイン学科<br>専門教育科目<br>学科専門 | | ❷コンピュータ基礎Ⅰ<br>❷製図実習 | ❹建築・環境デザイン演習Ⅰ<br>❻建築・環境表現<br>❷コンピュータ基礎Ⅱ<br>❷建築・環境デザイン概論<br>❷建築構法<br>**学科ごとの基礎演習を通して専門の軸足を見出す** | ❹建築・環境デザイン演習Ⅱ<br>❷建築史Ⅰ<br>❷建築材料実験<br>❷建築計画Ⅰ<br>❷建築構造<br>❶建築・環境デザイン論<br>②測量学<br>②都市計画・まちづくり<br>②建築・環境 CG 実習Ⅰ | ❹建築・環境デザイン演習Ⅲ<br>❶建築・環境デザイン特別講義<br>❷建築環境工学<br>❷構造力学Ⅰ<br>②建築生産論<br>②建築計画Ⅱ<br>②建築・環境 CG 実習Ⅱ<br>②建築史Ⅱ<br>②緑地環境設計<br>**学科ごとの専門演習を通して能動的に専門性を高める　›　専門的技能を高め、応用的に取り組む** | ❹建築・環境デザイン演習Ⅳ<br>❷建築法規<br>②構造力学Ⅱ<br>②建築設備<br>②建築設計<br>②エコロジカルプランニング<br>②リノベーション・デザイン論 | ❹建築・環境デザイン演習Ⅴ<br>❷ゼミ<br>②コミュニティデザイン | ❹卒業研究Ⅰ<br>**知識・専門的技能を統合し、集大成となる卒業研究に取り組む** | ❻卒業研究Ⅱ |

領域課題の選択
プロダクトデザイン
テクノロジー × デザイン
視覚デザイン

●は必修科目　○は選択科目　科目名が赤色：進級要件にかかわる科目　数字は単位数

# 5-2 授業科目・単位数・担当教員（2023年度以降入学者）

## (1) 教養科目

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 授業形態 | 開講学年・学期 | | | | | | | | 担当教員 | 卒業資格最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | |
| | | 必修 | 選択 | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 選択 | スポーツ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | ＊篠田 | 選択14～16単位以上（所属学科により異なる） |
| | 論理学 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | ＊市野 | |
| | 長岡学 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | ◎渡邉／＊生島／＊上村／＊小笠原／＊鈴木(将)／＊高見／＊田中(聡)／＊田中(洋)／＊田邊／＊筑波／＊平澤／ | |
| | 英語Ⅰ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー | |
| | 英語Ⅱ | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー／＊レイサム | |
| | 英語アドバンスⅠ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏 | |
| | 英語アドバンスⅡ | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊レイサム | |
| | 保健体育講義 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | ＊篠田 | |
| | 統計学 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | 福本 | |
| | 情報リテラシー論 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | ＊横田 | |
| | 生物学 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | ＊岩井 | |
| | 社会心理学 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | ＊堀川 | |
| | 日本文化論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | ＊木林 | |
| | 現代社会論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | ＊広田 | |
| | 社会起業 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | 福本 | |
| | 美術論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | ＊安藤 | |
| | 文化人類学 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | 板垣 | |
| | デザインと持続可能性 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | 池田／板垣／柏原／中村／水川／◎渡邉 | |
| | 科学技術論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | ＊寺島 | |
| | 創作に係る倫理と知的財産 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | ＊藤澤 | |
| | AI・データサイエンス概論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | ◎森本／＊和久井 | |
| | プロフェッショナル | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | ◎長瀬／池田／＊非常勤 | |
| | 哲学 | | 2 | 講義 | | | | | | ■ | | | 菅原 | |
| | 計 | | 46 | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。

## (2) 専門教育科目［学部共通］

| 区分 | | 授業科目 | 単位 必修 | 単位 選択 | 授業形態 | 開講学年/学期 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に関わる科目 | 担当教員 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目［学部共通］ | | 基礎造形演習 | 12 | | 演習 | ■ | | | | | | | | ◇ | 阿部/天野/池田/遠藤/岡谷/金澤/金山/川和/菅野/菊池/北/吉川/◎金/小林/境野/佐藤/菅原/鈴木/伊達/土田/津村/徳久/長瀬/中村/長谷川/羽原/ビューラ/平原/平山/福本/真壁/増田/松本/水川/御法川/森/藪内/山本(敦)/山下/山田/渡邉/＊奥田/＊柏田/＊川上(敦)/＊北村/＊たかだ/＊星/＊森崎/＊李 | 必修21単位 | |
| | | NID造形概論 | 2 | | 講義 | ■ | | | | | | | | | 馬場 | | |
| | | 発想・着想概論 | 2 | | 講義 | ■ | | | | | | | | | ◎板垣/＊竹丸/＊二階堂 | | |
| | | 発想・着想演習 | 2 | | 演習 | | ■ | | | | | | | | 板垣/北/小松/境野/竹田/伊達/平原/◎水川/森本 | | |
| | | 色彩学 | 2 | | 講義 | | ■ | | | | | | | | ＊三井 | | |
| | | キャリアデザイン | 1 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎キャリアデザインセンター長/＊非常勤 | | |
| | | 計 | 21 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第1区分 | 日本美術史 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | | ＊芹生 | 美術/工芸系選択3単位以上 | 第1～4区分から合計21～24単位以上（所属学科により異なる） |
| | | 美術・工芸概論 ※1 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | | 遠藤/岡谷/菅野/小林/鈴木/◎中村/長谷川/藪内 | | |
| | | 西洋美術史 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | | ＊安藤 | | |
| | | 形態デザイン論 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | | ＊三井 | | |
| | | 美術解剖学 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | ＊高橋(美) | | |
| | | 現代芸術論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | ＊兼松 | | |
| | | 美術・工芸特別講義 ※1 | | 1 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎中村/＊尾関/＊辻/＊中﨑/＊平島 | | |
| | | 美術原論 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | 小松 | | |
| | | 認知科学 | | 2 | 講義 | | | | | | ■ | | | | ＊縣 | | |
| | | 計 | | 17 | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2区分 | デザイン概論 ※1 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | | 阿部/天野/池田/金澤/金山/金石/川和/菊池/吉川/金/境野/鈴木/伊達/◎土田/徳久/長瀬/ビューラ/平原/真壁/増田/松本/水川/御法川/山田/山本(敦)/山本(信) | デザイン系選択4単位以上 | |
| | | プログラミングⅠ ※2 | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | | 平原/◎真壁 | | |
| | | 人間工学 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | | ＊秋元 | | |
| | | プログラミングⅡ ※2 | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | | 金山/◎平原/真壁/＊藤原 | | |
| | | メディアビジネス概論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | 水川 | | |
| | | デザイン特別講義 ※1 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎池田/＊非常勤 | | |
| | | デザイン思想論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎境野/＊非常勤 | | |
| | | ユーザインタフェースデザイン論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ＊尾田 | | |
| | | マーケティング論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎水川/川和 | | |
| | | 広告論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎水川/＊角田 | | |
| | | デザイン感性工学 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | 境野 | | |
| | | サインデザイン概論 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | ◎金/吉川/山本(敦)/＊鎌田 | | |
| | | 計 | | 24 | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3区分 | 建築・環境デザイン概論 ※1 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | | 柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/平山/福本/森/山下/与那嶺/渡邉 | 建築/環境系選択3単位以上 | |
| | | インテリア | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | 羽原/◎森 | | |
| | | 空間安全論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎福本/＊稲垣 | | |
| | | 文化財学概論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎津村/＊武内/＊中山/＊西田/＊前嶋/＊三国 | | |
| | | 緑地環境計画 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | 柏原 | | |
| | | 建築史Ⅰ ※3 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎平山/津村 | | |
| | | 居住論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | 山下 | | |
| | | 建築・環境デザイン特別講義 ※1 | | 1 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎佐藤/＊伊藤(拓)/＊後藤/＊田辺/＊松村 | | |
| | | 博物館概論 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | ＊斎藤(優) | | |
| | | 計 | | 17 | | | | | | | | | | | | | |
| | 第4区分 | 地域協創演習A | | 2 | 演習 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | 地域・社会連携系選択1単位以上 | |
| | | 地域協創演習B | | 2 | 演習 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | | |
| | | 地域協創演習C | | 2 | 演習 | | | | | ■ | ■ | | | | 専任教員 | | |
| | | 地域協創演習S | | 4 | 演習 | | | | ■ | | | | | | 専任教員 | | |
| | | インターンシップA | | 1 | 実習 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | | |
| | | インターンシップB | | 1 | 実習 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | | |
| | | ボランティア実習A | | 1 | 実習 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | | |
| | | ボランティア実習B | | 1 | 実習 | | | ■ | ■ | | | | | | 専任教員 | | |
| | | 計 | | 14 | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | | | 72 | | | | | | | | | | | | | |

注1＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注2＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注3＝進級要件について　第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること
注4＝※1印　所属学科以外の概論・特別講義を学部共通選択科目とする。
注5＝※2印　デザイン学科は学科共通選択科目とする。
注6＝※3印　建築・環境デザイン学科は学科共通選択科目とする。

## (3) 専門教育科目［デザイン学科］

| 区分 | 科目名 | 単位数 | | 授業形態 | 開講学年・学期 | | | | | | | | 進級に必要な科目 | 担当教員 | 卒業要件単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | | |
| | | 必修 | 選択 | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | |
| 専門教育科目［デザイン学科共通］<br>必修 | デザイン概論 | 2 | | 講義 | ■ | | | | | | | | | 阿部／天野／池田／金澤／金山／金石／川和／菊池／吉川／金／境野／鈴木／伊達／◎土田／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／増田／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信) | 必修40単位 |
| | コンピュータ基礎Ⅰ | 2 | | 演習 | ■ | | | | | | | | | 金澤／◎金／伊達／徳久／平原 | |
| | デザイン基礎演習Ⅰ | 12 | | 演習 | | ■ | | | | | | | ◇ | 阿部／天野／池田／金石／金澤／金山／川和／菊池／吉川／金／境野／鈴木／伊達／◎土田／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／増田／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信)／＊沖／＊川崎／＊関谷／＊高島／＊たかだ／＊原田／＊HARUKI／＊矢尾板／＊若子 | |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | 演習 | | ■ | | | | | | | | 阿部／金澤／金山／金／伊達／◎平原 | |
| | デザイン要素技術 | 2 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | 阿部／池田／◎境野／天野／菊池／伊達／＊非常勤 | |
| | デザイン史 | 2 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎土田／＊非常勤 | |
| | デザイン基礎演習Ⅱ | 4 | | 演習 | | | ■ | | | | | | △ | 阿部／天野／池田／金澤／金山／金石／川和／菊池／吉川／金／境野／鈴木／伊達／◎土田／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／増田／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信)／＊非常勤 | |
| | デザイン特別講義 | 2 | | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎池田／＊非常勤 | |
| | スタジオ演習Ⅰ | 4 | | 演習 | | | | ■ | | | | | △ | 阿部／天野／池田／金澤／金山／金石／川和／菊池／吉川／金／境野／鈴木／伊達／◎土田／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／増田／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信)／＊非常勤 | |
| | スタジオ演習Ⅱ | 4 | | 演習 | | | | | ■ | | | | ◆ | 阿部／天野／池田／金澤／金山／金石／川和／菊池／吉川／金／境野／鈴木／伊達／◎土田／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／増田／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信)／＊非常勤 | |
| | スタジオ演習Ⅲ | 4 | | 演習 | | | | | | ■ | | | ◆ | 阿部／天野／池田／金澤／金山／金石／川和／菊池／吉川／金／境野／鈴木／伊達／◎土田／徳久／長瀬／ビューラ／平原／真壁／増田／松本／水川／御法川／山田／山本(敦)／山本(信)／＊非常勤 | |
| | 計 | 40 | | | | | | | | | | | | | |
| 選択 | プログラミングⅠ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | | 平原／◎真壁 | 選択16単位以上 |
| | プログラミングⅡ | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | | 金山／◎平原／真壁／＊藤原 | |
| | 3DCAD演習 | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | | ◎金山／増田 | |
| | プロダクトスケッチ演習 | | 4 | 演習 | | ■ | | | | | | | | ◎増田／川和 | |
| | フィジカルコンピューティング | | 4 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎真壁／平原／森本 | |
| | 3DCG演習 | | 2 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎伊達／＊非常勤 | |
| | 描写 | | 4 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎御法川／長瀬／＊非常勤 | |
| | タイポグラフィⅠ | | 4 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎天野／吉川／＊非常勤 | |
| | 写真基礎 | | 4 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎阿部／松本／＊非常勤 | |
| | アニメーション基礎 | | 4 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎ビューラ／＊万年／＊非常勤 | |
| | サウンドデザイン | | 4 | 演習 | | | | ■ | | | | | | ◎ビューラ／＊非常勤 | |
| | スクリーンメディアデザイン | | 2 | 実習 | | | | ■ | | | | | | ◎徳久／＊非常勤 | |
| | タイポグラフィⅡ | | 4 | 演習 | | | | ■ | | | | | | ◎天野／吉川／＊非常勤 | |
| | ファッション・プロダクト基礎 | | 2 | 実習 | | | | ■ | | | | | | ◎金石 | |
| | 生産技術論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎境野／菊池／増田／池田／＊非常勤 | |
| | テキスタイル・ファッションコンピュータ演習 | | 2 | 演習 | | | | | ■ | | | | | ◎鈴木／金石／＊非常勤 | |
| | コトバのデザイン | | 4 | 演習 | | | | | ■ | | | | | ◎水川／天野／＊非常勤 | |
| | パッケージデザイン演習 | | 4 | 演習 | | | | | ■ | | | | | ◎山本(敦)／池田／＊非常勤 | |
| | ポートフォリオ | | 2 | 実習 | | | | | ■ | | | | | 川和／◎吉川／増田／＊非常勤 | |
| | 計 | | 58 | | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 卒業研究Ⅰ | 4 | | 演習 | | | | | | | ■ | ■ | | 専任教員 | 必修10単位 |
| | 卒業研究Ⅱ | 6 | | 演習 | | | | | | | ■ | ■ | | 専任教員 | |
| | 計 | 10 | | | | | | | | | | | | | |

注1＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注2＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注3＝進級要件について
第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること
第3学年進級要件：△印の科目の単位をすべて修得すること
第4学年進級要件：◆印の科目の単位をすべて修得すること

## (4) 専門教育科目［美術・工芸学科］

| 区分 | 科目名 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 授業形態 | 開講学年・学期 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に必要な科目 | 担当教員 | 卒業要件単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目<br>［美術･工芸学科共通］<br><br>必修 | コンピュータ基礎Ⅰ | 2 | | 演習 | ■ | | | | | | | | | ◎岡谷 / 長谷川 | 必修 45 単位 |
| | 美術・工芸概論 | 2 | | 講義 | | ■ | | | | | | | | 遠藤 / 岡谷 / 菅野 / 小林 / 鈴木 / ◎中村 / 長谷川 / 藪内 | |
| | 美術・工芸基礎演習 | 12 | | 演習 | | ■ | | | | | | | ◇ | 遠藤 / 岡谷 / 菅野 / 小林 / 中村 / 竹田 / ◎長谷川 / 藪内 / ＊柏田 / ＊川﨑 / ＊星 / ＊三栖 / ＊森崎 / ＊門馬＊李 | |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | 演習 | | ■ | | | | | | | | 森本 | |
| | 美術・工芸材料学 | 2 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | 長谷川 / ＊非常勤 | |
| | 美術・工芸基礎実習Ⅰ | 4 | | 実習 | | | ■ | | | | | | △ | 遠藤 / 岡谷 / 小林 / 菅野 / 長谷川 / 藪内 / 中村 / ＊非常勤 | |
| | 美術・工芸特別講義 | 1 | | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎中村 / ＊尾関 / ＊辻 / ＊中﨑 / ＊平島 | |
| | 美術・工芸基礎実習Ⅱ | 4 | | 実習 | | | | ■ | | | | | △ | 遠藤 / 岡谷 / 小林 / 菅野 / 長谷川 / 藪内 / 中村 / ＊非常勤 | |
| | 美術・工芸演習Ⅰ | 8 | | 演習 | | | | | ■ | | | | ◆ | 遠藤 / 岡谷 / 小林 / 菅野 / 長谷川 / 藪内 / 中村 / ＊非常勤 | |
| | 美術・工芸演習Ⅱ | 8 | | 演習 | | | | | | ■ | | | ◆ | 遠藤 / 岡谷 / 小林 / 菅野 / 長谷川 / 藪内 / 中村 / ＊非常勤 | |
| | 計 | 45 | | | | | | | | | | | | | |
| 選択 | プロダクトスケッチ演習 | | 4 | 演習 | | ■ | | | | | | | | ◎増田 / 川和 | 選択 8 単位以上 |
| | 美術・工芸描画演習 | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | | 遠藤 / ◎岡谷 / ＊羽川 | |
| | 図法デザイン演習 | | 2 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎長谷川 / 非常勤 | |
| | 3DCAD 演習 | | 2 | 演習 | | | | ■ | | | | | | 金山 / ◎土田 | |
| | 古美術研究 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | 遠藤 / 岡谷 / 小林 / 菅野 / 長谷川 / 藪内 / 中村 / ＊非常勤 | |
| | 社会実践分析 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎岡谷 / 非常勤 | |
| | 美術工芸史 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | ＊木田(拓) | |
| | パッケージデザイン演習 | | 4 | 演習 | | | | | ■ | | | | | ◎山本(敦)/ 池田 / ＊非常勤 | |
| | 計 | | 20 | | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 卒業研究Ⅰ | 4 | | 演習 | | | | | | | ■ | ■ | | 専任教員 | 必修 10 単位 |
| | 卒業研究Ⅱ | 6 | | 演習 | | | | | | | ■ | ■ | | 専任教員 | |
| | 計 | 10 | | | | | | | | | | | | | |

注１＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注２＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注３＝進級要件について
第２学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること
第３学年進級要件：△印の科目の単位をすべて修得すること
第４学年進級要件：◆印の科目の単位をすべて修得すること

## (5) 専門教育科目［建築・環境デザイン学科］

| 区分 | 科目名 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 授業形態 | 開講学年・学期 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 進級に必要な科目 | 担当教員 | 卒業要件単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目［建築・環境デザイン学科共通］必修 | コンピュータ基礎Ⅰ | 2 | | 演習 | ■ | | | | | | | | | ＊武井 | 必修54単位 |
| | 製図実習 | 2 | | 実習 | ■ | | | | | | | | | 平山／◎森 | |
| | 建築・環境デザイン概論 | 2 | | 講義 | | ■ | | | | | | | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | |
| | 建築・環境表現 | 6 | | 演習 | | ■ | | | | | | | ◇ | 北／◎佐藤／津村／羽原／平山／森／山下／＊廣田／＊西澤／＊武井／＊木田 | |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | 演習 | | ■ | | | | | | | | ＊武井 | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅰ | 4 | | 演習 | | ■ | | | | | | | △ | 柏原／◎佐藤／津村／羽原／山下／＊高坂 | |
| | 建築構法 | 2 | | 講義 | | ■ | | | | | | | | 平山 | |
| | 建築史Ⅰ | 2 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎平山／津村 | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅱ | 4 | | 演習 | | | ■ | | | | | | △ | 佐藤／津村／与那嶺／羽原／北／＊非常勤 | |
| | 建築材料実験 | 2 | | 実習 | | | ■ | | | | | | | 佐藤／平山／森／津村／北／＊白井 | |
| | 建築計画Ⅰ | 2 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎北／佐藤 | |
| | 建築構造 | 2 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | 与那嶺 | |
| | 建築・環境デザイン論 | 1 | | 講義 | | | ■ | | | | | | | ◎佐藤／菅原／平山／森／山下 | |
| | 建築・環境デザイン特別講義 | 1 | | 講義 | | | | ■ | | | | | | ◎佐藤／＊伊藤(拓)／＊後藤／＊田辺／＊松村 | |
| | 建築環境工学 | 2 | | 講義 | | | | ■ | | | | | | ＊松延 | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅲ | 4 | | 演習 | | | | ■ | | | | | △ | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉／＊非常勤 | |
| | 構造力学Ⅰ | 2 | | 講義 | | | | ■ | | | | | | 与那嶺 | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅳ | 4 | | 演習 | | | | | ■ | | | | ◆ | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | |
| | 建築法規 | 2 | | 講義 | | | | | ■ | | | | | ◎佐藤／＊川合 | |
| | ゼミ | 2 | | 演習 | | | | | | ■ | | | | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅴ | 4 | | 演習 | | | | | | ■ | | | ◆ | 柏原／北／◎佐藤／菅原／津村／羽原／平山／福本／森／山下／与那嶺／渡邉 | |
| | 計 | 54 | | | | | | | | | | | | | |
| 選択 | 測量学 | | 2 | 演習 | | | ■ | | | | | | | ◎平山／福本／渡邉／＊高橋(有)／＊渡邊(信) | 選択14単位以上 |
| | 建築・環境CG実習Ⅰ | | 2 | 実習 | | | ■ | | | | | | | ＊佐藤(圭)／◎＊髙木 | |
| | 都市計画・まちづくり | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | | 渡邉 | |
| | 建築生産論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | 津村 | |
| | 建築計画Ⅱ | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | 北／◎佐藤 | |
| | 緑地環境設計 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | 柏原 | |
| | 建築・環境CG実習Ⅱ | | 2 | 実習 | | | | ■ | | | | | | ＊佐藤(圭)／◎＊髙木 | |
| | 建築史Ⅱ | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | | 津村／◎平山 | |
| | リノベーション・デザイン論 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | 羽原 | |
| | 構造力学Ⅱ | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | 与那嶺 | |
| | 建築設備 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | ＊田中(準) | |
| | 建築設計 | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | 山下 | |
| | エコロジカルプランニング | | 2 | 講義 | | | | | ■ | | | | | ◎柏原／＊鈴木(誠) | |
| | コミュニティデザイン | | 2 | 講義 | | | | | | ■ | | | | 福本 | |
| | 計 | | 28 | | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 卒業研究Ⅰ | 4 | | 演習 | | | | | | | ■ | ■ | | 専任教員 | 必修10単位 |
| | 卒業研究Ⅱ | 6 | | 演習 | | | | | | | ■ | ■ | | 専任教員 | |
| | 計 | 10 | | | | | | | | | | | | | |

注1＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注2＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注3＝進級要件について
第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する
第3学年進級要件：△印の3科目のうち、2科目修得する
第4学年進級要件：△印の3科目及び◆印の2科目のうち、4科目を修得すること

# 学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（2023年度以降入学者）

| 区分 | 科目名 | 単位数 | | 授業形態 | 開講学年・学期 | | | | | | | | 担当教員 | 資格取得最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | |
| | | 必修 | 選択 | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 学芸員科目 | 生涯学習概論 | 2 | | 講義 | | | | | ■ | | | | ＊相庭 | 必修21単位 |
| 必修 | 博物館概論 | 2 | | 講義 | | | | | ■ | | | | ＊斎藤(優) | |
| | 博物館経営論 | 2 | | 講義 | | | | | | ■ | | | ＊松沢 | |
| | 博物館資料論 | 2 | | 講義 | | | | | | ■ | | | ◎＊小熊 / ＊西田 / ＊広井 | |
| | 博物館資料保存論 | 2 | | 講義 | | | | | ■ | | | | 柏原 / ◎津村 / ＊大楽 | |
| | 博物館展示論 | 2 | | 講義 | | | | | | ■ | | | ◎森 / ＊土門 | |
| | 博物館情報・メディア論 | 2 | | 講義 | | | | | ■ | | | | ◎＊浅井 / ＊北岡 | |
| | 博物館教育論 | 2 | | 講義 | | | | | | ■ | | | ＊山本(哲) | |
| | 博物館実習 | 3 | | 実習 | | | | | | ■ | | | 境野 / 菅原 / 長瀬 / 中村 / ◎平山 | |
| | NID造形概論 | 2 | | 講義 | ■ | | | | | | | | 馬場 | |
| | 計 | 21 | | | | | | | | | | | | |
| 選択 | デザイン概論 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | 阿部 / 天野 / 池田 / 金澤 / 金山 / 金石 / 川和 / 菊池 / 吉川 / 金 / 境野 / 鈴木 / 伊達 / ◎土田 / 徳久 / 長瀬 / ビューラ / 平原 / 真壁 / 増田 / 松本 / 水川 / 御法川 / 山田 / 山本(敦) / 山本(信) | 選択1科目以上2単位以上 |
| | 美術・工芸概論 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | 遠藤 / 岡谷 / 菅野 / 小林 / 鈴木 / ◎中村 / 長谷川 / 藪内 | |
| | 建築・環境デザイン概論 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | 柏原 / 北 / ◎佐藤 / 菅原 / 津村 / 羽原 / 平山 / 福本 / 森 / 山下 / 与那嶺 / 渡邉 | |
| | 計 | | 6 | | | | | | | | | | | |
| | 日本文化論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | ＊木林 | 選択2科目以上4単位以上 |
| | 美術論 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | ＊安藤 | |
| | 長岡学 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | ◎渡邉 / ＊生島 / ＊上村 / ＊小笠原 / ＊鈴木(将) / ＊高見 / ＊田中(聡) / ＊田中(洋) / ＊田邊 / ＊筑波 / ＊平澤 / | |
| | 文化人類学 | | 2 | 講義 | | | | ■ | | | | | 板垣 | |
| | 日本美術史 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | ＊芹生 | |
| | 西洋美術史 | | 2 | 講義 | | ■ | | | | | | | ＊安藤 | |
| | 文化財学概論 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | ◎津村 / ＊武内 / ＊中山 / ＊西田 / ＊前嶋 / ＊三国 | |
| | 建築史Ⅰ | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | ◎平山 / 津村 | |
| | 測量学 | | 2 | 講義 | | | ■ | | | | | | 平山 / 福本 / ◎渡邉 / ＊髙橋(有) / ＊渡邊(信) | |
| | 計 | | 18 | | | | | | | | | | | |

注1＝◎印は科目の代表教員、＊印は非常勤講師
注2＝■印は開講学年及び開講学期を表す。■印以降の学年・同一学期にて履修することができる。
注3＝網掛けした科目は、学芸員課程受講者のみが履修する科目。また、3年次のみ履修可能。
注4＝測量学は建築・環境デザイン学科学生のみ履修することができる。

# 5-3 進級要件・卒業要件（2023年度以降入学者）

**【デザイン学科】**

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| 2年次進級要件 | 基礎造形演習及びデザイン基礎演習Ⅰの単位をすべて修得すること。 |
| 3年次進級要件 | デザイン基礎演習Ⅱ及びスタジオ演習Ⅰの単位をすべて修得すること。 |
| 4年次進級要件 | スタジオ演習Ⅱ及びスタジオ演習Ⅲの単位をすべて修得すること。卒業の要件として修得すべき単位数を100単位以上修得すること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | | 1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 必修 | 選択 |
| 教養科目 | | 選択 | | 46 | | 14 |
| 小計 | | | | | 0 | 14 |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | | 21 | 21 | |
| | | 選択 | 第1区分 | 17 | | 23 |
| | | | 第2区分 | 24 | | |
| | | | 第3区分 | 17 | | |
| | | | 社会連携 | 14 | | |
| | 学科共通 | 必修 | | 40 | 40 | |
| | | 選択 | | 58 | | 16 |
| | 卒業研究 | 必修 | | 10 | 10 | |
| 小計 | | | | | 71 | 39 |
| | | | | | 71 | 53 |
| 合計 | | | | | | 124 |

※学部共通選択科目は、第1区分から3単位以上、第2区分から4単位以上、第3区分から3単位以上、第4区分から1単位以上、合計23単位を修得する必要がある

**【美術・工芸学科】**

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| 2年次進級要件 | 基礎造形演習及び美術・工芸基礎演習の単位をすべて修得すること。 |
| 3年次進級要件 | 美術・工芸基礎実習Ⅰ及び美術・工芸基礎実習Ⅱの単位をすべて修得すること。 |
| 4年次進級要件 | 美術・工芸演習Ⅰ及び美術・工芸演習Ⅱの単位をすべて修得すること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | | 1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 必修 | 選択 |
| 教養科目 | | 選択 | | 46 | | 16 |
| 小計 | | | | | 0 | 16 |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | | 21 | 21 | |
| | | 選択 | 第1区分 | 17 | | 24 |
| | | | 第2区分 | 24 | | |
| | | | 第3区分 | 17 | | |
| | | | 社会連携 | 14 | | |
| | 学科共通 | 必修 | | 45 | 45 | |
| | | 選択 | | 20 | | 8 |
| | 卒業研究 | 必修 | | 10 | 10 | |
| 小計 | | | | | 76 | 32 |
| | | | | | 76 | 48 |
| 合計 | | | | | | 124 |

※学部共通選択科目は、第1区分から3単位以上、第2区分から4単位以上、第3区分から3単位以上、第4区分から1単位以上、合計24単位を修得する必要がある

**【建築・環境デザイン学科】**

●進級要件

| 学年 | 進級要件 |
|---|---|
| ２年次進級要件 | 基礎造形演習及び建築・環境表現の単位をすべて修得すること。 |
| ３年次進級要件 | 建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのうち２科目以上の単位を修得すること。 |
| ４年次進級要件 | 建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴのうち４科目以上の単位を修得すること。 |

●卒業要件

| 区分 | | | | 1～4学年開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 必修 | 選択 |
| 教養科目 | | 選択 | | 46 | | 14 |
| 小計 | | | | | 0 | 14 |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 必修 | | 21 | 21 | |
| | | 選択 | 第１区分 | 17 | | 21 |
| | | | 第２区分 | 24 | | |
| | | | 第３区分 | 17 | | |
| | | | 社会連携 | 14 | | |
| | 学科共通 | 必修 | | 54 | 54 | |
| | | 選択 | | 28 | | 14 |
| | 卒業研究 | 必修 | | 10 | 10 | |
| 小計 | | | | | 85 | 35 |
| | | | | | 85 | 49 |
| 合計 | | | | | | 134 |

※学部共通選択科目は、第１区分から３単位以上、第２区分から４単位以上、第３区分から３単位以上、第４区分から１単位以上、合計 21 単位を修得する必要がある

# 6 授業について

## 6-1 授業期間および授業時間

**学年・学期**

| 学年 | 学期 | |
|---|---|---|
| 4月1日－3月31日 | 前期 | 4月1日－9月30日 |
| | 後期 | 10月1日－3月31日 |

授業開始日は毎年変更します。また、後期授業は、９月下旬より開始します。１年間の学事はパレットのサイドメニューから確認してください。

**授業時間**

授業は１時限90分で行われ、授業時間は次のとおりです。

| 時限 | 授業時間 |
|---|---|
| １時限 | 9：00 ― 10：30 |
| ２時限 | 10：40 ― 12：10 |
| ３時限 | 13：00 ― 14：30 |
| ４時限 | 14：40 ― 16：10 |
| ５時限 | 16：20 ― 17：50 |

## 6-2 単位の修得

大学における教育課程の学修は、単位制によって行われ、すべての授業科目に一定の単位数が定められています。これは、学生自らが目標を設定し、それを実現するための多様な学習を可能にするためです。

自分自身で受講したい授業科目を選択し履修計画を立て、卒業に必要な単位を満たす必要があります。卒業のために必要な単位数は学科により異なります。

**単位数の計算**

本学では、授業の方法や形態によって、原則として次のような基準で単位数が算定されています。

| | |
|---|---|
| 講義 | １授業時間（90分）×15回をもって２単位とする |
| 演習 | １授業時間（90分）×15回をもって２単位とする |
| 実習 | １授業時間（90分）×15回をもって１単位とする |

※本学の授業は、通年科目30回、前期科目15回、後期科目15回で構成しています。

※単位数が２倍になると、授業回数も比例し２倍になります。

（例　演習４単位＝１授業時間×30回）

※１単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として法令に定められています。45時間の学修には、大学での授業時間のほかに、授業外に学生が自主的に行う自主学習（予習・復習等）時間も含まれています。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| １授業の基本単位数 | | ２単位　90時間 | | |
| 大学設置基準の規定 | | １単位＝45時間 | １単位＝45時間 | |
| 授業方法 | 講義・演習 | 授業前学習 | 授業（本学学修）<br>90分×15週 | 授業後学習 |
| | 実習 | 授業前学習 | 授業（本学学修）<br>90分×30週 | 授業後学習 |

**単位の認定**

授業科目を履修し、各科目で定められている成績評価基準により合格した場合に単位が与えられます。

## 6-3 休講・補講・集中講義

**休講**

災害、天候、その他の理由による臨時の休講や教員の都合により、特定の授業科目の休講を行うことがあります。

**補講**

教員の都合による休講に対しては、その学期末の補講期間に原則補講を行います。補講期間中は、通常の時間割の曜日時限に関わらず補講を実施します。

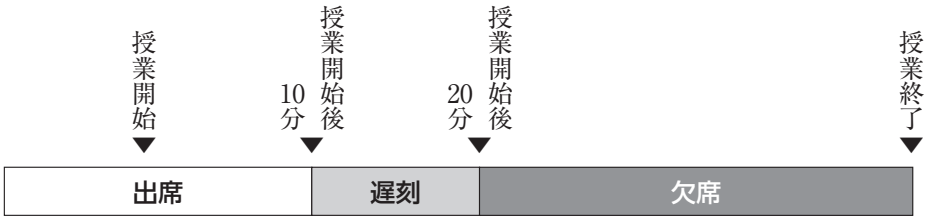
**集中講義**

授業の特性や実施方法等の都合等により、曜日・時限を指定せず、集中して授業を行う場合があります。

授業の実施、休講、補講、試験等、修学に関する連絡は、学生用ポータルサイト“パレット”等により行います。パレットは毎日チェックし、連絡事項を見落とさないようにしてください。(メール転送することをお勧めします)
また、公共交通機関が運休、遅延した場合は、当該交通機関の発行する証明書(運休証明書等)を授業担当教員に提出してください。詳細はキャンパスガイドを参照してください。

## 6-4 出席の基準

原則として授業開始10分までは「出席」、授業開始後20分までは「遅刻」、20分以降は「欠席」の扱いになります。遅刻は授業の進行を妨げ、受講者全員に対しての迷惑となります。授業を受けるにあたっては時間厳守を心がけてください。また科目によって取り扱いが異なる場合は、授業科目の概要(シラバス)の「出席・遅刻の基準」に掲載しています。




※授業開始時には、授業が受けられるよう準備をしておいてください。

## 6-5 出席のとり方

科目により出席のとり方が異なります。詳細は担当教員から周知します。

**出席に関する不正行為**

（1）出席に関する不正行為について

下記のいずれかに該当する行為は出席に関する不正行為とみなします。

・他の学生に成り代わり出席または代返を行うこと

・成り代わり出席または代返を依頼すること

・出席の手続きを行ったにも関わらず、授業を受けないまたは無断で途中退室すること

（2）出席に関する不正行為に対する処分

出席に関する不正行為が確認された場合には、当該科目を原則不合格とします。また、学長が特に悪質と見なす場合は、当該期に履修したすべての科目を不合格とします。併せて、出席に関する不正行為は学則第47条に基づいて懲戒処分の対象となります。

（3）出席についての注意事項

万一、授業中に受講を中断し、退室する場合には、担当教員に申し伝える必要があります。（無断退室とみなされる場合には、担当教員が出席に関する不正行為と判断します）担当教員に直接伝えられない場合は、退室後すぐに事務局に申し伝えてください。

突発的な体調不良により退室しなければならない場合は、適切な処置につなげるため医務室を利用してください。

# 6-6 欠席

欠席には次のような種類があります。届出が必要な場合もありますので注意してください。

### 公欠（出席扱いとなる欠席）

忌引、天災、学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症、博物館実習、介護等体験実習、教育実習及びその他学長が必要と認める場合の理由で欠席する場合、公欠届を提出することにより、原則として出席扱いとなります。以下の取扱い基準を確認のうえ、届出をしてください。

**（基準）**

<table>
<tr><th>事由</th><th colspan="2">基準</th><th>添付書類</th></tr>
<tr><td rowspan="8">(1)忌引</td><td colspan="2">死亡した日または通夜（通夜を実施しない場合は葬儀）の日から起算して、連続した日数(非授業日含む)の範囲内</td><td rowspan="8">会葬案内など事実が確認できる書類</td></tr>
<tr><td>父母</td><td>７日</td></tr>
<tr><td>祖父母</td><td>３日</td></tr>
<tr><td>兄弟姉妹</td><td>３日</td></tr>
<tr><td>おじ又はおば</td><td>１日</td></tr>
<tr><td>曽祖父母</td><td>１日</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>教務課にて確認</td></tr>
<tr><td>(2)天災</td><td colspan="2">地震･台風･洪水など自然現象によってもたらされる災害</td><td>自治体発行の証明書等</td></tr>
<tr><td rowspan="4">(3)感染症</td><td colspan="2">学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症<br>期間:治癒のために必要な日数</td><td rowspan="4">学校感染症治癒証明書または保健所･医療機関等発行の証明書</td></tr>
<tr><td>第一種感染症</td><td>エボラ出血熱、ジフテリア、ペスト、SARS、特定鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などの重篤なもの*</td></tr>
<tr><td>第二種感染症</td><td>インフルエンザ、百日咳、麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎、結核、髄膜炎菌性髄膜炎</td></tr>
<tr><td>第三種感染症</td><td>コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（伝染性紅斑、溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎）</td></tr>
<tr><td>(4)博物館実習</td><td colspan="2">館内実習のうち実習館での実習にかかる期間（学芸員課程履修者のみ）<br>５日間以上</td><td>不要</td></tr>
<tr><td>(5)介護等体験実習</td><td colspan="2">介護等体験にかかる期間（教職課程履修者のみ）<br>特別支援学校２日間、社会福祉施設等で５日間、合計７日間</td><td>不要</td></tr>
<tr><td>(6)教育実習</td><td colspan="2">中学校または高等学校での教育実習にかかる期間（教職課程履修者のみ）<br>３週間</td><td>不要</td></tr>
<tr><td rowspan="4">(7)その他学長が必要と認める場合</td><td>①本人の過失によらない傷病に伴い、授業を欠席しなければならない場合</td><td>本人又は教職員から状況のわかる資料の提示のうえ、総合的な状況を踏まえ学長が判断する。<br>期間：通院・入院等に必要な日数</td><td>医療機関等発行の証明書</td></tr>
<tr><td>②裁判員として裁判所に呼び出され、授業を欠席しなければならない場合</td><td>状況を確認の上、学長が判断する<br>期間：必要な日数</td><td>裁判員の呼出状及び裁判所に出頭したこと証明する書類</td></tr>
<tr><td>③本学から公式に学事等への参加などを要請し、授業を欠席しなければならない場合</td><td>〔表彰式等への出席〕<br>コンペティション等の受賞により、表彰式等に招聘され、直接表彰される場合、関連する教員からの推薦のもと、受賞内容、当該者のキャリアアップ及び本学の広報効果を考慮し、学長が取り扱いを判断する。その場合、当該者に本学ホームページや広報物への掲載など広報への協力を要請する。<br>期間:表彰式に出席する日（ただし、移動日は対象としない）</td><td>表彰式等の案内書類、表彰時の写真等</td></tr>
<tr><td colspan="3">④その他、不測の事態により、公欠と判断をせざるを得ない場合</td></tr>
</table>

**※ 就職活動・インターンシップは公欠にはなりません。**

＊ 新型コロナウイルス感染症については、随時パレットを確認してください。

公欠届の提出により、事務局から、認められた期間の授業の担当教員に公欠の旨を伝えますが、学生本人からも必ず担当教員に連絡を取り、補講・課題等の指示を受けるとともに、必要に応じて欠席理由を伝えてください。なお、補習や課題等の実施については各授業の担当教員が判断します。

**公欠以外**

| | |
|---|---|
| **2週間未満の欠席** | 各担当教員に学生本人から直接欠席理由を伝え、補習・課題等の指示を受けてください。書類による届出の必要はありません。 |
| **2週間以上の欠席** | 欠席届を提出してください。疾病やけがによる場合は医師の診断書が必要になります。<br>欠席届の提出により、事務局から、欠席期間の授業の担当教員に理由を伝えますが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、出席点の取扱いや補習、課題等の実施については、欠席の理由により各授業の担当教員が判断します。 |

どの場合の欠席についても、補習・課題等の指示については、学生本人が直接担当教員より受けてください。また、試験日に病気や災害などの正当な理由で欠席する場合は、追試験を受験できる可能性があります。詳しくは、「8−1 試験の種類」(64ページ) を参照して下さい。

# 7 履修の手引き

## 7-1 履修登録

大学の教育は、学生がそれぞれの目的に基づき、主体的に学ぶことを基本としています。授業を受けるためには、学生自身で履修登録を行う必要があります。履修登録の手続きをしないと授業を受けることができません。履修登録および履修登録内容の確認は、本履修ガイドをよく読み、所定の期間内に自己の責任において行ってください。

## 7-2 履修登録の時期

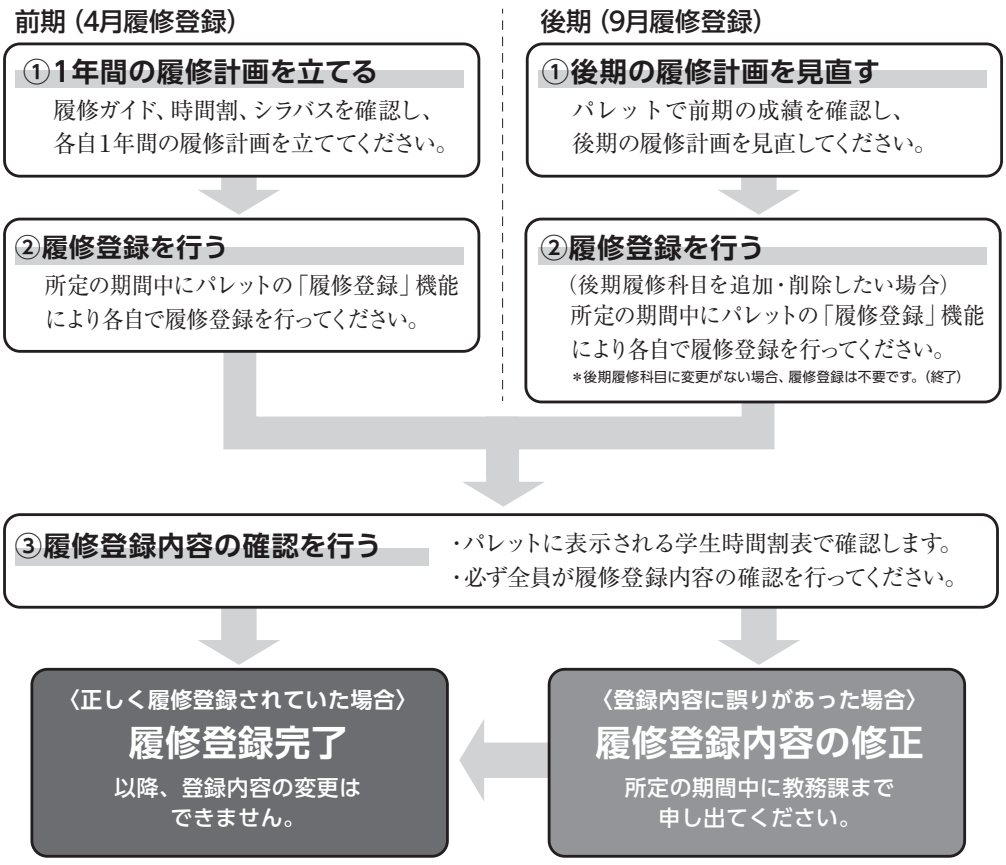
履修登録は年２回、４月および９月に行います。

4月…【全員が行います】　１年間の履修計画を立て当該年度に履修する全ての通年、前期、後期科目の登録を行います。

9月…【希望者だけ行います】　前期に登録した後期科目を変更する場合にのみ行います。前期の成績に応じて、履修科目の取消や追加ができます。

## 7-3 履修登録の流れ

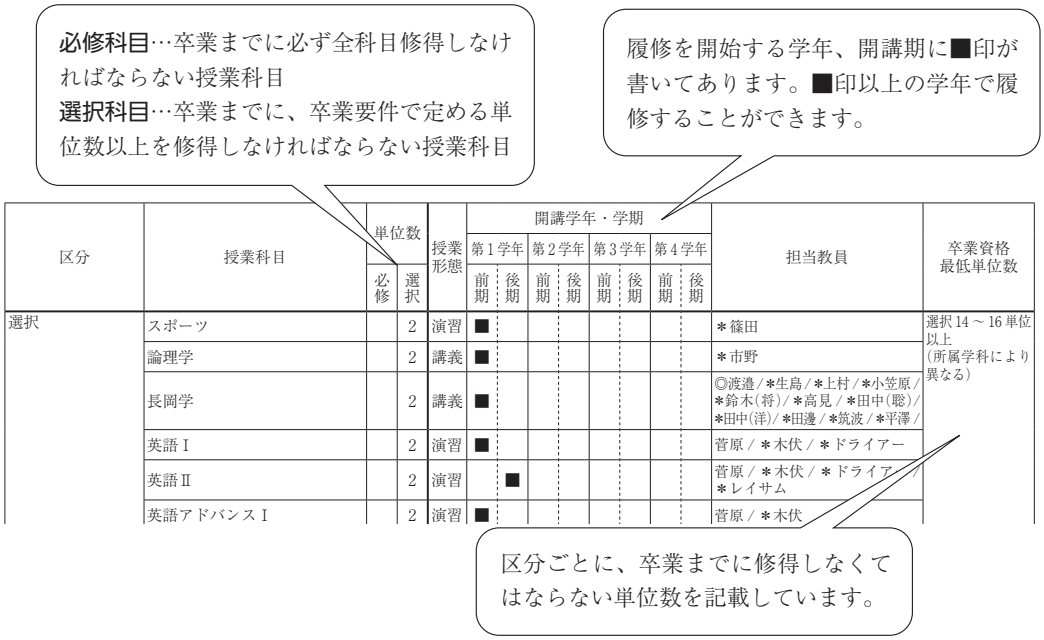
**■履修登録の流れ**



# 7-4 履修登録時の注意事項

## 1. 開講科目、履修学年を理解する

「授業科目・単位数・担当教員」の表の見方（22ページ、40ページ）




| 区分 | 授業科目 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 授業形態 | 開講学年・学期 第1学年 前期 | 第1学年 後期 | 第2学年 前期 | 第2学年 後期 | 第3学年 前期 | 第3学年 後期 | 第4学年 前期 | 第4学年 後期 | 担当教員 | 卒業資格最低単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択 | スポーツ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | ＊篠田 | 選択14～16単位以上（所属学科により異なる） |
| | 論理学 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | ＊市野 | |
| | 長岡学 | | 2 | 講義 | ■ | | | | | | | | ◎渡邉／＊生島／＊上村／＊小笠原／＊鈴木(将)／＊高見／＊田中(聡)／＊田中(洋)／＊田邊／＊筑波／＊平澤／ | |
| | 英語Ⅰ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー | |
| | 英語Ⅱ | | 2 | 演習 | | ■ | | | | | | | 菅原／＊木伏／＊ドライアー／＊レイサム | |
| | 英語アドバンスⅠ | | 2 | 演習 | ■ | | | | | | | | 菅原／＊木伏 | |

**履修開始可能学年・学期について**

全ての科目に「履修学年・学期」が設定されています。

これは、設定した学年(■印)以上の学年であれば、履修が可能という意味です。

例えば、履修学年が１学年前期と設定されている科目は、２学年～４学年の前期にも履修を行なうことができます。

しかし、履修学年が３学年後期と設定されている科目の場合は、３学年後期及び４学年後期に履修することができますが、１学年後期や２学年後期には履修することができません。

なお、単位を修得できなかった科目については、次年度以降に再度履修登録を行い、単位修得を目指すことが可能です。また、一度単位を修得した科目については、再度履修登録をすることができません。担当教員の許可を得た場合は、授業を聴講することはできますが、その場合の単位は与えられません。

## 2. 時間割を確認する

- 同一の学期･曜日･時限においては、１科目しか登録できません。（重複履修（57ページ）が認められる場合は除きます）２時限続きの科目もありますので、時間割が重複しないよう注意してください。
- 科目名の次に小文字のアルファベット（a,b等）がついているものは、複数クラス開講する授業です。
- 科目ごとに授業の進行や実施時期に特別な対応が必要な場合（土曜日の開講など）は、履修ガイダンス資料での記載や、各ガイダンス、初回授業内等で説明がありますので、必ず確認をしてください。

## 3. 履修したい科目内容を確認する

- パレットに掲載のシラバスには各科目の授業計画や成績評価基準、授業にあたって必要な内容等が載っています。履修登録の前に授業内容をよく確認してください。
  シラバスは、パレットにていつでも確認することができます。

## シラバスを見るうえでのポイント

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | デザイン感性工学 | | |
| 学年 | 3年 | 開講期 | |
| 必修/選択 | 選択 | 授業形態 | |
| 単位数 | 2単位 | | |
| 担当教員 | 境野広志 | | |
| 授業の概要及びテーマ | 感性工学とは、人間の感覚や意思、印象及び好悪といった感情について客観的、定量的なアプロ<br>を意図した関係でつなぐ行為であり、感性工学はその理論的背景を提供し、また新たな方法<br>性工学の知見、視点によりデザインの価値、デザイナーの思考過程を論理的に把握、理 | | |
| 達成目標 | ・ 感性工学の意味、役割、理論的背景を理解する<br>・ 感性工学的手法の理解と演習を通じてその適用方法等を理解する<br>・ デザインの価値についての定量的な評価を行う<br>・ デザイナーの思考過程について、モデル化することでそのスキルを理解する | | |

| 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連【~2022年度入学者】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会人基礎力 | | 構想力 | ○ | 造形力 | |

| 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連【2023~年度入学者】 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 観る力 | ○ | つくる力 | | 聴く力と伝える力 | ○ |
| 専門力 | ○ | 普遍的な教養 | ○ | | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 01　ガイダンス、感性工学の概要、歴史概観<br>02　人間の視覚認知諸特性1<br>03　人間の視覚認知諸特性2<br>04　人間の視覚認知諸特性3<br>05　人間の認知諸特性1<br>06　人間の認知諸特性2<br>07　美しさの数理<br>08　デザインの定量的な測定<br>09　多変量解析分析方法<br>10　多変量解析演習1<br>11　多変量解析演習2<br>12　多変量解析演習3<br>13　多変量まとめと非線形分析<br>14　一般設計学、記号論<br>15　まとめ<br>02～07の回はリモート、それ以外は対面で行う |
| 成績評価基準 | レポート及びグループワークとしての解析演習で採点する。授業態度及び欠席等で減点する<br>点、遅刻は３点の減点とする。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処する。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト（教科書） | 直接必要な資料等はclassroomなどで配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | 『感性工学』長町三生　海文堂<br>『システム工学入門』寺野寿郎 共立出版<br>『経営のための多変量解析』本多正久/島田一明 産業能率大学<br>『デザインの工学』森典彦 朝倉書店<br>『キーポイント線形台数』薩摩順吉/四ツ谷晶二 岩波書店<br>『ラフ集合と感性』森典彦他編 海文堂<br>『左脳デザイニング』森典彦編 海文堂<br>『ニューラルネットワーク情報処理』麻生秀樹 産業図書<br>『多変量解析のはなし』有島哲/石村貞夫 東京図書<br>『デザイン情報学入門』和歌山大学システム工学部デザイン情報学科日本規格協会<br>『官能評価の基礎と応用』天坂格郎/長沢伸也 日本規格協会<br>『デザイン科学事典』松岡由幸　丸善出版 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 本授業では、デザインの数理的な解析を手法の軸としてい<br>安があれば復習しておいて欲しい。また、これらの手法はあ<br>生は学科を問わず受講してほしい。卒研で論文を希望する学生、<br>学を希望する学生には特に受 |
| 実務経験を活かした授業 | 通信会社にて家庭向け商品のために人間の認知や感性に関わる技術開発<br>行った教員が、感性工 |

「達成目標」は、この授業で達成すべき目標内容です。常に意識しながら、授業に取り組んでください。

卒業認定・学位授与の方針に掲げる３つの力のうち、当該科目の修得により身につく力を示しています。

各回の授業予定を示しています。授業内容を確認し、予習・復習に役立ててください。
16回目に試験を実施することもあります。

達成目標に対する成績評価の基準を示しています。大まかな割り振りを示す％表示や評価軸を示しています。

「テキスト」は、授業で必要なものですので各自用意してください。購入が必要な場合は注意してください。
「参考書、参考資料等」は、授業で必ず必要なものではありませんが理解を深めるために役立つ資料です。

履修を進めるうえでの心構えや事前に準備をしてほしいこと、自主学習の方法などについて示しています。

授業を担当する教員の実務経験がある場合に、授業にどのように活かされるのかを示しています。

当該科目を履修するための条件がある場合に、条件を示しています。進級に関わることもありますので必ず確認してください。

### 4．ＣＡＰ制について

履修登録単位数の上限（原則として各期24単位、年間48単位）を設定する制度をCAP制と呼びます。

CAP制は、無理のない履修計画を立てることで、各授業における予習・復習・制作等の時間を確保し、学生各自の授業内容の理解や知識・技術の修得を十分に実のあるものとすることを目的とした制度です。

履修登録できる単位数の上限は、GPAと連動しています。各期（前期・後期とも）に履修登録できる単位数の上限は、以下の通りです。

| 履修登録する期の１つ前の期(*)のGPA | 各期の履修登録の上限単位数 |
|---|---|
| 2.0未満の者 | 24単位 |
| 2.0以上の者 | 30単位 |

（＊＝前期の履修登録の場合は前年度の後期、後期の履修登録の場合は当年度の前期）

※入学初年次、休学等により履修登録する期の１つ前の期のGPAが無い学生は、上限単位数を一律24単位とする。

※集中講義および学芸員課程・教職課程の専門科目（通常の課程に含まれない科目）については、上限の単位数には含めない。

※編入学試験により入学した者は、CAP制を適用しない。

### 5．進級要件を確認する

“進級要件”とは、進級するために最低限満たさなくてはならない条件です。学年・学科ごとに、進級要件の内容が異なります。進級要件が満たせない場合は留年となります。詳しくは「3-3 進級要件・卒業要件」（31ページ）「5-3 進級要件・卒業要件」（46ページ）を参照して下さい。

### 6．卒業要件を確認する

“卒業要件”とは、卒業するために最低限満たさなければならない条件です。大学を卒業するためには、４年以上在学し、卒業要件を満たす必要があります。卒業した者には、「**学士（造形）**」の学位が授与されます。（卒業要件については、「3-3 進級要件・卒業要件」（31ページ）「5-3 進級要件・卒業要件」（46ページ）を参照して下さい。）

### 7．単位を修得するペース配分

４年間で卒業要件を満たすためには、各学年においておおよそ以下のペースで単位を修得するのが理想的です。上級学年では、専門性の高い授業となり、さらに就職活動や卒業研究などで多忙となります。１年生のうちから計画的に履修してください。

| 学年 | 前期 | 後期 | 累計 |
|---|---|---|---|
| 1 | 20 ～ 24単位 | 20 ～ 30単位 | 40単位以上 |
| 2 | 20 ～ 30単位 | 20 ～ 30単位 | 80単位以上 |
| 3 | 14 ～ 20単位 | 14 ～ 20単位 | 110単位以上 |
| 4 | 卒業研究＋数科目程度 | | 124 ～ 128単位以上 |

## 7-5 再履修と継続履修

**再履修**

再履修とは、不合格となった授業科目を次年度以降に再び履修することをいいます。再履修する場合には、改めて履修登録が必要です。

なお、再履修科目が他の履修科目と時間割が重複するときは、〔重複履修の条件〕に記載の条件を満たした場合に限り、重複履修ができます。「重複履修科目登録票」（パレット－お役立ち情報－各種書式 よりダウンロード可）に所要事項を記入し、再履修科目担当教員の許可を受けて履修登録期間内に教務課に提出してください。

**〔重複履修の条件〕**

• 重複履修は、原則として必修科目どうしの組み合わせに限ります。

| 再履修＼正規履修 | 必修科目 | 選択科目 |
|---|---|---|
| 必修科目 | ◯ | × |
| 選択科目 | × | × |

※科目の性格上開講学年に履修しなくてはならない選択科目がある場合には、開講学年で履修する場合のみ、「指定科目」として必修科目を再履修科目とする重複が認められることがあります。

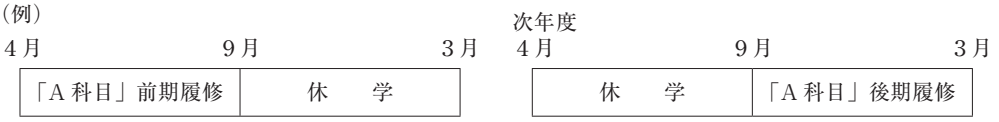
• 進級要件のない学年の重複履修も認められます。
• 重複履修が可能な科目であっても、再履修科目の担当教員が許可しない場合は、重複履修が認められません。
• 重複履修が認められた場合は、各自担当教員と連絡を取り合い履修計画を立ててください。
• 卒業研究Ⅰ・Ⅱは前期にⅠが修得できなかった場合は、後期に再度Ⅰを、次年度前期にⅡを履修することになります。後期にⅡを修得できなかった場合は、次年度前期に再度Ⅱを履修します。

**継続履修**

継続履修とは、通年科目において、一期の履修終了後に休学または留学等の理由により履修をしない期間がある場合に、復学等の後に同一科目を一期履修することにより、通年で履修したとみなすことをいいます。

※ ただし、開講する授業科目、担当教員、授業内容などの変更により、継続履修できない場合があります。

（例）




## 7-6 在学年限

在学年限は、修業年限の２倍の年数（８年間）を超えることができません。ただし、この場合の在学期間には、休学期間は含みません。

なお、休学期間は通算して４年を超えることはできません。　〔学則第16条、第37条〕

## 7-7 卒業見込証明書

第４学年の履修登録後、第３学年までの修得単位と第４学年の履修登録単位の合計が卒業要件を満たしている者に対して卒業見込証明書を発行します。

詳細は、キャンパスガイド『各種手続き・証明書の発行』を確認してください。

# 7-8 学芸員課程の履修

本学では、全学科の学生（３年生以上）を対象に学芸員資格を取得できる学芸員課程を設けています。

**学芸員について**

博物館（美術館、民俗歴史資料館、科学館等を含む）での資料の収集、整理や保管をはじめとして、企画展示を行う際の企画から立案、開催に向けてのさまざまな活動（案内書、目録、ポスター類の作成・監修等）、さらに年報、報告書の作成、展示・資料に関する調査研究などを担う専門職として位置づけられており、博物館には必ず学芸員をおくことが義務づけられています。本学では資格取得のための学芸員課程を設置しています。

**募集人数**

35名とします。

募集人数を超える応募者があった場合は、15名を上限に建築・環境デザイン学科環境計画・保存コースの学生を優先しますが、第２学年までの修得単位数が67単位以上であることを優先の条件とします。その他のコースは第２学年までの成績をもとに選考します。

**履修方法**

① 学芸員課程を受講し、学芸員の資格取得を希望する者は、第３学年の履修登録時に「学芸員課程受講届」を教務課へ提出し、履修が認められた後、指定した日時までに学芸員課程受講料を納入してください。

ただし、この手続きは第３学年の年度初めの定められた期間に限ります。

② 必修科目10科目21単位、選択科目３科目以上６単位以上を修得しなければなりません。（履修科目参照）

注）学芸員課程授業科目のうち、卒業要件単位に含まれない科目があります。卒業要件に含まれるかどうかは「3-2 授業科目・単位数・担当教員」（22ページ）「5-2 授業科目・単位数・担当教員」（40ページ）に準じます。

③ 「博物館実習」のうち館内実習については、前年度までに他の必修９科目（必須９科目は、開講年次に修得する必要があります）を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ参加することができません。

④ 学芸員課程の受講を途中で取りやめる場合は、「学芸員課程受講取消届」をすみやかに教務課へ提出してください。

**受講料等**

① 学芸員課程受講料は10,000円です。

② 更に、館内実習について、実習料として10,000円を「館内実習届」提出の際に徴収します。

③ 一旦納入した受講料及び実習料は、返還しません。

④ 見学実習、学内実習、館内実習に係わる交通費、食事代、宿泊料等は自己負担とします。

**履修科目**

「学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員」（28ページ及び45ページ）のとおりです。

### 博物館実習について

博物館実習は次の内容で行います。詳細は、ガイダンスおよびパレットで指示します。

| 実習の種類 | 内　　容 | 必要実習時間 |
|---|---|---|
| 見 学 実 習 | 土曜日、日曜日、長期休業中に実施する博物館・美術館等の見学研修（９月中旬）<br>１日＝８時間、半日＝４時間 | 18時間以上 |
| 学 内 実 習 | 学内での調査・実習等 | 26時間 |
| 館 内 実 習 | 事前指導<br>実習館での実習　　５日間以上<br>（原則４年次の夏期休暇中に実施）<br>報告レポート、プレゼンテーション等の事後指導 | 56時間 |
| 合　　計 | | 100時間以上 |

### 資格の取得について

本学において定める学芸員課程履修科目の履修要件をすべて満たし、かつ本学を卒業することにより、学芸員の資格を取得することができます。資格を取得すれば、「学芸員資格証明書」を受けることができます。

### スケジュール

| | | |
|---|---|---|
| 第３学年 | 前期履修登録時（４月）<br><br>８月<br>３月～ | 学芸員課程受講届の提出<br>学芸員課程受講料（10,000円）の納付<br>博物館実習「見学実習」の実施<br>博物館実習「館内実習」の受入調整・依頼 |
| 第４学年 | ４月<br><br>５月～12月頃<br>３月　学位証授与式 | 「館内実習届」の提出<br>館内実習料（10,000円）の納付<br>博物館実習「館内実習」の実施<br>学芸員資格授与 |

# 7-9 教職課程の履修

本学では、美術・工芸学科の学生を対象に教員免許状を取得できる教職課程を設置しています。

2022年度入学者を最後に教職課程履修者の募集を停止しました。また、2026年度以降は教職課程科目の履修はできません。

※2025年度末をもって教職課程を廃止しますので、それまでに卒業できることが履修の条件となります。

### 取得できる教員免許状

・中学校教諭一種免許状（美術）
・高等学校教諭一種免許状（美術）
・高等学校教諭一種免許状（工芸）※2018年度入学者まで対象

### 教職課程履修条件

2017年度以降入学者
第２学年前期開始時
・通算GPAが2.0以上であること
第３学年前期開始時
・通算GPAが2.2以上であること

### 注意点

教職課程の受講を途中で取りやめる場合は「教職課程受講取消届」をすみやかに教務課へ提出してください。

### 受講料等

① 教職課程履修受講料　15,000円
② 介護等体験実習費　10,000円
③ 教育実習費　10,000円

納入時期については、その都度、連絡します。
一旦納入した受講料等は、返還しません。
教育職員免許状申請時に新潟県に納入する申請手数料が必要となります。
上記のほか、介護等体験実習及び教育実習に係る交通費や食事代等は自己負担となります。

### 教員免許状取得のために履修を要する科目について

教員免許状を取得するためには、取得する教員免許状の種類に応じて単位を修得し、所定の実習を行う必要があります。各項目の科目等詳細については、「教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員」（29ページ、30ページ）を確認してください。

• 介護等体験実習

中学校教諭一種免許状を取得するためには行わなければならない実習です。原則として特別支援学校で２日間、社会福祉施設等で５日間、合計７日間の介護等体験が必要となります。

• 教育実習

教育実習は、４年次に教育実習の目的、教育実習の視点、心構えを学び、学内での模擬授業の実施等による演習の後に免許状の種類により、中学校、高等学校において行う現場実習です。

中学校教諭一種免許状を取得するためには中学校にて３週間の実習（教育実習Ⅰ・Ⅱを履修）、高等学校教諭一種免許状を取得するためには高等学校にて２週間の実習（教育実習Ⅰを履修）が必要です。中学校または高等学校で３週間の実習を行うことで中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を併せて修得することができます。

教育実習を履修するためには、教育実習の前年度までに開講された「教職に関する科目」すべてを履修し、単位を修得していなければなりません。

### 資格の取得について

本学において定める教職課程履修科目の履修要件をすべて満たし、かつ本学を卒業することにより、在住する都道府県の教育委員会に教員免許状を申請し取得することができます。原則として、申請手続きは大学が一括して行います。

### スケジュール

| | | |
|---|---|---|
| 第１学年 | １月<br>２月 | 教職課程説明会<br>「教職課程受講届」の提出 |
| 第２学年 | ４月<br><br>11月 | 教職課程履修受講料（15,000円）の納付<br>介護等体験実習事前ガイダンス<br>介護等体験申込書の提出 |
| 第３学年 | ４月<br><br>５～10月頃 | 介護等体験実習費（10,000円）の納付<br>教育実習事前ガイダンス<br>介護等体験実習実施ガイダンス<br>介護等体験実習 |
| 第４学年 | ４月<br><br>５～９月頃<br>１・２月<br>３月 | 教育実習費（10,000円）の納付<br>教育実習実施ガイダンス<br>教育実習<br>教育職員免許状一括申請<br>教育職員免許状の授与 |

### 上越教育大学大学院での資格取得

本学は2018年に上越教育大学と連携、協力に関する協定を締結しました。これにより教員免許状の取得を目的に上越教育大学大学院に進学する者は、本学学長の推薦により次の支援を受けることができます。

・上越教育大学大学院入学試験の筆記試験の免除
・上越教育大学大学院入学料の半額免除
・上越教育大学大学院入学後の学生宿舎への優先的な入居

美術・工芸学科以外の学生も当該大学院にて教員免許状を取得することができます。希望者には詳細な説明をしますので、本学教務課に問い合わせてください。

# 7-10 地域・社会連携系科目（学部共通第４区分）の履修

学部共通第4区分にて地域･社会連携系科目として開講している「地域協創演習、ボランティア実習、インターンシップ」のうち１科目以上を修得する必要があります。科目の開講形式は公募型と自主活動型に分類されます。

・公募型：地域協創演習、ボランティア実習は大学でテーマを設定しプロジェクトを立ち上げ、４月に履修者を募ります（年度途中にプロジェクトを追加し、募集することもあります）。希望するプロジェクトに申し込み、活動に参加します。インターンシップは、６月頃に募集します。

・自主活動型：学生が自主的に実習先を探し、事前申請を経て、活動に参加します。

| 科目名 | 科目主旨 | 開講形式 |
|---|---|---|
| 地域協創演習 | 地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値の創造を目指す。 | 公募型 |
| ボランティア実習 | 奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことを目指す。 | 公募型<br>自主活動型 |
| インターンシップ | 企業、自治体、ＮＧＯ、ＮＰＯなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験をする。 | 公募型<br>自主活動型 |

※同一科目で２つ以上のプロジェクトを履修し修得した場合は、A、B…の順に単位を付与します。（例：地域協創演習B）

※地域・社会連携系科目（学部共通第４区分）はパレットによる履修登録ができません。公募型については、募集の際にパレットにて志望調査等を行います。

※プロジェクトの実施期間により前期または後期に成績が付きます。

**「自主活動型」の履修方法**

① 学生自身で、「●単位認定の要件」を確認のうえ、参加を希望するボランティア活動やインターンシップを探す。

② 原則、参加の1週間前までに、事務局窓口に以下の書類を提出する。（事前申請）

| 科目名 | 提出書類 | 提出先 |
|---|---|---|
| ボランティア実習 | ・履修事前申請シート<br>・活動の内容を示す資料（任意書式） | 教務課 |
| インターンシップ | ・インターンシップ届 | キャリアデザインセンター |

※単位認定の要件に該当しない場合は、単位の認定は行いません。（ボランティア実習については、提出書類により、要件を確認し結果を通知します）

③ ボランティア活動またはインターンシップに参加する。（本学学生として参加していることを強く意識するとともに、健康や安全に十分留意すること）

④ 活動後に実習先から、「ボランティア実施証明書」または「インターンシップ実施証明書」の記入・押印を受ける。

⑤ ボランティア実習は、活動終了後1か月以内に、事務局窓口に以下の書類を提出する。インターンシップは、原則「活動終了後1か月以内」に、事務局窓口に以下の書類を提出する。

※成績通知表の記載について

2023年１月～６月に実施分 → 2023年７月21日㈮までに提出 → 2023年度前期成績通知表

2023年７月～12月に実施分 → 2024年１月17日㈬までに提出 → 2023年度後期成績通知表

**（提出書類）**

| 科目名 | 提出書類 | 提出先 |
|---|---|---|
| ボランティア実習 | ・ボランティア実施証明書<br>・実施報告書（任意書式） | 教務課に提出 |
| インターンシップ | ・インターンシップ実施証明書 ※<br>・インターンシップ参加報告書<br>・インターンシップレポート（任意書式） | キャリアデザインセンター |

※単位認定を希望しない場合は「インターンシップ実施証明書」の提出は不要

### ●単位認定の要件

| | |
|---|---|
| ボランティア実習 | ・３日間以上（累計22.5時間以上）の活動を要する内容であること<br>・科目主旨を満たす内容であること（主体性やチームワーク、考える力を必要とする内容であること） |
| インターンシップ | ・５日間以上（累計22.5時間以上）の活動を要する内容であること<br>・科目主旨を満たす内容であること（実際の就業体験やデザインワークを主とする内容であること。また、業界説明・会社説明等を目的とした内容ではないこと） |

### ●実施報告書及びインターンシップレポートの内容

以下の内容について簡潔に記載してください。（任意書式、Ａ４判２枚程度）

- 学科、学年、学籍番号、氏名
- 実習先（会社・団体名と部署名等）
- 実施期間
- 参加理由
- 実施内容
- 参加して得た学びや、感じたこと（500～1000字程度）

以下の「社会人基礎力」の12能力要素のうち、活動を通じて特に身に付いたと思うものを、その理由とともに記載すること

・前に踏み出す力として　：主体性、働きかけ力、実行力
・考え抜く力として　　：課題発見力、計画力、創造力
・チームで働く力として　：発信力、傾聴力、柔軟性、情況把握力、規律性、ストレスコントロール力

- 今後の目標・課題（500字程度）
- 活動内容についての写真、活動における作成物など
  （写真は実習先から公開の許可が得られているもののみ）
- その他、各自加えたいものがあれば（任意）

### ●その他

・事前申請後、履修を辞退する場合には速やかに窓口に申し出てください。また、自己都合による中断や活動終了後、期限内に書類提出がなかった場合は、不合格となります。
・本学では全学生を対象に「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。授業としてのボランティア活動やインターンシップに参加する場合、参加中の事故により生じた法律上の損害賠償責任について補償されます。実習先から「インターンシップ保険」の加入証明書の提出を求められた場合は、事務局にて証明書を発行します。

# 8 試験と成績評価について

## 8-1 試験の種類

履修した授業科目の単位を修得するためには、原則として試験を受けて合格の評価を得なければなりません。担当教員から試験に代えてレポートや作品提出の指示があるときは、それに従ってください。

### 1．試験の種類

試験には、定期試験、追試験、再試験があります。

**定期試験**

定期試験は、原則として前期、後期の各期最終授業日に実施されます。ただし、担当教員が必要と認めたときは、随時に試験が実施され、この試験をもって定期試験に代えることがあります。定期試験のための試験時間割は特に組まず、担当教員の判断のもとに行われます。

**追試験**

病気や災害、交通機関の遅延、忌引などの正当な理由により、定期試験（随時に実施される試験を含む）を受けられなかった者は、当該試験日を含む３日以内（ただし事務局非業務日を含めない）に教務課に連絡し指示を受けてください。あわせて、定期試験終了後１週間以内に、その理由を証明する書類を添え、追試験受験申請書を教務課に提出し、担当教員の許可があった場合に、追試験を受けることができます。追試験の受験にあたっては、受験料（１科目2,000円）が必要です。

欠席理由とそれを証明するための提出書類は次のとおりです。

| 欠席理由 | 提出書類 |
|---|---|
| 病気 | 医師の診断書または学校感染症に該当する場合、学校感染症治癒証明書 |
| 交通機関の遅延 | 当該交通機関の発行する遅延証明書 |
| 交通事故 | 事故証明書 |
| 親族の死亡・危篤 | 保護者や保証人の証明書またはこれに準ずるもの |
| 就職試験 | 受験票の写しまたは受験先証明書 |
| 天災その他の災害 | 罹災証明書 |
| その他止むを得ない理由 | 理由書 |

**再試験**

進級時に進級要件を満たさなかった者及び卒業学年終了時に卒業要件単位を満たさなかった者のうち、下記の全ての条件を満たした場合、特別に再試験の受験が認められます。（「再試験受験申請書」の提出が必要）

- 卒業研究科目全てが合格していること（卒業時のみ）
- 進級要件または卒業要件に不足している単位数が１科目分であること
- 再試験対象科目の担当教員が、再試験の受験を認めていること

なお、再試験対象科目は本学開講科目で当該学期及び前学期に履修登録した科目のうち１科目に限ることとします。再試験の受験にあたっては、受験料（2,000円）が必要です。

## 2．受験資格

① 学費を納入していること。

② 履修登録をしていて、授業ごとに決められた出席等要件を満たしていること。

※出席不良や学習意欲に欠けるなどの理由で、担当教員が受験を認めない場合があります。

## 3．受験上の注意

① 試験を受ける際は、学生証を机の上に提示してください。

② 原則として、遅刻は試験開始後20分まで、また、途中退室は試験終了前20分から認めます。ただし、担当教員の判断でこの時間は変更することがあります。

③ その他、試験場では、試験監督者の指示に従ってください。

## 4．レポートの提出について

授業でレポート課題が課された場合、レポートの提出前に、必ず手元に記録（写し又はデータ）を残し、形式要件、誤字・脱字の有無を確認のうえ、提出してください。

提出先として事務局内に設置しているレポート受領ボックスにレポートを提出する場合は事務局窓口時間内に限られますので、締め切りに注意してください。

また、データでの提出の場合は、データ容量や形式を確認のうえ、指定された提出方法、期限を守り提出してください。（提出後に、再度、適切に提出できているか確認することをお勧めします）

## 5．不正行為

⑴ 不正行為について

下記のいずれかに該当する行為は不正行為とみなします。

① レポートや作品提出の場合

・他人の作成した文書やレポート、他人が作成した作品等を自ら作成したものとして提出すること。（例：他人のデータをそのままコピーして提出すること、インターネット上の画像や文章など、引用を明示せずにそのまま利用すること等。）

② 定期試験、追試験、再試験の場合

・予め用意した模範回答（カンニングペーパー）や他人の答案などを見ること及び他の学生に自分の答案をみせること。

・本人以外の者が、代わって受験すること。

・許可のないものを使用すること。

・私語を交わすこと及び試験中に物の貸し借りをすること。

・監督者の指示及び注意に従わない行為をすること。

⑵ 不正行為に対する処分

不正行為が確認された場合には、当該科目も含めその学期に履修したすべての科目を原則不合格とします。

あわせて、不正行為は学則第47条に基づいて懲戒処分の対象となります。

# 8-2 成績評価

成績の評価は、担当教員の授業方針、評価方法によって異なりますが、試験、レポート・作品提出、授業出席の状況、その他に基づいて行われます。

パレットに掲載のシラバスに、個々の授業科目について「学生に対する成績評価基準」として、その詳細が記載されています。

### 1. 成績評価基準について

本学における授業科目

| 判定 | 評価 | 評点 | 評価基準 | GP |
|---|---|---|---|---|
| 合格 | S | 100点～90点 | 授業の達成目標を上回る優れた成果を成し遂げた | 4 |
| | A | 89点～80点 | 授業の達成目標を十分に達成した | 3 |
| | B | 79点～70点 | 授業の達成目標を概ね達成した | 2 |
| | C | 69点～60点 | 授業の達成目標を最低限達成した | 1 |
| 不合格 | D | 59点以下 | 授業の達成目標を達成できなかった | 0 |

Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃの評価を得た者を合格とし、単位を授与します。

既修得単位や単位互換等により認定された単位等については、「認」と表示され、ＧＰＡの算出には含まれません。

### 2. GPAについて

教員と学生両者がより明確に成績や成績の変化、傾向を把握することにより履修計画、履修指導の適切化を図るため、ＧＰＡ制度を導入しています。ＧＰＡとはGrade Point Averageの略で、成績評価にＧＰ（Grade Point）と呼ばれる点数を付与し、当該期に履修した各科目のＧＰにその科目の単位数を乗じたものの合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出する平均値をさします。

Ｄ評価もＧＰＡの算出に含みますので、慎重に履修計画を立て、履修登録した科目には責任を持って取り組んでください。

**【GPAの算出式】**

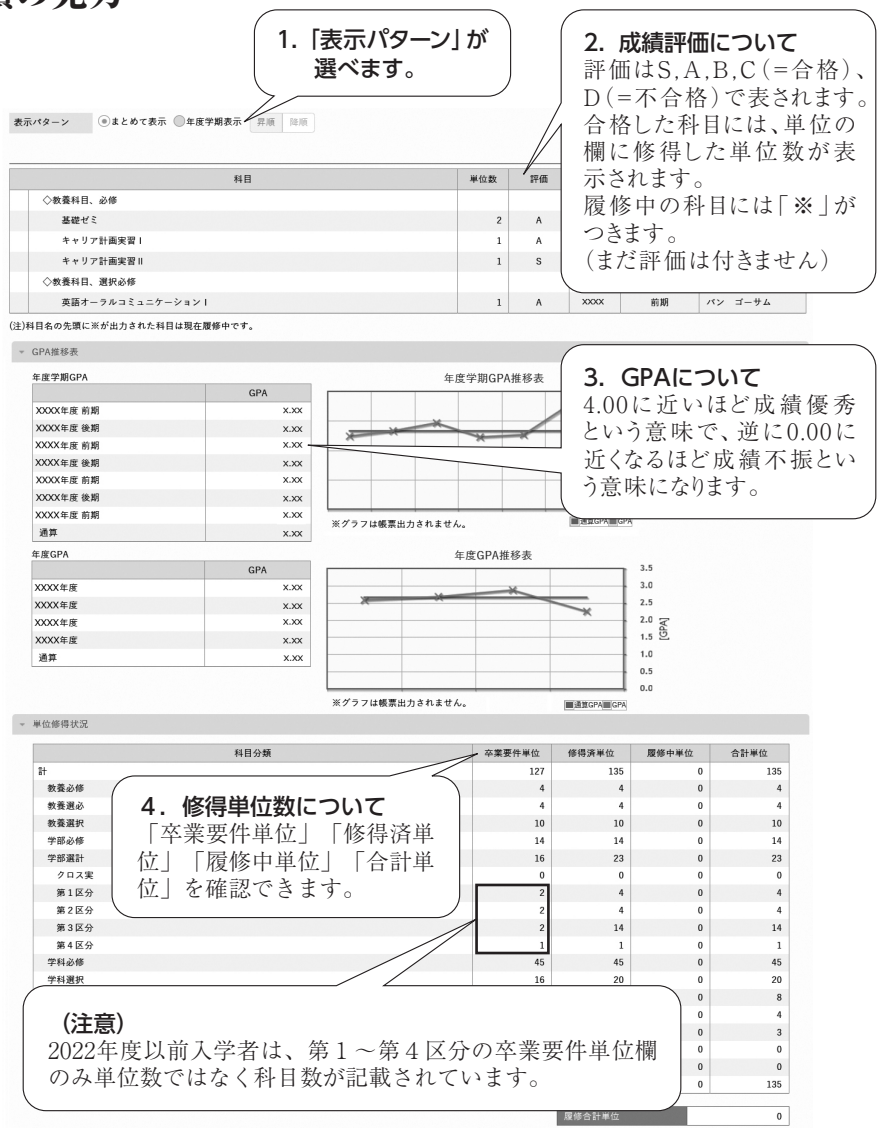
$$\frac{4\times\text{Sの修得単位数}+3\times\text{Aの修得単位数}+2\times\text{Bの修得単位数}+1\times\text{Cの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「D」の単位数を含む）}}$$

**【GPA算出例】**

| 授業科目名 | 単位数 | 評価（GP） | 単位数× GP |
|---|---|---|---|
| 美術論 | ２単位 | S(4) | 2×4＝8 |
| 英語中級Ⅰ | ２単位 | C(1) | 2×1＝2 |
| 美術・工芸特別講義 | １単位 | B(2) | 1×2＝2 |
| 写真 | ４単位 | A(3) | 4×3＝12 |
| 広告論 | ２単位 | D(0) | 2×0＝0 |
| | ①11単位 | | ②24 |

GPA＝②÷①　→　24÷11＝2.18

# 8-3 成績の見方




# 8-4 成績通知

成績は、パレットの「成績照会」機能から確認してください。また、特別な事情による申し出のない限り、本学規定に基づき、学生本人の承諾を得たものとみなし、パレットにて前期は9月上旬、後期は2月下旬頃に保証人に通知します。

＊保証人には、あらかじめ専用のパレットのID・パスワードを通知し、各自でパレットにログインをして確認してもらいます。

# 8-5 成績評価に対する異議申立て

シラバス等により学生に周知している達成目標及び成績評価の方法に照らして明らかに成績が誤りであると思う場合は、教務部長に対し異議を申立てることができます。

次の要領で手続きを行ってください。

**手続き方法等**

⑴ 異議申立期間は、当該科目の成績開示日から３日以内（日曜日、土曜日及び祝祭日は含めない）です。

⑵ 「成績評価についての異議申立書」はパレット－お役立ち情報－各種書式 よりダウンロードできます。所要事項を記入し、添付書類とともに期限内に教務課へ提出してください。担当教員への直接の異議申立ては認めません。

**※添付書類に、異議申立内容の根拠について示されていないもの、不備のあるものは受け付けできません。また、異議ではなく「お願い」は受け付けできません。**

⑶ 異議申立書を受理した日から原則として２週間以内に、当該異議申立の結果を文書で回答します。

⑷ 成績評価に対する異議申立て期間等に関する詳細については、各学期の成績通知時にパレットに掲示します。

## 8-6 留年

進級要件を満たさなかった者及び第４学年終了時に卒業要件を満たさなかった者は、留年になります。また、休学等により所属年次における在学期間が１年に満たない者は、留年になります。

## 8-7 履修指導

それぞれの志向や進路希望に応じて、入学時から段階的、系統的に履修できるよう適切な助言・指導を行うため、ホームルーム編成を行います。みなさんの希望や必要に応じて随時履修指導を行いますので、ホームルーム担任に相談してください。

なお、教務課においても相談に応じます。履修登録、成績通知時はもちろん、心配な点や疑問点は気軽に相談してください。

| | |
|---|---|
| 事務局窓口対応時間 | 8：30 ～ 17：00 |
| メール | gakumu@nagaoka-id.ac.jp |
| 電話 | 0258－21－3351 |

※土曜・日曜・祝日・校舎閉鎖日は終日窓口業務および電話対応は行っていません。

## 8-8 授業評価アンケート

履修している授業について、授業の理解度や興味・関心、また、授業の改善点、要望などを学生の目線にて率直に把握するために、各学期末に科目ごとに授業評価アンケートを実施しています。

学生のみなさんの声が、よりよい授業運営につながりますので、必ず回答してください。

回答はパレットの「授業評価アンケート」にて、行ってください。

（その他、科目により回答方法が異なる場合は別途パレットにて連絡します）

# 9 各種制度について

## 9-1 転学科制度

本学内において他の学科への転学科を志願する者は、教授会において選考の上、学長が転学科を許可することがあります〔学則第40条〕。転学科試験の詳細については「転学科試験実施要領」（８月頃パレットに掲載）で確認してください。

**出願資格**

本学に在籍し、在学年限内に卒業が可能な者。

**日程**

出願期間　　１月上旬頃～２月中旬頃
審　　査　　２月下旬頃
発　　表　　３月中旬頃

**出願書類**

① 転学科願（現在所属している学科長及び希望学科の学科長に事前相談（転学科後の履修計画等）を行い、相談者の欄に確認印をもらうこと）
② 転学科志望理由書
③ 転学科受験料納付書
④ 受験料2,000円

**審査方法**

書類審査および面接試験

**転学科の時期**

審査を受けた年度の次年度４月１日から

**転学科後の配属年次及びカリキュラム年度**

「第２学年」に配属します。このため、実質的な学年が下がり、４年間での卒業が不可能となる場合があります。カリキュラム年度は転学科先の第２学年のものが適用されます。

**他学科専門教育科目の履修**

転学科を志願する者は、授業を開講する学科の学科長の許可があった場合、他学科の専門教育科目を履修することができます。履修については、事前に希望学科の学科長または教務課に相談してください。

**既修得単位の取り扱い**

転学科の許可を受けた者が既に修得した単位は、転学科実施要領に基づいて単位の読み替えを行いますが、読み替えできない科目については自由選択科目として取り扱います。

## 9-2 既修得単位認定

本学において教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に他の大学または短期大学等において履修し、修得した単位（科目等履修生の規定により修得した単位を含む）と入学後、他大学等において修得し、本学において修得したものとみなされた単位数と合わせて60単位を限度として、本学において修得した単位（「認」）とみなすことができます。〔学則第35条〕

入学前に修得した単位を有し、かつ認定を希望する者は、入学年度の４月中に、修得単位を示す成績証明書等の資料を添え、既修得単位認定願を教務課に提出してください。

# 9-3 資格取得等による単位の認定

**●TOEICスコア**

TOEIC 及びTOEIC-IP（長岡造形大学を通して受験したもの）のスコアにより、英語科目の単位を本学において修得したものとみなすこと（「認」）ができます。

**TOEICスコア及び認定単位数**

2014～2022年度入学者

| TOEICスコア | 認定科目 | 認定単位数 |
|---|---|---|
| 600点以上 | 英語上級Ⅰおよび英語上級Ⅱ | 4単位 |

2023年度以降入学者

| TOEICスコア | 認定科目 | 認定単位数 |
|---|---|---|
| 650点以上 | 英語アドバンスⅠおよび英語アドバンスⅡ | 4単位 |

TOEIC スコアによる単位の認定を希望する者は、Educational Testing Service が発行するTOEIC スコアの公式認定証（原本）又は、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会が発行する「Institutional Program（IP）online Result」のコピーを添え、TOEICスコアによる単位認定願を下記の受付期間内に教務課に提出してください。（ただし、申請締切日より遡って２年以内のものに限る。）

**受付期間**

前期　4月1日～4月30日　　後期　9月1日～9月30日

**●測量士補**

国土交通省国土地理院が所管する国家資格、「測量士補」として登録していることによって、建築・環境デザイン学科の専門教育科目、「測量学実習」（２単位）を本学において修得したものとみなすこと（「認」）ができます。

単位認定を希望する者は、資格の取得及び「測量士補」として登録していることを証明する書類を添え、「測量士補登録による単位認定願」を下記の受付期間内に教務課に提出してください。

**受付期間**

4月1日～5月31日

# 9-4 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて

本学では、全学的な教養教育の一つとして数理・データサイエンス・AIに関する内容を学べる科目群を令和５年度からプログラムとして位置付けています。

このプログラムは、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を目指します。（令和６年度申請予定）

※当該科目の履修には特別な手続きはありません。なお、全てのプログラム対象科目（その他を除く）を履修・修得した場合には、本学が独自にプログラム修了を認定します。

**●プログラムの目的**

・デザイナーやアーティストにとって、様々なテクノロジーの移り変わりにアンテナを張り、リサーチし、自身の考えを述べられるスキルは必須のリテラシーとなりうること。
・近年のAIをはじめとするテクノロジーの可能性を社会に広く伝え、起こり得る危険性を提示し、エンジニアや研究者と議論できることがデザイナー・アーティストにとって大きな武器になるうること。

・多様なテクノロジーをテーマにした魅力的な作品に対して、活用された技術、提起された問い、デザイナーの役割等を理解すること。

**●プログラム内容**

| 区分 | 主な内容 | 対象科目 |
|---|---|---|
| 社会におけるデータ・AI利活用 | ・社会で起きている変化<br>・社会で活用されているデータ<br>・データ・AIの活用領域<br>・データ・AI利活用のための技術、現場、最新動向 | AI・データサイエンス概論 |
| データリテラシー | ・データを読む、説明する、扱う | 統計学 |
| データ・AI利活用における留意事項 | ・データ・AIを扱う上での留意事項 | AI・データサイエンス概論 |
| | ・データを守る上での留意事項 | 情報リテラシー<br>情報リテラシー論 ＊ |
| その他（任意） | ・アルゴリズム基礎、データ構築とプログラミング基礎 | プログラミングⅠ・Ⅱ ＊ |
| | ・テキスト解析、画像解析 | AI・データサイエンス概論 |

＊令和５（2023）年度以降入学者カリキュラムで開講する科目

# 9-5 本学以外での学修

本学において教育上有益と認めるときは、他の大学・短期大学・高等専門学校との協議に基づき、他大学または短期大学における授業科目を履修することができます。これにより、履修した授業科目について修得した単位については、教授会の議を経て、60単位を限度として本学において修得した単位とみなすことができます。〔学則第33・34条〕

本学では、これに基づき以下の制度により本学以外で学修することができます。

**●単位互換制度**

本学は長岡技術科学大学、長岡大学、長岡崇徳大学、長岡工業高等専門学校、新潟工科大学、放送大学と単位互換協定を締結しており、それぞれの大学等の授業科目を履修することができます。これにより、履修にかかる入学金、授業料等は免除されます。

いずれの大学等において修得した単位も、本学の規定の範囲内で本学における履修とみなすこと（「認」）ができますが、認定される区分・単位数等の取り扱いは異なる場合があります。

履修を希望する場合は、パレットでの募集案内に従い、事務局にて所定の手続きをしてください。

| 大学名 | 授業科目の特徴 | 募集時期 |
|---|---|---|
| 長岡技術科学大学 | 教養科目、工学系専門科目 | ３月頃・８月頃 |
| 長岡大学 | 教養･語学科目､経営･経済系専門科目 | ３月頃・８月頃 |
| 長岡崇徳大学 | 看護系専門科目 | ３月頃・８月頃 |
| 長岡工業高等専門学校 | 工学系専門科目 | ３月頃・８月頃 |
| 新潟工科大学 | 教養科目､工学･建築系専門科目 | ３月頃・８月頃 |
| 放送大学 | 広く教養科目 | １月頃・７月頃 |

**※放送大学については、授業料が必要となりますが、単位を修得した場合は、奨学金として相当額を本学より支給します。**

**●留学**

海外留学を希望する学生は、学長の許可を得て、留学することができます。〔学則第41条〕

本学は、デザイン分野を専門とする海外の大学と提携し、大学間の交流協定に基づき、留学をすることができます。留学を希望する場合は、履修科目や取り組み内容等についての相談・手続きに時間を必要としますので、早期に教務課に相談してください。

その他、短期留学以外にも、興味に応じて海外提携大学の短期プログラム（サマースクールやワークショップ）に参加することもできます。

また、海外提携大学との交流事業等を対象に、渡航費用の１/２の額（上限10万円）を給付する国際交流事業支援奨学金制度を設けています。海外で有意義な活動をするために活用してください。詳細は教務課に相談してください。

### 海外提携大学

| 提携大学 | 国 | 主な交流内容 |
|---|---|---|
| トリアー応用科学大学 | ドイツ | 交換留学プログラム（学部・大学院）※ |
| ノリッチ芸術大学 | イギリス | ワークショップ |
| ハワイ大学建築学部 | 米国 | ワークショップ |
| 漢陽大学 | 韓国 | 交換留学プログラム（大学院）<br>サマースクール |
| 東西大学 | 韓国 | 交換留学プログラム（大学院） |
| 大同大学 | 台湾 | － |
| 濰坊学院 | 中国 | － |

### ※トリアー応用科学大学との交換留学プログラム

本学は、2018年に長岡市の姉妹都市であるトリアー市にあるトリアー応用科学大学と交流協定を締結し、学生の受入・派遣を行う交換留学プログラムを実施しています。

交換留学プログラムを通して、建築、インテリア、ファッション、インターメディアコミュニケーションデザイン、ジュエリーなどの専門性をもつトリアー応用科学大学にて授業の受講や研究制作に取り組むことができます。

前期・後期に派遣学生の募集を行いますので、希望する学生は教務課に申し出てください。

- 交換留学期間は、前期（３月下旬～７月下旬）、後期（９月下旬～１月下旬）または全期となります。
- 学部生・大学院生ともに対象とし、出願には英語によるポートフォリオをはじめとする書類の提出が必要です。提出書類に基づく選考により、派遣の可否（若干名）を決定します。

出願書提出 締切

| 留学期間 | 出願書類提出締切 | 派遣可否の通知 |
|---|---|---|
| 前期 | 10 月 15 日 | 12 月頃 |
| 後期 | 4 月 15 日 | 6 月頃 |

- トリアー応用科学大学への授業料、入学料の納付は免除されます。ただし、現地での居住費等が必要です。
- トリアー応用科学大学の授業や研究指導は英語及びドイツ語となります。
  留学生向けに、各学科では英語のみで実施する授業を数多く開講しています。
- 交換留学期間中の本学科目の履修については、進級・卒業に関わる場合がありますので、綿密な学修計画を立てる必要があります。

授業･私用によらず、すべての海外渡航において、渡航前に以下のとおり準備してください。

1．外務省海外安全ホームページ で渡航先の国・地域の危険レベルを確認し、渡航を検討
※長岡造形大学では、レベル２「不要不急の渡航は止めてください」以上の場合は原則渡航禁止

2．たびレジ（外務省　海外安全情報通信サービス）に登録する
※たびレジに登録すると、外務省から各地域の最新の安全情報がメール配信されます。
※３か月以上滞在する場合は、住所又は居所が定まってから「在留届」を提出（外務省へ）

3．渡航先の在外公館連絡先を確認する

4．海外留学保険または海外旅行保険に加入する
※十分な補償内容か各自確認すること
※留学または国際交流支援奨学金の給付による渡航の場合は、本学が指定する留学生危機管理サービス（OSSMA Plus）への加入が必須となります。

5．渡航先、渡航日程、保険内容等については必ずご家族と共有する
※不明点、心配事があれば教務課へ相談すること

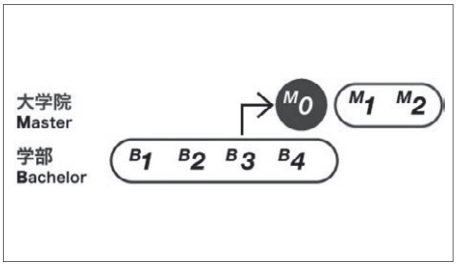
## 9-6 学修度チェック

就職・進学など卒業後の進路決定を控える３年生に対して、３年次終了時点での自らの実力を確認し、就職試験や大学院受験において必要な準備を進める機会として「学修度チェック」を実施します。自らの進路に対しての意識を高めてもらう機会として位置づけていますので、ぜひ活用してください。

学修度チェックの結果は、本学大学院への進学における「３on３制度」による「Ｍ０（エムゼロ）認定」に利用します。これは、「一定水準」を満たす学生を対象に学部４年次を修士課程０年次（＝Ｍ０）として認定し、修士課程の基礎科目の先行受講を認めることで修士課程期間を実質３年間として取扱うものです。

また、Ｍ０として認定を受けた学生が大学院に進学する場合には「３on３入学試験」を利用することができ、意欲のある学生の進学を後押しする制度です。

＊学修度チェックの結果は、成績や卒業に影響を与えるものではありません。
＊修士課程の基礎科目については、大学院履修ガイドを確認してください。



3on3制度によるM0認定のイメージ

**学修度チェックの項目**

**①通算 GPA**
学部１年前期～３年後期までの通算 GPA を確認します。

**② TOEIC IP テストの実施**
１月下旬に本学にて３年生の希望者が受験します。（受験料は大学が負担します）

**③ポートフォリオの提出**
自らの活動・成果をまとめ、自己アピールするためのポートフォリオの制作について、提出状況を確認します。（各学科の授業内で確認を行います）

**学修度チェックによるM０認定基準**

以下の基準を全て満たす場合、Ｍ０として認定します。

| 項目 | 基準 | 基準の根拠 |
|---|---|---|
| 通算 GPA | 2.5 以上 | 授業の達成目標を達成したと認められる水準 |
| TOEIC スコア | TOEIC L&Rテスト 400点以上 注) | 本学の大学院で研究活動を始めることができる水準 |
| ポートフォリオ | 提出し､かつ指導教員が認める内容であること | 就職・進学における十分な内容のポートフォリオであるか |

注）３年生４月～１月に取得した公式TOEICスコア、又は、３年生７月下旬／１月下旬に本学で実施するTOEIC IPテストスコアが対象です。３年生１月下旬のTOEIC IPテスト以外のスコアを使用してＭ０認定を希望する場合は、スコアを証明する公式書類を添えて、３年生１月末までに教務課に申し出てください。

＊Ｍ０認定を受けたことが卒業を約束するものではありませんので、注意してください。

**学修度チェックの結果について**

学修度チェックの結果は、チェック項目に照らし各自で確認することができます。

また、Ｍ０認定を受けた学生は、４年次前期に修士課程の基礎科目群の授業を受講することができます。（Ｍ０認定者には別途通知をします）

なお、先行して受講した授業の単位は本学大学院修士課程入学後に、修士課程１年前期に修得したものとして認定します。

## 9-7 学芸員課程履修者以外の学芸員科目履修

学芸員課程履修者以外も学芸員課程科目を履修することができます。

**対象者**

学部第３学年～第４学年

**履修を認める科目**

学芸員科目として開講している科目のうち、以下の７科目とし、いずれも卒業・進級要件には含まれないものとします。

・生涯学習概論（２単位）　・博物館展示論（２単位）　・博物館経営論（２単位）
・博物館情報・メディア論（２単位）　・博物館資料論（２単位）　・博物館教育論（２単位）
・博物館資料保存論（２単位）

**定員**

各科目15名とします。

定員を超えて応募があった場合は第４学年を優先し、履修実績等を加味して決定します。

**履修方法**

前期履修登録時期に教務課に受講届を提出する必要があります。

**受講料**

履修者決定後、履修者は受講料10,000円を納入してください。

受講料は科目数にかかわらず一律とし、履修学年が第３学年～第４学年の２年間に渡った場合でも10,000円とします。

# 10 資格について

### 学芸員資格

**全　学　科**

本学の学生は学芸員資格取得に必要な科目を履修することにより卒業と同時に学芸員の資格が取得できます。

履修の詳細については、「7-8 学芸員課程の履修」(58ページ) を参照して下さい。

また、学芸員課程履修者以外で学芸員の資格認定を希望する者は、本学を卒業した後、文部科学省が実施する試験認定を受験することができます。筆記試験に合格し、１年間学芸員補の職に従事した後に資格が認定されます。本学にて学芸員課程の科目の単位を修得している場合は、該当する試験科目が免除されます。詳しくは教務課まで問い合わせてください。

### 教員免許

**美術・工芸**

美術・工芸学科の教育課程を修了し、教員免許状取得に必要な科目を修得した者は、次の教員免許を取得することができます。

・中学校教諭一種免許状 (美術)
・高等学校教諭一種免許状 (美術)
・高等学校教諭一種免許状 (工芸) ※2018年度入学者まで対象

履修の詳細については、「7-9 教職課程の履修」(60ページ) を参照して下さい。

### 技術検定受験資格

**建築・環境**

技術検定とは、土木工事等の建設業の施工管理等に係る国家試験を取得するための検定で、以下の７種目があります。

| 検定種目 | 試験実施機関 |
|---|---|
| 建設機械施工管理 | (一社) 日本建設機械施工協会 |
| 土木施工管理 | (一財) 全国建設研修センター |
| 建築施工管理 | (一財) 建設業振興基金 |
| 電気工事施工管理 | (一財) 建設業振興基金 |
| 電気通信工事施工管理 | (一財) 全国建設研修センター |
| 管工事施工管理 | (一財) 全国建設研修センター |
| 造園施工管理 | (一財) 全国建設研修センター |

建築・環境デザイン学科は指定学科であり、受験時における実務経験年数が短縮されます。詳しくは、試験実施機関に確認してください。

### 商業施設士受験資格

**建築・環境**

本学は、公益社団法人商業施設技術団体連合会より商業施設士試験受験資格認定課程として認定されています。これにより、商業施設士及び商業施設士補の資格取得に必要な事項が軽減されます。

●商業施設士

本学教育課程の修了・卒業により、商業施設士試験の受験資格である実務経験年数が1年以上に短縮されます。

●商業施設士補

本学が認定を受けている科目を、必要単位数以上修得又は修得見込みであり学長の推薦を受けたものは、公益社団法人商業施設技術団体連合会が実施する商業施設士補の講習会を受講することができます。講習会を受講することにより、商業施設士補の資格を取得することができます。

また、商業施設士補の資格を取得した場合は、商業施設士試験の学科試験が免除され、さらに実務経験なしで実技試験を受験することができます。

第3学年までに商業施設士補の資格を取得し、翌年の商業施設士試験に合格した場合、在学中に商業施設士の資格が取得できます。

認定科目及び必要単位数の詳細は次の「商業施設士補認定科目・単位数」を確認してください。

## 商業施設士(補)認定科目・単位数 (2018～2022年度入学者)

【A　群】

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | | 開講学年・学期 | | | | | | | | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | |
| | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| A-1<br>商業一般 | 商業一般に関する科目 | マーケティング論 | | 2 | | | | ■ | | | | | 2区分以上にわたり計30単位以上 |
| | | 商品記号論 | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| | | デザインマネジメント | | 2 | | | | | | ■ | | | |
| A-2<br>業態計画 | 商業施設の構成に関する科目 | 建築・環境デザイン特別講義 | 1 | | | | | ■ | | | | | |
| | | プロダクトデザイン特別講義 | | 1 | | | ■ | | | | | | |
| A-3<br>計画一般 | 商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目 | 建築・環境デザイン演習Ⅰ | 4 | | | ■ | | | | | | | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅱ | 4 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 空間安全論 | | 2 | | | ■ | | | | | | |
| | | インテリア | | 2 | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築法規 | | 2 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築・インテリア演習Ⅰ | | 4 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築設備 | | 2 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築設計 | | 2 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築・インテリア演習Ⅱ | | 4 | | | | | | ■ | | | |
| A-4<br>施設計画 | 建築一般に関する科目 | 建築構法 | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | | 建築計画Ⅰ | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築材料実験 | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築計画Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| | | 建築史 | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| | | 建築環境工学 | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| A-5<br>監理・施工 | 商空間の工事監理・施工に関する科目 | 建築構造 | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | | 構造力学Ⅰ | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | | 建築材料 | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | | 構造力学Ⅱ | | 2 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築施工 | | 2 | | | | | | ■ | | | |

【B　群】

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | | 開講学年・学期 | | | | | | | | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | |
| | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| B-1<br>図案表現 | 設計・製図・CAD・CGなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目 | 製図実習 | 2 | | ■ | | | | | | | | 4単位以上 |
| | | 建築・環境CAD実習 | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | | 基礎造形実習Ⅰ（デザイン） | 2 | | ■ | | | | | | | | |

＊2014年度以降入学者から商業施設士補の資格取得対象は、建築・環境デザイン学科のみとなりました。

## 商業施設士(補)認定科目・単位数（2023年度以降入学者）

【A　群】

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | | 開講学年・学期 | | | | | | | | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | |
| | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| A-1<br>商業一般 | 商業一般に関する科目 | マーケティング論 | | 2 | | | | ■ | | | | | 2区分以上にわたり計30単位以上 |
| | | デザイン思想論 | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| A-2<br>業態計画 | 商業施設の構成に関する科目 | 建築・環境デザイン特別講義 | 1 | | | | | ■ | | | | | |
| | | デザイン特別講義 | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| A-3<br>計画一般 | 商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目 | 建築・環境デザイン演習Ⅰ | 4 | | | ■ | | | | | | | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅱ | 4 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 空間安全論 | | 2 | | | ■ | | | | | | |
| | | インテリア | | 2 | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅳ | 4 | | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築法規 | 2 | | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築設備 | | 2 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築設計 | | 2 | | | | | ■ | | | | |
| | | 建築・環境デザイン演習Ⅴ | 4 | | | | | | | ■ | | | |
| A-4<br>施設計画 | 建築一般に関する科目 | 建築構法 | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | | 建築計画Ⅰ | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築史Ⅰ | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築材料実験 | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 建築環境工学 | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | | 建築計画Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| A-5<br>監理・施工 | 商空間の工事監理・施工に関する科目 | 建築構造 | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | | 構造力学Ⅰ | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | | 建築生産論 | | 2 | | | | ■ | | | | | |
| | | 構造力学Ⅱ | | 2 | | | | | ■ | | | | |

【B　群】

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | | 開講学年・学期 | | | | | | | | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | |
| | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| B-1<br>図案表現 | 設計・製図・CAD・CGなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目 | 基礎造形演習 | 12 | | ■ | | | | | | | | 4単位以上 |
| | | 製図実習 | 2 | | ■ | | | | | | | | |
| | | コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| B-2<br>文章表現 | 商業施設の構成に関する科目 | メディアビジネス概論 | | 2 | | | ■ | | | | | | |

## 登録ランドスケープアーキテクト（RLA）

**建築・環境　ランドスケープ系研究室**

登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格制度とは、ランドスケープアーキテクトとして実務を遂行するために必要な「一定の知識と技量からなる能力」を試し、個人を登録ランドスケープアーキテクト（RLA）として認定する制度です。

建築・環境デザイン学科のランドスケープ系研究室に所属し卒業した場合に、資格認定試験受験資格となる実務経験年数が３年以上に短縮されます。

## インテリアプランナー登録資格

**建築・環境**

本学建築・環境デザイン学科は、公益財団法人建築技術教育普及センターの定めるインテリア又は建築に関する課程で「個別に認められている課程（認定基準Ⅰ）」として認められています。

インテリアプランナー試験（IP試験）に合格し、必要実務経験年数を満たした場合、インテリアプランナー登録を受けることができます。

本学教育課程を修了し卒業することにより、登録に必要な実務経験年数が不要（０年）となります。

## 建築士受験資格

**建築・環境**

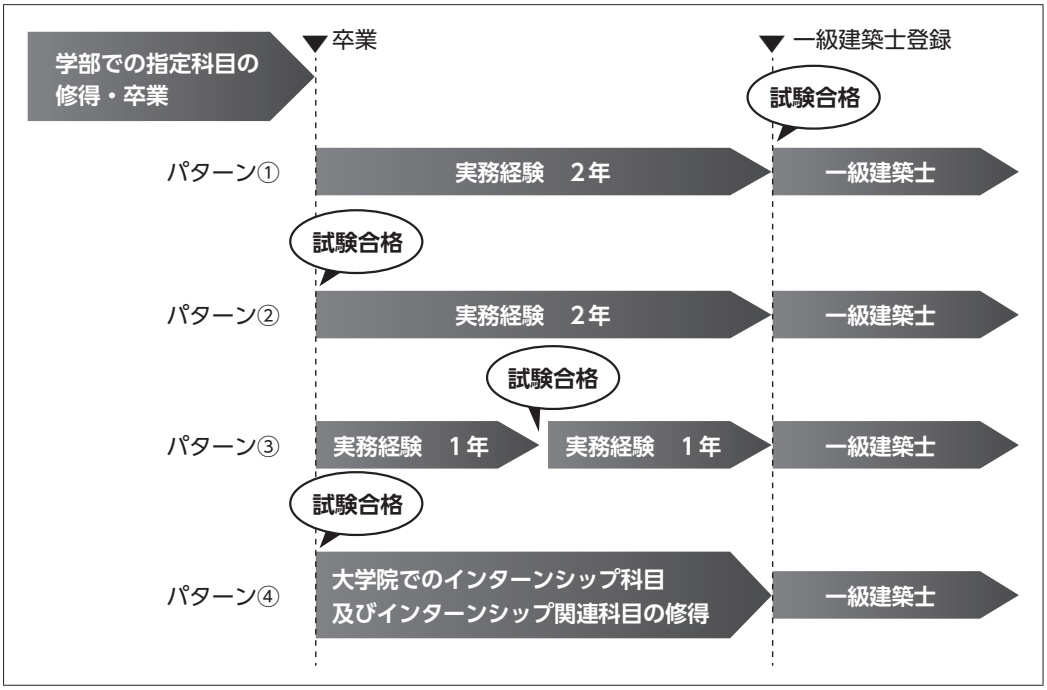
建築・環境デザイン学科の学生は建築士試験指定科目を修得することにより、建築士試験の受験資格を得ることが出来ます。修得した単位数によって受験可能な資格や卒業後に必要となる実務経験の年数が異なります。

建築士法の一部を改正する法律の施行（令和２年３月１日）により、所定の指定科目を修めて卒業する者には、卒業後すぐに「二級・木造建築士試験」に加えて、「一級建築士試験」も受験可能となりました。

また、本学大学院に進学した場合、修士課程で開講しているインターンシップ科目及びインターンシップ関連科目を修得することにより、建築士免許登録要件に必要な実務経験として認められます。

学部卒業後に試験受験・合格し、大学院修士課程で実務経験を積むことにより、最短で修士課程修了時に、「一級建築士」免許の登録が可能となります。

〈一級建築士登録のモデルケース〉




建築士受験資格の取得には「建築士受験資格指定科目」(81ページ、82ページ) に記載する①～⑨までの各区分の必要単位数の修得と、①～⑨及び⑩の合計の必要単位数の修得の両方の要件を満たすことが必要になります。(必要経験年数と必要単位数は下表のとおり)

**必要経験年数と必要単位数**

| 指定科目 | 一級建築士試験 | | | 二級・木造建築士試験 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①建築設計製図 | 7単位 | 7単位 | 7単位 | 3単位 | 3単位 | 3単位 |
| ②建築計画 | 7単位 | 7単位 | 7単位 | 2単位 | 2単位 | 2単位 |
| ③建築環境工学 | 2単位 | 2単位 | 2単位 | | | |
| ④建築設備 | 2単位 | 2単位 | 2単位 | | | |
| ⑤構造力学 | 4単位 | 4単位 | 4単位 | 3単位 | 3単位 | 3単位 |
| ⑥建築一般構造 | 3単位 | 3単位 | 3単位 | | | |
| ⑦建築材料 | 2単位 | 2単位 | 2単位 | | | |
| ⑧建築生産 | 2単位 | 2単位 | 2単位 | 1単位 | 1単位 | 1単位 |
| ⑨建築法規 | 1単位 | 1単位 | 1単位 | 1単位 | 1単位 | 1単位 |
| ①～⑨の計 (a) | 30単位 | 30単位 | 30単位 | 10単位 | 10単位 | 10単位 |
| ⑩その他 (b) | 適宜 | 適宜 | 適宜 | 適宜 | 適宜 | 適宜 |
| (a) + (b) | 60単位 | 50単位 | 40単位 | 40単位 | 30単位 | 20単位 |
| 必要な実務経験年数 | 2年 | 3年 | 4年 | 0年 | 1年 | 2年 |

公益財団法人　建築技術教育普及センター　ホームページより抜粋

＊建築士法の一部を改正する法律の施行により、二級・木造建築士試験の指定科目に対する必要単位数が変更となり、大幅に緩和されました。

## 建築士受験資格指定科目（2018～2022年度入学者）

| 区分 | 科目名 | 単位数 | | 履修学年 | | | | | | | | 一級建築士受験必要単位数 | 二級・木造建築士受験必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | |
| | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| ① | 製図実習 | 2 | | ■ | | | | | | | | 7単位以上 | 3単位以上 |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅰ | 4 | | | ■ | | | | | | | | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅲ | 4 | | | | | ■ | | | | | | |
| | 建築設計 | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| ② | 建築計画Ⅰ | 2 | | | | ■ | | | | | | 7単位以上 | 2単位以上 |
| | 都市計画 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 建築計画Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 建築史 | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| ③ | 建築環境工学 | 2 | | | | | ■ | | | | | 2単位 | |
| ④ | 建築設備 | | 2 | | | | | ■ | | | | 2単位 | |
| ⑤ | 構造力学Ⅰ | 2 | | | | | ■ | | | | | 4単位 | 3単位以上 |
| | 構造力学Ⅱ | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| ⑥ | 建築構法 | 2 | | | ■ | | | | | | | 3単位以上 | |
| | 建築構造 | 2 | | | | | ■ | | | | | | |
| ⑦ | 建築材料 | 2 | | | | | ■ | | | | | 2単位以上 | |
| | 建築材料実験 | 2 | | | | ■ | | | | | | | |
| ⑧ | 住宅リフォーム論 | | 2 | | | ■ | | | | | | 2単位以上 | 1単位以上 |
| | 建築施工 | | 2 | | | | | | ■ | | | | |
| ⑨ | 建築法規 | | 2 | | | | | ■ | | | | 1単位以上 | 1単位以上 |
| ⑩ | 建築・環境ＣＡＤ実習 | 2 | | | ■ | | | | | | | 【受験に必要な単位数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が40単位以上<br><br>【免許登録に必要な実務経験年数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が<br>60単位以上の場合：2年<br>50単位以上の場合：3年<br>40単位以上の場合：4年 | 【受験に必要な単位数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が20単位以上<br><br>【免許登録に必要な実務経験年数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が<br>40単位以上の場合：0年<br>30単位以上の場合：1年<br>20単位以上の場合：2年 |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅱ | 4 | | | | ■ | | | | | | | |
| | 空間安全論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 測量学実習 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 建築・環境ＣＧ実習Ⅰ | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 緑地環境設計 | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 建築・環境ＣＧ実習Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | エコロジカルプランニング | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | コミュニティデザイン | | 2 | | | | | | ■ | | | | |
| | 人間工学 | | 2 | | ■ | | | | | | | | |
| | 建築・環境デザイン概論 | 2 | | | ■ | | | | | | | | |
| | 都市論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | インテリア | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 緑地環境計画 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 都市デザイン | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 居住論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 建築・環境デザイン特別講義 | 1 | | | | | ■ | | | | | | |

## 建築士受験資格指定科目（2023 年度以降入学者）

| 区分 | 科目名 | 単位数 | | 履修学年 | | | | | | | | 一級建築士受験必要単位数 | 二級・木造建築士受験必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | | |
| | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| ① | 製図実習 | 2 | | ■ | | | | | | | | 7 単位以上 | 3 単位以上 |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅰ | 4 | | | ■ | | | | | | | | |
| | 建築・環境デザイン演習Ⅱ | 4 | | | | ■ | | | | | | | |
| | 建築設計 | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| ② | 建築計画Ⅰ | 2 | | | | ■ | | | | | | 7 単位以上 | 2 単位以上 |
| | 建築史Ⅰ | 2 | | | | ■ | | | | | | | |
| | 建築計画Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 建築史Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| ③ | 建築環境工学 | 2 | | | | | ■ | | | | | 2 単位 | |
| ④ | 建築設備 | | 2 | | | | | ■ | | | | 2 単位 | |
| ⑤ | 構造力学Ⅰ | 2 | | | | | ■ | | | | | 4 単位 | 3 単位以上 |
| | 構造力学Ⅱ | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| ⑥ | 建築構法 | 2 | | | ■ | | | | | | | 3 単位以上 | |
| | 建築構造 | 2 | | | | ■ | | | | | | | |
| ⑦ | 建築材料実験 | 2 | | | | ■ | | | | | | 2 単位以上 | |
| ⑧ | 建築生産論 | | 2 | | | | ■ | | | | | 2 単位以上 | 1 単位以上 |
| | リノベーションデザイン論 | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| ⑨ | 建築法規 | 2 | | | | | | ■ | | | | 1 単位以上 | 1 単位以上 |
| ⑩ | 建築・環境デザイン概論 | 2 | | | ■ | | | | | | | 【受験に必要な単位数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が 40 単位以上<br><br>【免許登録に必要な実務経験年数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が<br>60 単位以上の場合：2 年<br>50 単位以上の場合：3 年<br>40 単位以上の場合：4 年 | 【受験に必要な単位数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が 20 単位以上<br><br>【免許登録に必要な実務経験年数】<br>①～⑨の必要単位数の条件を満たし、<br>①～⑩の合計単位数が<br>40 単位以上の場合：0 年<br>30 単位以上の場合：1 年<br>20 単位以上の場合：2 年 |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | | ■ | | | | | | | | |
| | 建築・環境表現 | 6 | | | ■ | | | | | | | | |
| | 人間工学 | | 2 | | ■ | | | | | | | | |
| | 建築・環境デザイン論 | 1 | | | | ■ | | | | | | | |
| | 建築・環境 CG 実習Ⅰ | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 測量学 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 緑地環境計画 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | インテリア | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 空間安全論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 都市計画・まちづくり | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 文化財学概論 | | 2 | | | ■ | | | | | | | |
| | 建築・環境デザイン特別講義 | 1 | | | | | ■ | | | | | | |
| | 緑地環境設計 | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 居住論 | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | 建築・環境 CG 実習Ⅱ | | 2 | | | | ■ | | | | | | |
| | エコロジカルプランニング | | 2 | | | | | ■ | | | | | |
| | コミュニティデザイン | | 2 | | | | | | ■ | | | | |

# 11 各種同意事項について

本学での修学において、あらかじめ学生が同意している事項について、各種同意書の内容を示しますので確認してください。

### ● 学則及び諸規程の遵守について〔誓約書〕

貴学に入学のうえは、学則及び諸規程を遵守するとともに専心勉励し、長岡造形大学の学生としての本分を全うすることを誓います。

### ● 個人情報及び肖像権の取り扱い並びに作品の使用について〔同意書〕

私は、私の個人情報、肖像権及び作品の使用について公立大学法人長岡造形大学及び長岡造形大学（以下「本法人等」という。）が以下の行為を行うことに同意します。

１．個人情報の使用目的について

本法人等は、学生から取得する個人情報を次に掲げる目的で使用します。学生の同意を得ることなく、次に掲げる目的以外に、保有する学生の個人情報を使用しません。

⑴ 履修、成績管理、授業運営等大学教育、研究及び学修支援を実施するため
⑵ 学籍管理、進路指導、進路支援、健康管理、奨学金等学生支援に関する業務を実施するため
⑶ 各種証明書発行、学費収納及び謝金支払等の業務を実施するため
⑷ 入学式、学位記授与式等大学行事の業務を実施するため
⑸ 大学施設や学内ネットワーク、各種 IT機器の利用等管理業務を実施するため
⑹ ホームページ・SNS・パンフレットへの掲載等本学広報業務を実施するため
⑺ 学生、保証人へ連絡、学修相談、学生支援を実施するため

２．個人情報の第三者への提示・公開について

本法人等が保有する学生の個人情報は、次に掲げる場合に第三者に提示等をします。この場合、提示等をする個人情報は、必要最小限の情報とします。

⑴ 学業成績、進級状況及び疾病、事故等の情報を保証人へ提供する場合
⑵ あらかじめ機密保持契約を締結した企業等に、本法人等が必要と判断した範囲において業務委託等のために提示する場合
⑶ 単位互換制度や大学間交流等における交流先機関へ提供する場合
⑷ 本学関連団体（校友会、保護者会等）へ提供する場合
⑸ 健康診断を実施する企業、奨学事業を実施する団体へ提示する場合
⑹ 本学学生に対する卒業後の進路情報を提示する場合
⑺ 本学学生の出身高校の教員に対する学業と進路に関する情報を提示する場合
⑻ 大学の広報としてホームページ・SNS・パンフレット等に掲載する写真・作品に付随する個人情報を掲載する場合
⑼ 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要がある場合
⑽ 法令等の定めにより個人情報の開示が求められた場合

３．肖像権の取り扱いについて（令和５年度以降）

本法人等は、入学式、学位記授与式をはじめとする大学行事や授業、研究及びそれらに関連する活動（課外活動を含む）において、次に掲げる目的の範囲内で写真や動画の撮影を行うことがあります（オンライン授業の録画を含みます）。

・学内外への周知・広報
・授業の運営、記録、成績評価及び授業改善等

写りたくないなどの個別の事情がある場合は、あらかじめ本人より申し出があった場合、その意志の尊重、配慮や撮影の工夫を行います。

4．作品の使用について

本法人等は、学生が制作する授業課題、卒業・修了研究成果またはそれに相当する特定の課題成果（以下、「学生作品」という）を次に掲げる目的で使用します。

・パンフレット等の配布物への掲載
・大学ホームページや大学公式のSNSへの掲載
・オープンキャンパス、進学相談会等本学のイベント・広報活動の場での作品の紹介
・報道機関を含む他の機関への転載（本学の広報目的であり、本学が認めた場合のみ）

なお、学生（本人）の卒業・修了後も使用します。

5．その他

学生（本人）から特別な事情で、すでに掲載された写真や動画等の削除の申し出があった場合、削除可能な広報媒体に限り、速やかに削除します。（学生作品の著作権の譲渡を行った場合には、長岡造形大学に遅延なく連絡ください。）

### ● 大学配付アカウントの利用について

本学では、入学後に学生一人ひとりにメールなどの各種アカウントを配付しています。授業、学生活動、就職活動など様々なコミュニケーションの場面で利用できます。以下の事項を遵守することで、アカウントを利用することができます。

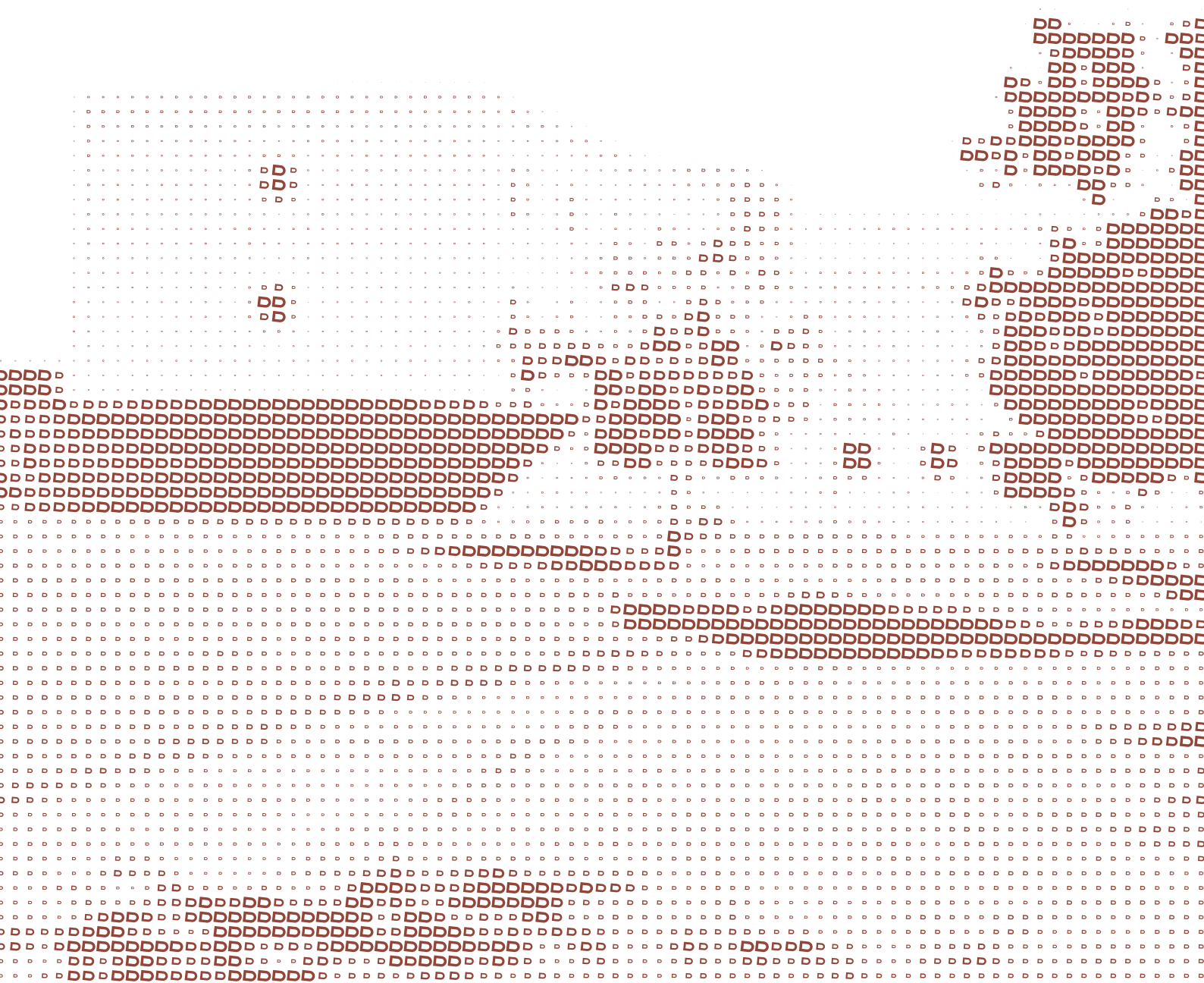
1．禁止事項

次の禁止事項に反する行為が行われた場合には、アカウントの取消しはもとより、学則に基づき処分を行うことがあります。また、その行為によって生じた損害等の責任は当該利用者に帰するものとし、損害賠償の責に任ずることとします。

・公序良俗に反する行為
・第三者に対する誹謗中傷など人権を侵害する行為
・第三者の著作権及び特許権など知的財産権を侵害する行為
・第三者に損害又は不利益を与える行為
・第三者にアカウントを再貸与又は譲渡する行為
・営利を目的とした行為
・法律に違反する、もしくはそのおそれのある行為
・本学の学業及び就職活動に関係のないWebサイト等にアカウント情報を登録する行為
・本学で使用しているパスワードをWebサイト等で使い回す行為
・その他本学が不適当と判断した行為

2．その他の使用に当たっての注意

他人から不正に利用されないよう、アカウント及びパスワードは各自で責任を持って管理してください。

公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

教務課
940-2088　新潟県長岡市千秋4丁目197番地
tel 0258-21-3351　fax 0258-21-3343
e-mail　gakumu@nagaoka-id.ac.jp
https://www.nagaoka-id.ac.jp/